

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較日本古典文学 園田 豊	2学期	2	2	1
		2年			
	比較ドイツ文学 岩本 真理子	2学期	2	2	2
		2年			
	比較美術 五月女 晴恵	1学期	2	2	3
		2年			
	比較民族学 成木 繁郎	1学期	2	2	4
		2年			
	比較中国思想 連 清吉	集中	2	2	5
		2年			
	比較ジェンダー論 吉崎 邦子	2学期	2	2	6
		2年			
	日米文化比較 十時 康	2学期	2	2	7
		2年			
	日仏文化比較 水本 弘文	2学期	2	2	8
		2年			
	日中文化比較 馬 叢慧	1学期	2	2	9
		2年			
近現代美術 花田 伸一	1学期	2	2	10	
	2年				
文化人類学 竹川 大介	2学期	2	2	11	
	2年				
情報社会論 明間 肇	集中	2	2	12	
	2年				
消費社会論	1学期	2	2	13	
	2年				
■比較文化(地域系)科目	日本文学概論(古典) 河北 靖	1学期	1	2	14
		1年			
	日本語学概論I 堀尾 香代子	1学期	1	2	15
		1年			

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本語学概論II 堀尾 香代子	2学期	1	2	16
		1年			
	日本の宗教文化 佐藤 真人	2学期	2	2	17
		2年			
	日本の芸能文化 佐藤 真人	1学期	2	2	18
		2年			
	日本の生活文化 八百 啓介	2学期	2	2	19
		2年			
	日本文学史(古典) 大場 卓也	1学期	2	2	20
		2年			
	日本の大衆文化 真鍋 昌賢	2学期	2	2	21
		2年			
	日本の古典文学I 大場 卓也	集中	2	2	22
		2年			
	日本の古典文学II 河北 靖	2学期	2	2	23
		2年			
	日本の近代文学 馬場 美佳	1学期	2	2	24
		2年			
	日本の現代文学 赤塚 正幸	1学期	2	2	25
		2年			
日本の美術 五月女 晴恵	1学期	2	2	26	
	2年				
日本の宗教と美術 五月女 晴恵	2学期	2	2	27	
	2年				
日本の都市文化 内山 一幸	2学期	2	2	28	
	2年				
日本語表現法I 加藤 宏文	1学期	2	2	29	
	2年				
日本語表現法II 加藤 宏文	2学期	2	2	30	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本語音声学I 矢野 準	1学期	2	2	31
		2年			
	日本語音声学II 矢野 準	2学期	2	2	32
		2年			
	日本の近代思想 内山 一幸	1学期	2	2	33
		2年			
	アメリカ文学概論 新村 昭雄	1学期	1	2	34
		1年			
	アメリカの現代文学 前田 譲治	2学期	2	2	35
		2年			
	アメリカの18-19世紀文学 新村 昭雄	2学期	2	2	36
		2年			
	アメリカの大衆文化 前田 譲治	2学期	2	2	37
		2年			
	アメリカの歴史と文化 前田 譲治	1学期	2	2	38
		2年			
	アメリカの歴史と社会 田宮 晴彦	1学期	2	2	39
		2年			
	アメリカ文化論 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	40
		2年			
イギリスの現代文学 高本 孝子	1学期	2	2	41	
	2年				
イギリスの大衆文化 石井有希子	2学期	2	2	42	
	2年				
イギリスの歴史と文化 高本 孝子	1学期	2	2	43	
	2年				
イギリスの歴史と社会 久木 尚志	1学期	2	2	44	
	2年				
イギリス文化論 木原 謙一	1学期	2	2	45	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	環大西洋の社会史 寺田 由美	2学期	2	2	46
		2年			
	西洋美術史 貞包 博幸	1学期	2	2	47
		2年			
	フランス文学 水本 弘文	1学期	2	2	48
		2年			
	ドイツ文化論 岩本 真理子	1学期	2	2	49
		2年			
	スペインの歴史と文化 岡住 正秀	1学期	2	2	50
		2年			
	近現代の南欧世界 岡住 正秀	2学期	2	2	51
		2年			
	ロシアの歴史と社会 芳之内 雄二	1学期	2	2	52
		2年			
	北ユーラシアの民族と社会 芳之内 雄二	2学期	2	2	53
		2年			
	英語学概論 北峯 裕士	1学期	2	2	54
		2年			
	英語音声学 山内 ひさ子	1学期	2	2	55
		2年			
英語史 松崎 徹	2学期	2	2	56	
	2年				
英文法I 田村 水幸	1学期	2	2	57	
	2年				
英文法II 野島 啓一	2学期	2	2	58	
	2年				
異文化間コミュニケーション概論 十時 康	2学期	2	2	59	
	2年				
社会言語学 平野 圭子	2学期	2	2	60	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 1 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	61
		1 - a			
	英会話・英作文 1 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	62
		1 - b			
	英会話・英作文 1 デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	1	1	63
		1 - c			
	英会話・英作文 1 ポール・ガラフ・スティー爾	1学期	1	1	64
		1 - d			
	英会話・英作文 1 ポール・ガラフ・スティー爾	1学期	1	1	65
		1 - e			
	英会話・英作文 1 アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	66
		1 - f			
	英会話・英作文 1 アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	67
		1 - g			
	英会話・英作文 1 アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	68
		1 - h			
	英会話・英作文 2 ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	69
		1 - a			
	英会話・英作文 2 ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	70
		1 - b			
英会話・英作文 2 デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	71	
	1 - c				
英会話・英作文 2 ポール・ガラフ・スティー爾	2学期	1	1	72	
	1 - d				
英会話・英作文 2 ポール・ガラフ・スティー爾	2学期	1	1	73	
	1 - e				
英会話・英作文 2 アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	74	
	1 - f				
英会話・英作文 2 アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	75	
	1 - g				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	76
		1 - h			
	英会話・英作文3 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	77
		AES 1			
	英会話・英作文3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	78
		AES 2			
	英会話・英作文3 ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	79
		2 - a			
	英会話・英作文3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	80
		2 - b			
	英会話・英作文3 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	81
		2 - c			
	英会話・英作文3 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	82
		2 - d			
	英会話・英作文4 ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	83
		AES 1			
	英会話・英作文4 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	84
		AES 2			
	英会話・英作文4 ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	85
		2 - a			
英会話・英作文4 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	86	
	2 - b				
英会話・英作文4 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	87	
	2 - c				
英会話・英作文4 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	88	
	2 - d				
英会話・英作文5 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	89	
	AES 1				
英会話・英作文5 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	90	
	AES 2				

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 6 ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	AES 1	91
	英会話・英作文 6 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	AES 2	92
	英会話・英作文 7 クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	AES	93
	英会話・英作文 7 デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	3	1	3年	94
	英会話・英作文 7 ポール・ガラフ・ステイール	1学期	3	1	3年	95
	英会話・英作文 7 三宅 啓子	1学期	3	1	3年	96
	英会話・英作文 8 クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	AES	97
	英会話・英作文 8 デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	3	1	3年	98
	英会話・英作文 8 ポール・ガラフ・ステイール	2学期	3	1	3年	99
英会話・英作文 8 三宅 啓子	2学期	3	1	3年	100	
上級英語I アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	3年	101	
上級英語II アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	3年	102	
アメリカ文化講読 江頭 理江	1学期	1	2	1年 (1 - 2、1 - 3)	103	
アメリカ文化講読 江頭 理江	2学期	1	2	1年 (1 - 1)	104	
イギリス文化講読 高本 孝子	2学期	1	2	1年 (1 - 1、1 - 3)	105	

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	イギリス文化講読 杉本 美穂	2学期	1	2	106
		1年 (1 - 2)			
	日本文化英文講読 江頭 理江	2学期	1	2	107
		1年			
	日本の文献講読 馬場 美佳	2学期	1	2	108
		1年			
	日本の古典文学講読 河北 靖	1学期	1	2	109
		1年			
フランス文化講読 水本 弘文	1学期	3	2	110	
	3年				
ドイツ文化講読 岩本 真理子	2学期	3	2	111	
	3年				
スペイン文化講読 岡住 正秀	2学期	3	2	112	
	3年				
ロシア文化講読 芳之内 雄二	1学期	3	2	113	
	3年				
■演習・卒論科目	演習 A - 1 (比較ドイツ文化) 岩本 真理子	1学期	3	2	114
		3年			
	演習 A - 1 (日本文化) 五月女 晴恵	1学期	3	2	115
		3年			
	演習 A - 1 (日本文化) 八百 啓介	1学期	3	2	116
		3年			
	演習 A - 1 (日本文化) 佐藤 真人	1学期	3	2	117
		3年			
演習 A - 1 (メディア文化) 真鍋 昌賢	1学期	3	2	118	
	3年				
演習 A - 1 (日本古典文学) 河北 靖	1学期	3	2	119	
	3年				
演習 A - 1 (日本古典文学) 園田 豊	1学期	3	2	120	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 1 (日本近代文学)	1学期	3	2	121
	赤塚 正幸	3年			
	演習A - 1 (日本近代文学)	1学期	3	2	122
	馬場 美佳	3年			
	演習A - 1 (日本語学)	1学期	3	2	123
	堀尾 香代子	3年			
	演習A - 1 (日本語教育学)	1学期	3	2	124
	小林 浩明	3年			
	演習A - 1 (アメリカ文学)	1学期	3	2	125
	新村 昭雄	3年			
	演習A - 1 (英米文学)	1学期	3	2	126
	田部井 世志子	3年			
	演習A - 1 (アメリカ文学)	1学期	3	2	127
	前田 謙治	3年			
	演習A - 1 (フランス文化)	1学期	3	2	128
	水本 弘文	3年			
	演習A - 1 (アメリカ文化)	集中	3	2	129
	寺田 由美	3年			
演習A - 1 (スペイン史)	1学期	3	2	130	
岡住 正秀	3年				
演習A - 1 (ロシア文化)	1学期	3	2	131	
芳之内 雄二	3年				
演習A - 2 (比較ドイツ文化)	2学期	3	2	132	
岩本 真理子	3年				
演習A - 2 (日本文化)	2学期	3	2	133	
五月女 晴恵	3年				
演習A - 2 (日本文化)	2学期	3	2	134	
八百 啓介	3年				
演習A - 2 (日本文化)	2学期	3	2	135	
佐藤 真人	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 2 (メディア文化) 真鍋 昌賢	2学期	3	2	136
		3年			
	演習A - 2 (日本古典文学) 河北 靖	2学期	3	2	137
		3年			
	演習A - 2 (日本古典文学) 園田 豊	2学期	3	2	138
		3年			
	演習A - 2 (日本近代文学) 赤塚 正幸	2学期	3	2	139
		3年			
	演習A - 2 (日本近代文学) 馬場 美佳	2学期	3	2	140
		3年			
	演習A - 2 (日本語学) 堀尾 香代子	2学期	3	2	141
		3年			
	演習A - 2 (日本語教育学) 小林 浩明	2学期	3	2	142
		3年			
	演習A - 2 (アメリカ文学) 新村 昭雄	2学期	3	2	143
		3年			
演習A - 2 (英米文学) 田部井 世志子	2学期	3	2	144	
	3年				
演習A - 2 (アメリカ文学) 前田 譲治	2学期	3	2	145	
	3年				
演習A - 2 (フランス文化) 水本 弘文	2学期	3	2	146	
	3年				
演習A - 2 (アメリカ文化) 寺田 由美	2学期	3	2	147	
	3年				
演習A - 2 (スペイン史) 岡住 正秀	2学期	3	2	148	
	3年				
演習A - 2 (ロシア文化) 芳之内 雄二	2学期	3	2	149	
	3年				
演習B - 1 岩本 真理子	1学期	4	2	150	
	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1	1学期	4	2	151
	五月女 晴恵	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	152
	八百 啓介	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	153
	佐藤 真人	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	154
	真鍋 昌賢	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	155
	河北 靖	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	156
	大場 卓也	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	157
	赤塚 正幸	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	158
	馬場 美佳	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	159
	堀尾 香代子	4年			
演習B - 1	1学期	4	2	160	
小林 浩明	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	161	
新村 昭雄	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	162	
田部井 世志子	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	163	
前田 譲治	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	164	
水本 弘文	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	165	
岡住 正秀	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1 芳之内 雄二	1学期	4	2	166
		4年			
	演習B - 2 岩本 真理子	2学期	4	2	167
		4年			
	演習B - 2 五月女 晴恵	2学期	4	2	168
		4年			
	演習B - 2 八百 啓介	2学期	4	2	169
		4年			
	演習B - 2 佐藤 真人	2学期	4	2	170
		4年			
	演習B - 2 真鍋 昌賢	2学期	4	2	171
		4年			
	演習B - 2 河北 靖	2学期	4	2	172
		4年			
	演習B - 2 園田 豊	2学期	4	2	173
		4年			
	演習B - 2 赤塚 正幸	2学期	4	2	174
		4年			
演習B - 2 馬場 美佳	2学期	4	2	175	
	4年				
演習B - 2 堀尾 香代子	2学期	4	2	176	
	4年				
演習B - 2 小林 浩明	2学期	4	2	177	
	4年				
演習B - 2 新村 昭雄	2学期	4	2	178	
	4年				
演習B - 2 田部井 世志子	2学期	4	2	179	
	4年				
演習B - 2 前田 譲治	2学期	4	2	180	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 水本 弘文	2学期	4	2	181
		4年			
	演習B - 2 岡住 正秀	2学期	4	2	182
		4年			
演習B - 2 芳之内 雄二	2学期	4	2	183	
	4年				
卒業論文 未定		1・2学期 (ヘア)	4	6	184
	4年				
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門1 (日本) 馬場 美佳	1学期	1	2	185
		1年			
	比較文化入門2 (欧米) 芳之内 雄二	2学期	1	2	186
		1年			
■概論科目	比較文学概論 田部井 世志子	2学期	1	2	187
		1年			
	メディア文化概論 真鍋 昌賢	1学期	1	2	188
		1年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	189
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	190
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	191
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	192
		2年			
発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	193	
	1年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	194	
	3年				
教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	195	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 A	1学期	3	2	196
	山崎 和夫	3年			
	英語科教育法 A	1学期	2	2	197
	山崎 和夫	2年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	198
	山崎 和夫	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	199
	山崎 和夫	3年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	200
	山崎 和夫	2年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	201
	山崎 和夫	3年			
	国語科教育法 A	1学期	2	2	202
	加藤 宏文	2年			
	国語科教育法 B	2学期	2	2	203
	加藤 宏文	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	204
	黒田 耕司	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	205
	黒田 耕司	2年			
特別活動の研究	1学期	2	2	206	
楠 凡之	2年				
特別活動の研究	1学期	2	2	207	
楠 凡之	2年				
教育方法学	2学期	2	2	208	
黒田 耕司	2年				
教育方法学	2学期	2	2	209	
黒田 耕司	2年				
教育工学	2学期	2	2	210	
大塚 一徳	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	211
	2年				
	教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	212
	3年				
	教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	213
	3年				
	教育実習 2 見玉 弥生 他	1学期	4	2	214
4年					
教育実習 3 見玉 弥生 他	1学期	4	2	215	
4年					
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	216	
2年					
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	217	
2年					
■選択科目	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	218
	2年				
	教育心理学 柴村 馨	2学期	1	2	219
	1年				
教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	220	
3年					
教育法規 見玉 弥生	2学期	2	2	221	
2年					
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	222
	2年				
人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	223	
2年					
■自由科目	書道 大森 アユミ	1学期(ペア)	2	2	224
	2年				
日本語教育学I 小林 浩明	1学期	2	2	225	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	日本語教育学II 小林 浩明	2学期	2	2	226
	2年				
	生涯学習学 恒吉 紀寿	1学期	2	2	227
	2年				
	博物館概論 太田 正道	1学期	2	2	228
	2年				
	博物館経営論・博物館情報論 太田 正道	2学期	2	2	229
	2年				
	博物館資料論 永尾 正剛	1学期	2	2	230
	2年				
	日本語教授法I 清水 順子 他	1学期	3	2	231
	3年				
	日本語教授法II 小林 浩明	2学期	3	2	232
	3年				
	日本語教育学演習I 横林 宙世	1学期	3	2	233
	3年				
日本語教育学演習II 横林 宙世	2学期	3	2	234	
3年					
日本語教育実習 小林 浩明	1学期	4	1	235	
4年					
日本語教育実習 小林 浩明	2学期	4	1	236	
4年					
博物館実習I 竹川 大介	2学期(ヘア)	3	1	237	
3年					
博物館実習II 竹川 大介	1学期(ヘア)	4	2	238	
4年					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	239
	1年				
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	240
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	241
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	242
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	243
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	244
	1年				
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	245
	2年				
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	246
	2年				
文化と政治 重信 幸彦	2学期	2	2	247	
2年					
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	248	
2年					
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	249	
2年					
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	250	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	251
	1年				
	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	252
	1年				
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	253
1年					
フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	254	
1年					
フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	255	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	256
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	257
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	258
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	259
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	260
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	261
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	262
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	263
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	264
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	265
		1年			
自己管理論	2学期	1	2	266	
	1年				
キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	267	
	1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	268	
	1年				
キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	269	
	1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	270	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	271
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	272
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	273
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	274
		1年			
	コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	275
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	276
		2年			
	大学論・学問論 小野 憲昭 他	1学期	1	2	277
		1年			
	法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	278
		1年			
	社会調査 稲月 正	2学期	1	2	279
		1年			
統計を読む・統計をつくる 山本 努	集中	1	2	280	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	281	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (テニス) 原田 守治	1学期	1	1	282	
	1年				
フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 原田 守治	1学期	1	1	283	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	284	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	285	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	286
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	287
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	288
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	289
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	290
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	291
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	292
	原田 守治	1年			
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	293	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	294	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	295	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	296	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	297	
磯貝 浩久	1年				
フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)	2学期	1	1	298	
加倉井 美智子	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	299
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	300
	小林 道彦	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅰ 重信 幸彦	1学期	1	2	301
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 徳永 政夫	1学期	1	2	302
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 稲月 正	1学期	1	2	303
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 小野 憲昭	1学期	1	2	304
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 戸蒔 仁司	1学期	1	2	305
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 伊原木 大祐	1学期	1	2	306
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 二宮 正人	1学期	1	2	307
		1年			
	教養基礎演習Ⅰ 高西 敏正	1学期	1	2	308
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 日高 京子	2学期	1	2	309	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 小林 道彦	2学期	1	2	310	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 重信 幸彦	2学期	1	2	311	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 徳永 政夫	2学期	1	2	312	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 稲月 正	2学期	1	2	313	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 小野 憲昭	2学期	1	2	314	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 戸蒔 仁司	1学期	1	2	315	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	316
		1年			
	教養基礎演習II 二宮 正人	2学期	1	2	317
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	318
		1年			
	教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	319
		2年			
	教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	320
		2年			
	教養演習AI 重信 幸彦	1学期	2	2	321
		2年			
	教養演習AI 戸蒔 仁司	1学期	2	2	322
		2年			
	教養演習AI 稲月 正	1学期	2	2	323
		2年			
	教養演習AI 伊原木 大祐	1学期	2	2	324
		2年			
	教養演習AII 日高 京子	2学期	2	2	325
		2年			
教養演習AII 小林 道彦	2学期	2	2	326	
	2年				
教養演習AII 重信 幸彦	2学期	2	2	327	
	2年				
教養演習AII 戸蒔 仁司	1学期	2	2	328	
	2年				
教養演習AII 稲月 正	2学期	2	2	329	
	2年				
教養演習AII 伊原木 大祐	2学期	2	2	330	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 日高 京子	1学期	3	2	331
		3年			
	教養演習BⅠ 小野 憲昭	1学期	3	2	332
		3年			
	教養演習BⅠ 小林 道彦	1学期	3	2	333
		3年			
	教養演習BⅠ 重信 幸彦	1学期	3	2	334
		3年			
	教養演習BⅠ 戸蒔 仁司	1学期	3	2	335
		3年			
	教養演習BⅠ 稲月 正	1学期	3	2	336
		3年			
	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	337
		3年			
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	338
		3年			
	教養演習BⅡ 小野 憲昭	2学期	3	2	339
		3年			
教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	340	
	3年				
教養演習BⅡ 重信 幸彦	2学期	3	2	341	
	3年				
教養演習BⅡ 戸蒔 仁司	1学期	3	2	342	
	3年				
教養演習BⅡ 稲月 正	2学期	3	2	343	
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	344	
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ 見舘 好隆	2学期	2	2	345	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	346
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	347
	1年				
	動物のみかた 竹川 大介	2学期	1	2	348
	1年				
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	349
	1年				
	自然史へのいざない 重信 幸彦 他	2学期	1	2	350
	1年				
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	351
	1年				
	現代人のこころ 小松 佐穂子	1学期	1	2	352
	1年				
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	353
	1年				
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	354
	1年				
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	355
	1年				
	ものがたりと人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	356
	1年				
	文化と表象 真鍋 昌賢 他	2学期	1	2	357
	1年				
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	358
	1年				
	芸術と人間 波瀾 剛	1学期	1	2	359
	1年				
	文学を読む 岩本 真理子 他	1学期	1	2	360
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	戦争と人間 重信 幸彦 他	1学期	1	2	361
	1年				
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	362
	1年				
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	363
	1年				
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	364
	1年				
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	365
	1年				
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	366
	1年				
	共生の作法 山本 光英 他	2学期	1	2	367
	1年				
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	368
	1年				
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	369
1年					
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	370	
1年					
つながりの人間学 児玉 弥生 他	2学期	1	2	371	
1年					
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	372	
1年					
現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	373	
1年					
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	374	
1年					
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	375	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	376
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	377
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	378
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	379
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	380
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	381
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	382
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	383
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	384
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	385
	1年				
都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	386	
	1年				
ものと人間の歴史 重信 幸彦 他	1学期	1	2	387	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	388	
	1年				
教養特講 伊藤 解子	2学期	1	2	389	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	390
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	西洋史 晴谷 憲洋	1学期	1	2	391
		1年			
	東洋史 内田 直文	2学期	1	2	392
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	393
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	394
		1年			
土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	395	
	1年				
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	396	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	397	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	398	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	1学期	1	2	399
		1年			
	データ処理 浅羽 修丈	2学期	1	2	400
		1年			
	データ処理 山田 寛	2学期	1	2	401
		1年			
	データ処理 棚次 奎介	2学期	1	2	402
	1年				
情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	403	
	2年				
情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	404	
	2年				
情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	405	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	406
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	407
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	408
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 葛西 宏信	1学期	1	1	409
		比1 - A			
	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	410
		比1 - B			
	英語I 野上 良子	1学期	1	1	411
		比1 - C			
	英語I 新藤 照夫	1学期	1	1	412
		比1 - D			
	英語II ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	413
		比1 - A			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	414
		比1 - B			
	英語II 野上 良子	2学期	1	1	415
		比1 - C			
	英語II 新藤 照夫	2学期	1	1	416
		比1 - D			
	英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	417
		比1 - A			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	418
		比1 - B			
英語III Stephanie A.Houghton	1学期	1	1	419	
	比1 - C				
英語III 船方 浩子	1学期	1	1	420	
	比1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	421
		比 1 - A			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	422
		比 1 - B			
	英語IV Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	423
		比 1 - C			
	英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	424
		比 1 - D			
	英語V 薬師寺 元子	1学期	2	1	425
		比 2 - A			
	英語V 杉山 智子	1学期	2	1	426
		比 2 - B			
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	427
		比 2 - C			
	英語V 船方 浩子	1学期	2	1	428
		比 2 - D			
	英語VI デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	429
		比 2 - A			
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	430
		比 2 - B			
英語VI 杉山 智子	2学期	2	1	431	
	比 2 - C				
英語VI 船方 浩子	2学期	2	1	432	
	比 2 - D				
英語VII ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	433	
	比 2 - A				
英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	434	
	比 2 - B				
英語VII デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	435	
	比 2 - C				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII 船方 浩子	1学期	2	1	436
		比2 - D			
	英語VIII ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	437
		比2 - A			
	英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	438
		比2 - B			
	英語VIII デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	439
		比2 - C			
	英語VIII ロバート・マーフィ	2学期	2	1	440
		比2 - D			
英語IX 渡邊 嘉則	1学期	3	1	441	
	比人3年				
英語X 渡邊 嘉則	2学期	3	1	442	
	比人3年				
英語XI ダンカン・ウォトリイ	1学期	3	1	443	
	比人3年				
英語XII ダンカン・ウォトリイ	2学期	3	1	444	
	比人3年				
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	445
		比1年			
	中国語I 正野 留加	1学期	1	1	446
		比1年			
	中国語II 板谷 秀子	2学期	1	1	447
		比1年			
	中国語II 正野 留加	2学期	1	1	448
	比1年				
中国語III 王 占華	1学期	1	1	449	
	比1年				
中国語III 王 曉芳	1学期	1	1	450	
	比1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅳ 王 占華	2学期	1	1	451
		比 1 年			
	中国語Ⅳ 王 曉芳	2学期	1	1	452
		比 1 年			
	中国語Ⅴ 有働 彰子	1学期	2	1	453
		比 2 年			
	中国語Ⅵ 有働 彰子	2学期	2	1	454
		比 2 年			
	中国語Ⅶ 馮 雅蓮	1学期	2	1	455
		比 2 年			
	中国語Ⅷ 馮 雅蓮	2学期	2	1	456
		比 2 年			
	上級中国語Ⅰ 唐 雋	1学期	3	1	457
		英国済営比人 3 年			
	上級中国語Ⅱ 唐 雋	2学期	3	1	458
		英国済営比人 3 年			
	上級中国語Ⅲ 王 占華	1学期	3	1	459
		英国済営比人 3 年			
	上級中国語Ⅳ 王 占華	2学期	3	1	460
		英国済営比人 3 年			
朝鮮語Ⅰ チャン ユンヒャン	1学期	1	1	461	
	比 1 年				
朝鮮語Ⅱ チャン ユンヒャン	2学期	1	1	462	
	比 1 年				
朝鮮語Ⅲ チャン ユンヒャン	1学期	1	1	463	
	比 1 年				
朝鮮語Ⅳ チャン ユンヒャン	2学期	1	1	464	
	比 1 年				
朝鮮語Ⅴ 金 貞愛	1学期	2	1	465	
	済営比人律政群 2 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	466
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	467
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	468
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	469
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	470
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	471
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	472
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	473
		済営比人 1年			
	ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	474
		済営比人 1年			
	ロシア語III ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	475
		済営比人 1年			
ロシア語IV ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	476	
	済営比人 1年				
ロシア語V 芳之内 雄二	1学期	2	1	477	
	済営比人律政 2年				
ロシア語VI 芳之内 雄二	2学期	2	1	478	
	済営比人律政 2年				
ロシア語VII ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	479	
	済営比人律政 2年				
ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	480	
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	481
		比1年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	482
		比1年			
	ドイツ語III 岩本 真理子	1学期	1	1	483
		比1年			
	ドイツ語IV 岩本 真理子	2学期	1	1	484
		比1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	485
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	486
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	487
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	488
		済営比人律政2年			
	フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	489
		比1年			
	フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	490
		比1年			
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	491	
	比1年				
フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	492	
	比1年				
フランス語V 中川 裕二	1学期	2	1	493	
	済営比人律政2年				
フランス語VI 中川 裕二	2学期	2	1	494	
	済営比人律政2年				
フランス語VII 山下 高之	1学期	2	1	495	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VIII 山下 高之	2学期	2	1	496
		済営比人律政 2年			
	スペイン語I 辻 光博	1学期	1	1	497
		比人 1年			
	スペイン語II 辻 光博	2学期	1	1	498
		比人 1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	499
		比人 1年			
	スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	500
	比人 1年				
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	501	
	済営比人律政 2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	502	
	済営比人律政 2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	503	
	済営比人律政 2年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	504	
	済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	505
		留学生 1年			
	日本語 A 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	506
		留学生 1年			
	日本語 B 則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	507
		留学生 1年			
	日本語 C 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	508
	留学生 1年				
日本語 D 清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	509	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1学期	1	2	510	
	留学生 1年				

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情 (社会) B	2学期	1	2	511
	山崎 勇治	留学生 1年			

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較宗教・思想 新村 昭雄	1学期	2	2	512
	2年				
	比較歴史・文化 寺田 由美	2学期	2	2	513
	2年				
	比較日本文学 赤塚 正幸	2学期	2	2	514
	2年				
	比較民族学 成木 繁郎	1学期	2	2	515
	2年				
	比較表象文化 真鍋 昌賢	2学期	2	2	516
	2年				
	比較映像・文化 前田 譲治	1学期	2	2	517
	2年				
	比較社会意識	2学期	2	2	518
	2年				
比較社会文化	1学期	2	2	519	
2年					
■比較文化(地域系)科目	日本文学概論(近現代) 馬場 美佳	2学期	1	2	520
	1年				
	日本の歴史と社会 八百 啓介	2学期	2	2	521
	2年				
	日本文学史(近現代) 赤塚 正幸	2学期	2	2	522
	2年				
	漢文学 榎崎 洋一郎	1学期	2	2	523
	2年				
イギリス文学概論 田部井 世志子	1学期	1	2	524	
1年					
アメリカ文化論 江口 雅子	2学期	2	2	525	
2年					
アメリカの生活文化 田宮 晴彦	1学期	2	2	526	
2年					

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	イギリスの18-19世紀文学 杉本 美穂	2学期	2	2	527
		2年			
	イギリス文化論 石井有希子	1学期	2	2	528
		2年			
	英語学概論 北峯 裕士	1学期	2	2	529
		2年			
英語音声学 山内 ひさ子	1学期	2	2	530	
	2年				
英語史 松崎 徹	2学期	2	2	531	
	2年				
英文法I 田村 水幸	1学期	2	2	532	
	2年				
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文1 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	533
		1年			
	英会話・英作文2 ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	534
		1年			
	英会話・英作文3 ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	535
		2年			
	英会話・英作文4 ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	536
	2年				
英会話・英作文7 アンデリユー・ジッツマン	1学期	3	1	537	
	3年				
英会話・英作文8 アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	1	538	
	3年				
アメリカ文化講読 前田 譲治	1学期	1	2	539	
	1年				
■演習・卒論科目	演習B - 1 馬場 美佳	1学期	4	2	540
		4年			
	演習B - 1 田部井 世志子	1学期	4	2	541
		4年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 馬場 美佳	2学期	4	2	542
		4年			
	演習B - 2 田部井 世志子	2学期	4	2	543
		4年			
	卒業論文 未定		4	2	544
		4年			
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門1 (日本) 八百 啓介	1学期	1	2	545
		1年			
	比較文化入門2 (欧米) 岡住 正秀	2学期	1	2	546
		1年			
■概論科目	日本文化概論 佐藤 真人	1学期	1	2	547
		1年			
	欧米文化概論 新村 昭雄	2学期	1	2	548
		1年			
	文化交流史 八百 啓介	2学期	1	2	549
		1年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	550
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	551
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	552
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	553
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	554
		2年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	555
		1年			
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	556	
	3年				

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育制度	1学期	2	2	557
	見玉 弥生	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	558
	黒田 耕司	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	559
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	560
	楠 凡之	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	561
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	562
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	563
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	564
	大塚 一徳	2年			
	教育工学	2学期	2	2	565
	大塚 一徳	2年			
	教職総合演習	2学期	3	2	566
	楠 凡之 他	3年			
教育実習 1	2学期	3	2	567	
黒田 耕司	3年				
教育実習 1	2学期	3	2	568	
黒田 耕司	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	569	
見玉 弥生	4年				
教育実習 2	1学期	4	2	570	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	571	
見玉 弥生	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 3 見玉 弥生	1学期	4	2	572
		4年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	573
		2年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	574
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	575
		2年			
	英語科教育法 C 山崎 和夫	1学期	2	2	576
		2年			
英語科教育法 D 山崎 和夫	2学期	2	2	577	
	2年				
国語科教育法 C 加藤 宏文	1学期	2	2	578	
	2年				
国語科教育法 D 加藤 宏文	2学期	2	2	579	
	2年				
■選択科目	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	580
		2年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	581
	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	583
		2年			
■自由科目	書道 大森 アユミ	1学期 (ペア)	2	2	585
		2年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	586
		1年			

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	587
		1年			
	人間と文化 重信 幸彦	1学期	1	2	588
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	589
		1年			
国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	590	
	1年				
教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	591	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	592
		1年			
	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	593
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	594
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	595	
	1年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 日高 京子	1学期	1	2	596
		1年			
	くらしと化学 竹之下 芳也	2学期	1	2	597
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭	1学期	1	2	598
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	599
	1年				
障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	600	
	1年				
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	601	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会の諸問題 山本 光英 他	2学期	1	2	602
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	603
	1年				
	グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	604
	1年				
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	605
	1年				
	歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	606
1年					
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	607	
1年					
都市と農村の生活文化史 重信 幸彦	2学期	1	2	608	
1年					
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	609	
1年					
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	610
	1年				
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	611
	1年				
	東洋史 内田 直文	2学期	1	2	612
	1年				
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	613
	1年				
人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	614	
1年					
土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	615	
1年					
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	616	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	617
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	618
	1年				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	619
	1年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 伊藤 晃	1学期	1	1	620
	比人夜 1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	621
	比人夜 1年				
	英語III アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	622
	比人夜 1年				
	英語IV アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	623
	比人夜 1年				
	英語V 漆原 朗子	1学期	2	1	624
	比人夜 2年				
	英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	625
	比人夜 2年				
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	626
	比人夜 2年				
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	627	
比人夜 2年					
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	628
	英比人夜 1年				
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	629
	英比人夜 1年				
中国語III 王 占華	1学期	1	1	630	
英比人夜 1年					
中国語IV 王 占華	2学期	1	1	631	
英比人夜 1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I チャン ユンヒャン	1学期	1	1	632
		英比人夜 1年			
	朝鮮語II チャン ユンヒャン	2学期	1	1	633
		英比人夜 1年			
	朝鮮語III 金 光子	1学期	1	1	634
		英比人夜 1年			
	朝鮮語IV 金 光子	2学期	1	1	635
		英比人夜 1年			
	ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	636
		英比人夜 1年			
	ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	637
		英比人夜 1年			
	ロシア語III 芳之内 雄二	1学期	1	1	638
		英比人夜 1年			
	ロシア語IV 芳之内 雄二	2学期	1	1	639
		英比人夜 1年			
	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	640
		比人夜 1年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	641
		比人夜 1年			
ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	642	
	比人夜 1年				
ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	643	
	比人夜 1年				
フランス語I 山下 高之	1学期	1	1	644	
	比人夜 1年				
フランス語II 山下 高之	2学期	1	1	645	
	比人夜 1年				
フランス語III 水本 弘文	1学期	1	1	646	
	比人夜 1年				

文学部 比較文化学科 (2007年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語IV 水本 弘文	2学期	1	1	647
		比人夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	648
		英比人夜 1年			
	スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	649
		英比人夜 1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	650
		英比人夜 1年			
	スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	651
		英比人夜 1年			

比較日本古典文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 園田 豊 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本古典文学は中国文学の影響を多く受けていますが、両者の作品を鑑賞しながら、その影響関係を見ていきます。さらに、その両者の作品から影響を受けた作品を鑑賞し、それらがどのように日本化されているかを考えます。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『剪燈新話』(瞿佑作、平凡社)
- 『江戸怪談集 中』(高田衛編・校注、岩波書店)
- 『新註 雨月物語』(高田衛・稲田篤信編著、勉誠社)
- 『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』(中村幸彦他編著、日本古典文学全集、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「愛卿伝」(1) 【作品背景】
- 3回 「愛卿伝」(2) 【講読】
- 4回 「愛卿伝」(3) 【まとめ】
- 5回 「遊女宮城野」(1) 【作品背景】
- 6回 「遊女宮城野」(2) 【講読】
- 7回 「遊女宮城野」(3) 【「愛卿伝」との比較】
- 8回 「遊女宮城野」(4) 【まとめ】
- 9回 「浅茅か宿」(1) 【作品背景】
- 10回 「浅茅か宿」(2) 【講読】
- 11回 「浅茅か宿」(3) 【導入】
- 12回 「浅茅か宿」(4) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】
- 13回 「浅茅か宿」(5) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】
- 14回 「浅茅か宿」(6) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】
- 15回 「浅茅か宿」(7) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、授業に臨む態度...20%
※適宜、小テストを行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布プリントをあらかじめ読んで、講義に臨むと良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較ドイツ文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学のみならず、ドイツの芸術各分野で重要な役割を果たしている「ファウスト」について、他国の作品も参考にしながら多角的に考察する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ファウストとは何者か
- 2回 実在のファウストと時代背景
- 3回 民衆本『ファウスト』
- 4回 民間伝承のファウスト
- 5回 イギリスに渡ったファウスト伝説
- 6回 クリストファー・マーロウ『フォースタス博士の悲劇』
- 7回 ファウストとメフィストの変化
- 8回 ゲーテ『ファウスト』
- 9回 『ファウスト第一部』のグレートヒエン悲劇とメフィストの役割
- 10回 『ファウスト第二部』の複雑さ
- 11回 『ファウスト第二部』における救済
- 12回 ハイネのパレエ劇『ファウスト』
- 13回 映画『ファウスト』
- 14回 その他のファウスト作品群
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名
/Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本絵画史においては、古くから「やまと絵」と「唐絵」という対概念が存在したが、これらの概念の意味するところは時代によって異なる。本講義では、各時代において、「やまと絵」・「唐絵(漢画)」という言葉が、どのような絵画を指し示していたかを、具体的な作品を提示しながら確認して行く。また、それによって、日本絵画は中国絵画から、どのような影響を受け、どのように自家薬籠中のものとしていったかを概観する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「やまと絵」の誕生
- 2回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と神護寺所蔵「山水屏風」をめぐって①
- 3回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と神護寺所蔵「山水屏風」をめぐって②
- 4回 平等院鳳凰堂扉絵をめぐって①
- 5回 平等院鳳凰堂扉絵をめぐって②
- 6回 「一遍聖絵」をめぐって①
- 7回 「一遍聖絵」をめぐって②
- 8回 「一遍聖絵」をめぐって③
- 9回 「春日権現験記絵巻」をめぐって①
- 10回 「春日権現験記絵巻」をめぐって②
- 11回 「春日権現験記絵巻」をめぐって③
- 12回 漢画とやまと絵①
- 13回 漢画とやまと絵②
- 14回 漢画とやまと絵③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート(場合によっては期末試験) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義且つ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、現物を直に見てもらうことで学生諸君に判断を委ねたい。ここで言う「現物」とは世界各地の音楽PVである。これらのPVを「Hip-hopの感染力」・「アイドルの普遍性」・「Rockの浸透力」のコンセプトのもとに特集して鑑賞するが、その目的は「グローバル化」の実態への理解を深めることである。このPVの上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回はジェンダーに関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュディス・バトラー 1999年 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』(竹村和子 訳) 青土社。
Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
Marilyn Strathern 1988 The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press
Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回～3回 象徴論からみた文化の概念の解説とジェンダーの概念の解説【シンボル】【ジェンダー】
 - 4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ・DVD【女子割礼】【伝統】
 - 5回～7回 ジェンダー パート1：ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって【バックラッシュ】【家長制】
 - 8回 グローバル化を考える1：ヒップホップの感染力 【政教分離】
 - 9回～11回 ジェンダー パート2：脱エスノセントリズムの試み-ポスト構造主義フェミニズムとポストコロニアル・フェミニズム【生物学的基盤主義】【身体】【社会構築主義】
 - 12回 グローバル化を考える2：世界のアイドル 【美の基準】
 - 13回～14回 ジェンダー パート3：民族誌を読む。マダガスカルとタイの民族誌を予定。【パフォーマティブ】【反相対主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数(95%)。出席(5%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 連 清吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代から近代にかけて中国文化の受容を平易に説明し、日本的中国学理解の在り方を究明する。講義では京都の中国研究者の主張を説明しながら中国文明の本質を明白にしようとする。

教科書 /Textbooks

配付資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古川幸次郎編『東洋学の創始者たち』講談社、1976年10月
礪波護編『京大東洋学の百年』京都大学出版会、2002年5月

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (「」はキーワード)
- 1回 授業説明：日本における中国文化の受容「受容」「選別」「融合」「創出」
 - 2回 中国文化は漢字文化(宮崎市定)「漢字」「漢字文化」
 - 3回 漢字と漢字文化圏「六書」「当用漢字」「漢字文化圏」
 - 4回 中国文学は中国文明の核(狩野直喜)「儒雅」「風神」
 - 5回 文字の魔術：詩文のリズム、メロディー、ハーモニー(古川幸次郎)「韻律」「対句」
 - 6回 唐詩の世界：中国人の心象風景の描写「賦比興」「緻密」「飛躍」
 - 7回 戦国は中国思想の黄金時代(貝塚茂樹)「百家争鳴」「稷下論議」「布衣卿相」
 - 8回 儒家と道家は中国思想の二本柱(金谷治)「人間社会」「人間学」「自然凝視」
 - 9回 孔子の思想：論語字義「仁」「学」「君子」
 - 10回 子所雅言：儒家の人間学「古典素養」「社会実用」
 - 11回 自然無為：老子の発想の転換「自然無為」「水」「柔弱」
 - 12回 万物斉同：荘子説話の主人公「自然凝視」「本来の生き方」「再生」「多様性」
 - 13回 小国寡民：東洋の理想郷「安居楽俗」「桃源郷」「山水画」「原風景」「終身雇用」
 - 14回 通変史観：中国人の歴史意識(内藤湖南)「通」「変」「独断」
 - 15回 史記の世界：身振りの文学(宮崎市定)「都市文化」「事実と物語」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況：50% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配付する資料をよく読み込んでおくこと。また、授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較ジェンダー論【昼】

担当者名 吉崎 邦子 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ジェンダーの平等を実現する男女共同参画社会を推進するために必要な個人の意識を点検するとともに、日本や諸外国に於ける男女の関係性について様々な統計資料に基づき多角的に考察する。また社会制度や法律のあり方について理解できるよう法的識字能力(リーガル・リテラシー)を高めるために、ジェンダー関連の法律を概観する。
 キーワードは、国連・日本・韓国等のジェンダー主流化施策、ジェンダーと法、社会制度、性別役割分業意識、HDI, GDI, GEM、男女共同参画社会基本法、女性差別撤廃条約、セクシュアリティ等。

教科書 /Textbooks

金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣アルマ、2005。1800円+税
 プリント(国連の女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、男女雇用機会均等法ほか)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

奥山和弘『「男だてら」に「女泣き」』文芸社
 井上輝子他編『女性のデータブック』有斐閣
 内閣府男女共同参画局編『男女共同参画白書』
 犬伏由子編『女性学キーマン』有斐閣
 吉岡睦子・林陽子『実務ジェンダー法講義』民事法研究会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1-2回 授業概要、ジェンダー論の基本的考え方 【ジェンダー】【ジェンダー学など】
 - 3-4回 ジェンダー統計【ジェンダー統計】【国際社会の比較】【ジェンダー主流化】
【HDI, GDI, GEM】
 - 5-6回 家族とジェンダーにかかわる制度や法律【近代家族】【育児・介護休業法】
【固定的性別役割】【女性と年金】DV防止法
 - 7-9回 雇用とジェンダーにかかわる法律【男女雇用機会均等法】【M字型カーブ】
【賃金格差】
 - 10-12回 性と生殖の健康/権利、暴力とジェンダーにかかわる法律 【人工妊娠中絶】
【児童回・児童ポルノ】【デートDV】
 - 13-14回 国連の女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法【国連】【ジェンダー主流化】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と授業態度・発表を総合して評価する。授業態度・発表は2割とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日米文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは講義と受講生のグループ発表を中心に構成している。グループ発表を通して、受講しえには日米の文化を実際に比較してもらう。そこで感じた、比較の面白さと難しさを大切にしてほしい。また、日米の文化的事象について分かりやすい形で伝えるスキルの習得も目指す。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 イントロダクション (成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2 回 グループ発表の準備: プレインストーミング
- 3 回 比較文化に必要な視点: 文化相対主義、多文化主義
- 4 回 日米文化の基礎知識 (1): 歴史、価値観
- 5 回 日米文化の基礎知識 (2): 歴史、価値観
- 6 回 プレゼンテーション①
- 7 回 プレゼンテーション②
- 8 回 プレゼンテーション③
- 9 回 プレゼンテーション④
- 10 回 プレゼンテーション⑤
- 11 回 プレゼンテーション⑥
- 12 回 プレゼンテーション⑦
- 13 回 プレゼンテーション⑧
- 14 回 プレゼンテーション⑨
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60%、 学期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半の講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日仏文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本とフランスの文学作品(エッセイ、短編小説)を読み味わうとともに、幸福の観点からそれぞれの作品世界を比較検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。取り上げる作品のプリントを事前に、あるいは当日配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回: モンテーニュ - 1
- 2回: モンテーニュ - 2
- 3回: 兼好法師
- 4回: 鴨長明
- 5回: メリメ - 1
- 6回: メリメ - 2
- 7回: 芥川龍之介
- 8回: モーパッサン - 1
- 9回: モーパッサン - 2
- 10回: 中島敦
- 11回: フィリップ - 1
- 12回: フィリップ - 2
- 13回: 宮沢賢治
- 14回: ドーデ - 1
- 15回: ドーデ - 2

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のレポート...80% 平常点...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回レポート提出。テーマは取り扱った作品から見つけ、考察したことを書く

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日中文化比較 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と中国は一衣帯水の関係にあり、とりわけ文化の面で密接な関係を持つ一方で相違点も多く見られる。本講義は、異文化交流の視点から、食・衣・民族・伝統芸能について日中の文化比較を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『東方栄養新書』 メディカル・ユーコン社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 多民族国家の中国
- 3回 中国の少数民族
- 4回 日本の少数民族・日本と中国の少数民族
- 5回 日中主食の比較
- 6回 日中調理法の比較
- 7回 薬膳・医食同源
- 8回 中国茶
- 9回 日本茶
- 10回 茶法・茶菓子
- 11回 中国歴代服飾の変化
- 12回 和服と中国
- 13回 伝統芸能 - 京劇と歌舞伎
- 14回 伝統芸能 - 京劇と歌舞伎
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・40% レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近現代美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

美術を、思考ツール・実践ツールとして読みこなし使いこなす能力を身に付けます。国内外の近現代美術の事例をスライドやビデオ等で紹介しながら、「美術」に関する既存概念に縛られずに、思考の柔軟性を養います。旧カリキュラムでの名称は「アメリカの美術」ですが、アメリカに限らず国内外の近現代美術を扱います。また必要に応じて「美術」に限らず他分野の事象も取り上げます。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美×美術×美術館×美術史×美学：「美」をめぐる言葉の整理
- 2回 展覧会の舞台裏：展覧会作りのプロセス
- 3回 メディア×アート：資料としての浮世絵、作品としての浮世絵
- 4回 鑑賞の図式1：「正しい」鑑賞 / 解釈とは？
- 5回 鑑賞の図式2：身近な作品を鑑賞する
- 6回 広がるアートの舞台：都市規模・地球規模のアート
- 7回 アート・宗教は社会を救う・掬う
- 8回 アートのカ×権力×暴力
- 9回 リアルとフィクション：想像のジャンプカ
- 10回 アジアのアート1：制度としてのアート
- 11回 アジアのアート2：生活の中のアート
- 12回 地方の風土とアート：どこまでが「日本」？
- 13回 福岡・北九州のアートシーン
- 14回 プロ×アマの境界
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化人類学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生かされるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

「フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門」菅原 和孝(編集)
『うぬぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5-6講 交換とはなにか
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 政治とはなにか
- 第9-10講 信じるとはなにか
- 第11-12講 自然とはなにか
- 第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと	...	30%
異文化を相対的に考えられること	...	30%
人類学的な実践に興味を持ちなにかをはじめること	...	40%
試験は6講目あたりでおこなう		

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 明間 肇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ポスト近代(情報社会・高度消費社会)が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。現在の状況がいかに大きな転換点か、また、それがもつ意味について考えたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版(2008年5月)、田中義久編『関係の社会学』弘文堂(1996年2月)、村上春樹の小説『1Q84』など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明:問題提起および問題意識の所在
- 2回 【市民社会】における【情報社会】の位置づけ:市民社会の歴史的な規定性の貫徹
- 3回 【脱魔術化】の過程としての【近代化】:【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
- 4回 社会学の成立と近代の関係および補足:【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
- 5回 補足・討論
- 6回 【ポスト近代】における【生産】と【消費】の関係の変容:情報の【商品化】。
【アウラ】なき時代における【再魔術化】と【ブラックボックス化】
- 7回 【記号性】の終焉とリアル:リアルという新たな【アイコン】の出現
- 8回 【記号性】の終焉とリアル:リアルという新たな【アイコン】の出現(続き)
- 9回 ポスト近代をいかに生きるか:【リスク社会】における予見不可能性が主体に与える効果。
不安な時代について考える。
- 10回 補足・討論
- 11回 近代権力とは何か:近代化と【生-権力】の成立の関係
- 12回 近代権力とは何か:近代化と【生-権力】の成立の関係(続き)
- 13回 現代社会の諸相を考える+補足:新たな【連帯】のエートスへ向けて
- 14回 補足・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況...40% レポート...30% 試験...30%
出席は毎回とり、学習状況として評価の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記予定は、講義日程等により変更の可能性があります。また、補足として映画等を観て、あるいは一定の課題のもとでレポートを書いていただく予定です。
準備事項は特にありませんが、積極的に質問していただける姿勢で授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

消費社会論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「消費社会」のあり方とあわせて、現代の資本主義社会の特徴を分析することが目的である。「消費化」が進展した社会においては、モノよりもむしろ、文化や人間関係が消費の対象となる。人々の欲望が文化や人間関係の消費へと向かったときに、どのような事態がおこるのかについて主に議論する。

また、この講義では、主に現代人の消費のなかでも最も特徴的であると思われる観光消費について追いつながら、現代の資本主義社会がどこに向かっているのかを考える。したがって、観光化の意味について興味を持っている学生の参加を歓迎する。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年、2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店
小川伸彦、山泰幸【『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房
- G・リッツァー『マクドナルド化の世界』早稲田大学出版部
J・アーリ『場所を消費する』法政大学出版局

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【消費社会】とは何か(消費社会のなかの行為論)
 - 2回 ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店を読む
 - 3回 【記号の消費】・【人間関係の消費】・心を消費する(心理主義化論)
 - 4回 【お客様社会】と【感情労働の社会学】
 - 5回 【観光文化】と消費社会(観光現象をどう捉えるか)
 - 6回 観光の歴史から見る現代観光の矛盾1
 - 7回 観光の歴史から見る現代観光の矛盾2
 - 8回 観光と「見せ物化」(視覚の優位)
 - 7回 「【見せ物化】」とその矛盾(少数民族の観光化)
 - 8回 「見せ物」を組織化する観光(観光の産業化)
 - 9回 テーマパーク論
 - 10回 【地域の観光化】の諸矛盾(「観光と「場」について)
 - 11回 「環境」を消費する・「環境保護」を消費する(エコ・ツーリズム論)
 - 12回 【バックパッカー】論・観光移住論(消費社会のなかの行為論として)
 - 13回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(観光)
 - 14回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(現代消費文化一般)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「文化社会学」「比較文化社会」の講義とセットで受講すると分かりやすいかも知れない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学概論 (古典) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 河北 靖 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本文学とは？古典とは？
日本文学は現代まで千数百年の歴史を有するが、そのうち古典と称されるものがこの講義の対象である。その範囲は膨大で多岐にわたるが、系統的に講述する。

教科書 /Textbooks

特に用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本文学とは？古典とは？その定義について。
- 2回 日本古典文学の領域・範囲とは？
- 3回 古筆・絵詞ほか周辺領域について【古筆切れ】【絵巻】
- 4回 韻文学とは【音数律】
- 5回 和歌【歌語】【歌枕】
- 6回 連歌・俳諧【座の文学】【連衆】【宗匠】
- 7回 狂歌・川柳【俗文学】
- 8回 漢詩文【訓読】
- 9回 散文文学とは
- 10回 神話・伝承・祝詞・宣命【口承文学】
- 11回 物語文学【歌物語】【作り物語】【歴史物語】【軍記】
- 12回 説話文学【口承から書承へ】
- 13回 評論・随筆・日記・紀行【身の上】
- 14回 劇文学-能・狂言・歌舞伎【傾き者】【わざおぎ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 試験 ... 70%
出席が3分の2未満の者は、試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

随時指示する参考文献について入手し読破すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語について、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語という言語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と国語学
- 第2回 音声学と音韻論
- 第3回 音韻論と文字・五十音図とのかかわり
- 第4回 音節と単音・音素表記
- 第5回 シラブルと撥音・促音・拗音・長音 特殊音の平仮名表記とカタカナ表記
- 第6回 音声器官の構造と役割
- 第7回 有声音と無声音
- 第8回 国際音声記号 母音の無声化
- 第9回 調音点と調音法
- 第10回 硬口蓋化現象と拗音との関連
- 第11回 ガ行鼻濁音にみる地域差と年齢差 連濁現象 四つ仮名の混同
- 第12回 八行子音の歴史の変遷と八行転呼音
- 第13回 五十音図と『醍醐寺蔵孔雀経音義』
- 第14回 撥音と促音にみる逆行同化現象と条件異音 ラ行音と自由異音
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事後に必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

語彙・敬語・文字・文法・方言などの観点から日本語を観察することを通して、日本語という言語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語と語彙 語彙の分類と体系 辞書・辞典にみる語彙
- 第2回 理解語彙と使用語彙 基本語と基礎語 単語の種々相
- 第3回 語彙の系統 語彙の量的考察 語彙量と使用率
- 第4回 日本語の語種 語構成 語の位相 意味の諸相
- 第5回 単語の文法的な性質 品詞論と文法化 学校文法と橋本文法
- 第6回 音声と文字とのかかわり 文字の種類
- 第7回 漢字の成立と伝来と享受 万葉仮名と上代特殊仮名遣い
- 第8回 漢字の訓の定着 日本の漢字音 漢字の構成と形と音
- 第9回 ローマ字の伝来と変遷 文字の発達の一方向 現代日本語の表記の特徴
- 第10回 標準語と共通語と方言と俚言 方言を生む作用
- 第11回 方言圏論 方言区画論
- 第12回 アクセントの種類
- 第13回 待遇表現と敬語 敬語の三種類 素材敬語と対者敬語
- 第14回 美化語と丁寧語 絶対敬語と相対敬語 敬語の順序 敬意と名詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語学概論II」を既に受講した場合は、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

神道と仏教の交渉：民族宗教とされる神道と外来宗教である仏教は、本来異質な宗教である。しかしながら、日本において二つの宗教は融和し共存することにより独特の宗教風土を育んできたとされる。しかしながら一方において神道と仏教の関係は「神仏習合」と称されるような融合の側面ばかりではなく、反発し忌避する意識も働いていたのである。それゆえにこそ両者は混然一体となることなく、宗教としての自立性を保ち得たと考えられる。この二つの宗教の微妙な関係について、説き明かしていきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高取正男『神道の成立』平凡社
達日出典『神仏習合』臨川書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2回 仏教と東アジア
- 3回 仏教公伝 【仏教】
- 4回 伝来初期の仏教 【渡来人】 【氏寺】
- 5回 仏教伝来以前の神道 【神道】
- 6回 律令国家と神道 【神祇令】
- 7回 道教の伝来をめぐって 【道教】
- 8回 神仏習合思想の発生 【神仏習合】
- 9回 神仏習合と東アジア宗教 【高僧伝】 【中国仏教】
- 10回 奈良時代の神仏隔離【道鏡事件】 【八幡神】
- 11回 平安時代の神仏隔離【伊勢神宮】 【宮廷祭祀】 【延喜式】
- 12回 本地垂迹説の形成
- 13回 本地垂迹説の展開
- 14回 神仏習合と神仏分離
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業へのコメント・レポート含む)...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布された資料や紹介した参考図書はよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の芸能文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本古代の芸能-在来芸能と渡来芸能
日常あまり接する機会のない伝統芸能をテーマとして取り上げるため、ビデオを上映して芸能に対する視聴覚面からの理解を深めることに努めるが、古典芸能や民間芸能にじかに触れる機会を持ってもらいたい。そのため伝統芸能の鑑賞・見学レポートを提出してもらおう。
(旧カリ科目「日本古代の演劇・芸能」との合併授業になりますので、テーマは古代に限ります。
能・歌舞伎など中世以降の芸能は扱いませんので、事前に承知のうえ受講して下さい。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

能史研究会編『日本芸能史 1』法政大学出版○
『日本の古典芸能 2 雅楽』平凡社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要。レポートについて。
- 2回 「芸能」とはなにか。
- 3回 先史時代の芸能-琴・笛・土面・【銅鐸】。
- 4回 靈魂と芸能-【鎮魂】と【神楽】【巫女】。
- 5回 靈魂と芸能-歌垣・田植踊り。
- 6回 神祭りと芸能-記紀・風土記などを例に。
- 7回 喪葬と芸能-殯の儀礼。死と靈魂観。
- 8回 政治と芸能-記紀神話と【隼人舞】。国魂。
- 9回 大陸芸能の伝来-【伎楽】。
- 10回 雅楽-【雅楽】とは何か？
- 11回 中国の楽と雅楽。
- 12回 雅楽の受容と展開。
- 13回 雅楽と仏教-中世の展開。
- 14回 散楽と猿楽-【能】【狂言】の源流。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布するプリントを読んでおいてください。
レポートに関する諸注意をよく聞いておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の生活文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人の生活の中心である衣食住の歴史を衣と食を中心に先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代を中心に見ていきます。また地域の食や暮らしの文化を研究している第一人者を外部講師としてお招きし、貴重なお話をお伺いします。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』(吉川弘文館)○柳田國男『木綿以前の事』(岩波文庫)
○芳賀登編『全集日本の食文化』(雄山閣)石毛直道監修『講座食の文化2 日本の食事文化』(味の素食の文化センター)堀切辰一『布の記憶』(新科学出版社)田中優子『カムイ伝講義』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 江戸時代における衣食住の成立
 - 3回 縄文時代と照葉樹林文化の食文化
 - 4回 室町時代～江戸時代の食文化
 - 5回 外部講師①布の歴史と【小倉織】(予定)
 - 6回 史料に見る【小倉織】
 - 7回 戦国時代の輸入【木綿】
 - 8回 江戸時代の輸入【木綿】
 - 9回 江戸時代のファッション 小袖と化粧
 - 10回 外部講師②【襦袢】が語る庶民の暮らし(予定)
 - 11回 【シュガーロード】の菓子文化①
 - 12回 【シュガーロード】の菓子文化②
 - 13回 【シュガーロード】の菓子文化③
 - 14回 【シュガーロード】の菓子文化④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (古典) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 大場 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典文学作品の中から、それぞれの時代とジャンルを代表する作品を、時代を追って鑑賞し、適宜、解説を加えながら、古典文学史の流れを辿る。

教科書 /Textbooks

配布プリント。
『岩波日本古典文学辞典』(久保田淳編、岩波書店)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本古典文学大系』(高木市之助他監修、岩波書店)
- 『新日本古典文学大系』(佐竹昭広他監修、岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 上代の文学 『万葉集』
- 3回 中古の文学 『古今和歌集』
- 4回 中古の文学 『伊勢物語』
- 5回 中古の文学 『源氏物語』
- 6回 中世の文学 『宇治拾遺物語』(1) 【序】
- 7回 中世の文学 『宇治拾遺物語』(2) 【巻十五の十二】
- 8回 中世の文学 『平家物語』
- 9回 中世の文学 『徒然草』
- 10回 近世の文学 『仁勢物語』
- 11回 近世の文学 『猿蓑』
- 12回 近世の文学 『世間胸算用』
- 13回 近世の文学 『仮名手本忠臣蔵』
- 14回 近世の文学 『誹風柳多留』
- 15回 近世の文学 『椿説弓張月』

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80%、授業に臨む態度... 20%
※適宜、小テストを行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト等を参考に、それぞれの作品について、各自整理しておくとい良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。本講義では大衆文化史を、大衆芸能のジャンル生成を焦点としながら他分野にも目配せをして概観していく。なお授業では、メディア環境の転換点を見極めつつ、日常生活の変容、思想の変容を関係させながら、来週文化を概観をする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 第1回 ガイダンス：講義のデザイン
 - 第2回 ●近世●近世都市の大衆【劇場】【寄席】【印刷文化】
 - 第3回 ●近代●幕末・文明開化【芸能統制】【改良言説】
 - 第4回 世紀転換期【言文一致】【レコード】【活動写真】【国家戦争】【民衆芸術】
 - 第5回 両大戦間期【民衆娯楽】【デパート】、【労働問題】【大衆文学】
 - 第6回 ●近代～現代●メディアの浸透【電気吹き込み】【トーキー】【ラジオ】
 - 第7回 総力戦・戦後占領【国家総動員】【GHQ】【軍国主義から民主主義へ】
 - 第8回 ●現代●民主主義の胎動①【民間放送】【グラフィック雑誌】【視聴者参加】
 - 第9回 民主主義の胎動②【大衆芸術】
 - 第10回 高度経済成長①【映画における英雄像】
 - 第11回 高度経済成長②【ナショナルメディアとしてのテレビ】
 - 第12回 高度経済成長③【大衆文化論の系譜】
 - 第13回 大衆文化の現在①【サブカルチャー】【島宇宙】
 - 第14回 大衆文化の現在②【海外消費される〈日本〉】【グローバリズム】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題)…約30%
学期末レポート(試験の場合もあり)約70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 大場 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

豊かな日本近世(江戸時代)の物語を読み、鑑賞することによって、当時のものの考え方、表現のあり方などを学びながら、古典の世界に親しみ、その素晴らしさを味わう。

教科書 /Textbooks

『雨月物語』(稲田篤信編著、勉誠出版)
適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『雨月物語評釈』(鶴月洋、角川書店)
 - 『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』(中村幸彦他編著、日本古典文学全集、小学館)
- ※『雨月物語』は研究の蓄積が多いことで知られています。上記以外にも、雨月物語の研究書が沢山あります。テキストの末尾で「参考文献」として挙げられるものなどを参考に、図書館で探してみましょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 上田秋成について
- 3回 「雨月物語序」
- 4回 「菊花の約」(1) 【鑑賞と解説】
- 5回 「菊花の約」(2) 【鑑賞と解説】
- 6回 「菊花の約」(3) 【鑑賞と解説】
- 7回 「浅茅が宿」(1) 【鑑賞と解説】
- 8回 「浅茅が宿」(2) 【鑑賞と解説】
- 9回 「浅茅が宿」(3) 【鑑賞と解説】
- 10回 「夢応の鯉魚」(1) 【鑑賞と解説】
- 11回 「夢応の鯉魚」(2) 【鑑賞と解説】
- 12回 「夢応の鯉魚」(3) 【鑑賞と解説】
- 13回 「貧福論」(1) 【鑑賞と解説】
- 14回 「貧福論」(2) 【鑑賞と解説】
- 15回 「貧福論」(3) 【鑑賞と解説】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、授業に臨む態度...20%
※適宜、小テストを行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館に沢山ある、上田秋成の関連本の中から、少なくとも一冊を読み、秋成の生涯を辿ってみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 河北 靖 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の基本となる和歌文学について、その特質を考える。

教科書 /Textbooks

『新編国歌大観』本のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記「ねらい」を、勅撰三代集から各一名の女流歌人を選び、それぞれの私家集の読解を進めることによって明らかにする。その歌人たちは、伊勢(古今集時代)・檜垣媼(後撰集時代)・和泉式部である。

- 1回 オリエンテーション~三代集とは【勅撰和歌集】
- 2回 私家集とは【いへのしゅう】【撰集】
- 3回 伊勢の生涯【宮仕え】【宮廷文化圏】
- 4回 冒頭歌群の特異性【物語的】
- 5回 仲平・時平との交渉【召し人】
- 6回 名も無き男たちとの贈答【日常詠】
- 7回 帝寵と皇子の生と死【栄光と挫折】
- 8回 温子中宮との交流【主従関係】
- 9回 檜垣媼とは【伝説的歌人】
- 10回 史実と虚構(1)【清原元輔】
- 11回 史実と虚構(2)【落魄説話】
- 12回 和泉式部の世間的評価【浮かれ女】
- 13回 日記と家集【和歌の力】
- 14回 敦道親王の死【挽歌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% 試験... 70%
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国歌大観本は、ほとんどがかな表記のため、次回予定部分を漢字かな交じりで書き改めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代の文学について、明治から大正にかけての代表的作家・作品とりあげて講義する。近代国家成立と政治・経済・社会・文化等の諸制度との関係のなかで小説表現がどのように模索されたのか、その軌跡を考察していく。文学的文章の高度な読解力・分析力を身につけることをめざす。

教科書 /Textbooks

新聞初出資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『漱石全集』第12巻(岩波書店) ○各種夏目漱石の文庫 ○各種文学史

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 夏目漱石『夢十夜』を精読する。
 - 第1回 日本の近代と文学-文学観・歴史観・宗教観-
 - 第2回 夏目漱石について
 - 第3回 『夢十夜』作品研究史
 - 第4回 『夢十夜』「第一夜」
 - 第5回 『夢十夜』「第二夜」
 - 第6回 『夢十夜』「第三夜」
 - 第7回 『夢十夜』「第四夜」
 - 第8回 『夢十夜』「第五夜」
 - 第9回 『夢十夜』「第六夜」
 - 第10回 『夢十夜』「第七夜」
 - 第11回 『夢十夜』「第八夜」
 - 第12回 『夢十夜』「第九夜」
 - 第13回 『夢十夜』「第十夜」
 - 第14回 『夢十夜』と同時代の文学
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に予習し、自身の解釈を説明できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の現代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代という時代において、現代が抱え持つさまざまな問題を、現代の作家たちはどのように作品として表現しているか。現代文学が現代に対して提起している問題について考察する。

教科書 /Textbooks

いしいしんじ『ぶらんこ乗り』(新潮文庫)
いしいしんじ『トリツカレ男』(新潮文庫)
いしいしんじ『絵描きの植田さん』(新潮文庫)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は配布したプリントで指示する。書名等だけでなく、各文献の必要部分はコピーしてプリントを作成し、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 いししんじとはとは？
- 2回 『ぶらんこ乗り』① 心に残る子供の世界
- 3回 『ぶらんこ乗り』② 動物と話すということ
- 4回 『ぶらんこ乗り』③ なぜ「ぶらんこ」か
- 5回 『ぶらんこ乗り』④ 「死」の意味
- 6回 『トリツカレ男』① 何かに夢中になる、ということ
- 7回 『トリツカレ男』② 障害を持つ主人公設定の意味
- 8回 『トリツカレ男』③ 愛ということ
- 9回 『トリツカレ男』④ 生きるということ
- 10回 『絵描きの植田さん』① 火事という不幸から始まることの意味
- 11回 『絵描きの植田さん』② 絵描きという主人公設定の意味
- 12回 『絵描きの植田さん』③ 都会と田舎
- 13回 『絵描きの植田さん』④ 「こんなすばらしい世界に住んでいる」ことの意味
- 14回 いししんじのその他の作品『麦ふみクーツ工』『プラネタリウムのふたご』『ポーの話』など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト 80% 平常点20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げる作品を事前に読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

12世紀（院政時代）に制作された四つの国宝絵巻：「源氏物語絵巻」・「信貴山縁起絵巻」・「伴大納言絵巻」・「鳥獣人物戯画（甲・乙巻）」は、数ある日本の絵巻の中でも優品として知られ、これらを輩出した12世紀は絵巻の黄金時代とも言われる。本講義では、これら四つの絵巻を概観することを通して、絵巻の基本を確認する。異時同図法や時間逆行の手法などといった特徴的な表現や段落式絵巻と連続式絵巻との違いなどを確認する。

昨年度は「伴大納言絵巻」と「鳥獣人物戯画（甲・乙巻）」について講義したので、本年度は、「源氏物語絵巻」と「信貴山縁起絵巻」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 院政期絵巻入門
- 2回 「源氏物語絵巻」概説-制作・構成・描法-①
- 3回 「源氏物語絵巻」概説-制作・構成・描法-②
- 4回 「源氏物語絵巻」の各場面①
- 5回 「源氏物語絵巻」の各場面②
- 6回 「源氏物語絵巻」の各場面③
- 7回 「源氏物語絵巻」の各場面④
- 8回 「信貴山縁起絵巻」の内容①
- 9回 「信貴山縁起絵巻」の内容②
- 10回 「信貴山縁起絵巻」の制作地・制作年代①
- 11回 「信貴山縁起絵巻」の制作地・制作年代②
- 12回 「信貴山縁起絵巻」尼公の巻をめくって①
- 13回 「信貴山縁起絵巻」尼公の巻をめくって②
- 14回 異時同図法・時間逆行の手法の諸相
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート（場合によっては期末試験）... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教と美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平安時代は、美術において技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生み出された時代としても知られる。本講義では、平安時代～鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本(尊像名・描法・修法など)を概観したいと思う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 仏画概説
- 2回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって①
- 3回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって②
- 4回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって①
- 5回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって②
- 6回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって①
- 7回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって②
- 8回 東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって
- 9回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって①
- 10回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって②
- 11回 藤田美術館所蔵「密教両部大経感得図」をめぐって
- 12回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって①
- 13回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって②
- 14回 聖衆来迎寺所蔵「六道絵」をめぐって
- 15回 聖衆来迎寺所蔵「六道絵」をめぐって

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート(場合によっては期末試験) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の都市文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治維新後、日本の大衆文化は西洋文化の影響を受けながらも、基本的には伝統の色を強く残していた。しかし、大正期になると都市化の進行によって大衆文化は大きく変貌した。さらに関東大震災には都市化・大衆社会化・情報化・アメリカニズムを背景に現代社会に通ずる「モダニズム」と呼ばれる現象が起こり、日本人の生活様式も大きく変化した。この講義ではその具体的な実相について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○南博・社会心理研究所編『大正文化』(勁草書房、1987年)
竹村民郎『大正文化』(三元社、2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市文化の研究史【大正文化】【大正デモクラシー】【大正口マン】
- 2回 都市化の進行とモダニズム(1)【アメリカ化】【モダニズム】
- 3回 都市化の進行とモダニズム(2)【帝都復興】【都市中間層】
- 4回 都市化の進行とモダニズム(3)【鉄道】
- 5回 衣食住の変貌と伝統(1)【洋服】
- 6回 衣食住の変貌と伝統(2)【洋食】
- 7回 衣食住の変貌と伝統(3)【文化住宅】【郊外地住宅】
- 8回 舞台としての都市建築(1)【呉服店】【観工場】
- 9回 舞台としての都市建築(2)【百貨店】
- 10回 舞台としての都市建築(3)【カフェー】【喫茶店】
- 11回 都市と娯楽(1)【ラジオ】
- 12回 都市と娯楽(2)【映画】
- 13回 都市と娯楽(3)【野球】
- 14回 都市と娯楽(4)【競馬】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

真の「情報化」「国際化」社会に相応しい日本語表現の創造・発信が、求められる。Iでは、生活語による表現の豊かで確かな力の涵養に努め、具体的な「手紙」文での考察・実践を、IIでは、各自の専攻をも考慮に入れ、独自の課題の設定・情報の収集・選択、課題解決への構想・論述法等を、相互批評の中で学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【「手紙」】って何だろう。
- 第2回 文学の中の「手紙」に学ぶ。
- 第3回 「手紙」は、駆逐されるのか。
- 第4回 こんな「手紙」もある。
- 第5回 短さが、豊かさと呼ぶ。
- 第6回 【相手意識】を、確かめる。
- 第7回 「手紙」を読み分ける。
- 第8回 「返事」を、構想する。
- 第9回 「手紙」の形式を、確認する。
- 第10回 演習(1) 豊かな「手紙」に学ぶ。
- 第11回 演習(2) 相手を設定する。
- 第12回 演習(3) 語彙を豊かにする。
- 第13回 演習(4) 構想・形式を工夫する。
- 第14回 ~に宛てて、「手紙」を書く。
- 第15回 ~への「返事」を書く。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講後に「日本語表現法II」を履修することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

真の「情報化」「国際化」社会に相応しい日本語表現の創造・発信が、求められる。Iでは、生活語による表現の豊かで確かな力の涵養に努め、具体的な「手紙」文での考察・実践を、IIでは、各自の専攻をも考慮に入れ、独自の課題の設定・情報の収集・選択、課題解決への構想・論述法等を、相互批評の中で学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【「情報」】は、真実を伝えるか。
- 第2回 【課題】を、設定する。
- 第3回 情報・資料を【収集・選択】する。
- 第4回 分類し、見出しをつける。
- 第5回 順序を決める。
- 第6回 「起承転結」を再確認する。
- 第7回 【書き出し】をどうするか。
- 第8回 具体から一般へと、どう導くか。
- 第9回 「反極注意」ができるか。
- 第10回 総合の観点を、創造する。
- 第11回 演習(1)「起」を記述する。
- 第12回 演習(2)「承」を記述する。
- 第13回 演習(3)「転」を記述する。
- 第14回 演習(4)「結」を記述する。
- 第15回 まとめ 800字で論述する。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語表現法I」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら進めていく。できれば、日本語教育能力検定試験をも意識した話も行いたい。また、共時的な観点のみならず通時的観点からの知識も提供する。

教科書 /Textbooks

主たるテキストではないが『よくわかる音声』(アルク)を、用語解説書の代わりに使用し、適宜、プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義時間中に、必要に応じて、提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 あらまし
 - 2回 音韻と音声1【ラング】【パロール】【音素】【単音】
 - 3回 音韻と音声2【特殊拍】【最小対】【異音】
 - 4回 調音音声学的分析1【母音】
 - 5回 調音音声学的分析2【子音】
 - 6回 調音音声学的分析3【調音点】
 - 7回 調音音声学的分析4【調音法】【音声字母表】
 - 8回 日本語の音1【破裂音】
 - 9回 日本語の音2【摩擦音】
 - 10回 日本語の音3【破擦音】
 - 11回 日本語の音4【鼻音】【鼻濁音】
 - 12回 日本語の音5【口蓋化】【無声化】
 - 13回 日本語の音6【同化】【異化】
 - 14回 日本語の音7【五十音図と音】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 75% 出席点... 15% 平常点... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な参加を期待する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら進めていく。できれば、日本語教育能力検定試験をも意識した話も行いたい。また、共時的な観点のみならず通時的観点からの知識も提供する。

教科書 /Textbooks

主たるテキストではないが『よくわかる音声』(アルク)を、用語解説書の代わりに使用し、適宜、プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時間中に、必要に応じて、提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 あらまし
 - 2回 アクセント1【ストレスアクセント】【ピッチアクセント】
 - 3回 アクセント2【共通語のアクセント体系】
 - 4回 アクセント3【方言のアクセント】
 - 5回 アクセント4【複合語のアクセント】
 - 6回 アクセント5【アクセントの機能】
 - 7回 イントネーション
 - 8回 音韻史1【上代特殊仮名遣い】
 - 9回 音韻史2【音価】
 - 10回 音韻史3【八行転呼現象】
 - 11回 音韻史4【才段長音の開合】
 - 12回 音韻史5【四つ仮名】
 - 13回 アクセント史1【中世】
 - 14回 アクセント史2【近世語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 75% 出席点... 15% 平常点... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な参加を期待する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代思想【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の主たる関心は、近代国家形成期における日本の政治家や知識人の立憲政治理解のあり方を、現実の明治立憲制の構築とそれをめぐる政治的対立の中から探る。さらにその理解のあり方が、明治立憲制の実際の構造・運用・機能などの上にもどのような刻印を与えたかを考える。このような作業を通じて大日本帝国憲法に対する同時代的な理解と今日的なイメージや評価との齟齬について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鳥海靖『日本近代史講義』(東京大学出版会、1988年)
○江村栄一校注『憲法構想』(岩波書店、1989年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 明治立憲制の理解と評価【研究動向】
- 2回 幕末における立憲政治論【君民同治】
- 3回 明治初年の立憲政治の理念と構想【五箇条の誓文】【公論】
- 4回 民撰議院設立の建白【有司専制】
- 5回 国会開設運動【立志社】【大阪会議】
- 6回 元老院の国憲案【国憲案】
- 7回 政府内の憲法意見【天皇親裁】
- 8回 大隈重信の憲法意見【明治14年の政変】
- 9回 自由党と立憲改進黨【国会期成同盟】
- 10回 民間の立憲政体構想【私擬憲法】
- 11回 伊藤博文の憲法構想【憲法調査】【立憲カリスマ】
- 12回 宮中改革と太政官制の廃止【華族令】【内閣制度】
- 13回 大日本帝国憲法の発布【君権主義】【立憲主義】
- 14回 明治立憲制の運用をめぐって【明治憲法体制】【超然主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、現代の世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代として虚無と戦ったHemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズムの文学】を読んでアメリカ文学への理解を深めたい。

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(岩波文庫)
F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)
Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズム】の作品等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ポールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22の状況とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(1) 【シュールリアリズム】
- 15回 ポストモダニズムの文学(2) 【ブラックユーモア】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ文学を代表する小説家、ジョン・スタインベックの代表作を、具体的に読んでいく。その作業を通して、文学作品を客観的かつ分析的に読解する能力を身につける。また、作品がアメリカ人の価値観や美意識をどのように反映しているかを詳しく考察していく。その作業を通して、文学作品が社会や文化の独自性、特殊性を映し出す鏡となっていることを理解してもらう。他国の文学を読むことが、他国の文化を学ぶことに連なることを実感してもらいたい。

教科書 /Textbooks

John・Steinbeck The Grapes of Wrath 新潮文庫 (大久保康雄訳)
 必要に応じて、レジュメと英語資料の抜粋を配布する。
 参考文献は、初回、授業時にリストを配布して紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション、参考文献の紹介
- 2 回複数の作品に共通して見られる現代アメリカ文学の特徴についてI
- 3 回複数の作品に共通して見られる現代アメリカ文学の特徴についてII
- 4 回現代アメリカ文学の特徴と、アメリカ文化・社会の特殊性との関連性I
- 5 回現代アメリカ文学の特徴と、アメリカ文化・社会の特殊性との関連性II
- 6 回ビデオによる映画版の鑑賞I
- 7 回ビデオによる映画版の鑑賞II
- 8 回担当教員の視点からの作品分析：女性像の背後に潜む作者の意図
- 9 回担当教員の視点からの作品分析：手作業の描写とアメリカ文化との関連性I
- 10 回担当教員の視点からの作品分析：手作業の描写とアメリカ文化との関連性II
- 11 回担当教員の視点からの作品分析：国営キャンプ描写とアメリカ文化との関連性
- 12 回担当教員の視点からの作品分析：自然描写とアメリカ文化との関連性
- 13 回担当教員の視点からの作品分析：銃の描写とアメリカ文化との関連性
- 14 回担当教員の視点からの作品分析：権力描写とアメリカ文化との関連性
- 15 回まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% テキスト、配布プリント、自筆ノート持ち込み可で試験を行う。(コピーはすべて持ち込み不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り、テキストを事前に読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】【アメリカの独立】を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』(新潮文庫)
The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】の文学
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】の文学
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、レポート(40%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

誰もがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深める。アメリカ文化を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。この作業を通してアメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解を深めたい。また、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらおうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 アメリカ映画の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴と、アメリカ史の関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『シスの復讐』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 全体のまとめ、補足説明
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% 試験は、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達、誰もがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの史実や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカの歴史、文化との相互関連性に対する理解を深める。アメリカの歴史と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。アメリカの歴史・文化の特殊性、独自性への理解も深めることができればと思っている。具体的には、編集したハリウッド映画の断片をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ的価値観、美意識を考察する。さらに、それらの美意識と過去のアメリカの歴史との関係について考察していきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメを配布する。
参考文献は、開講時にプリントを配布して詳しく説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 Forrest Gump、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 Titanic とアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 Green Mile とキリスト教の関係の分析
- 5回 Monster's Inc とアメリカの多様性の関係
- 6回 Star Wars とアメリカの多様性の関係
- 7回 The Lord of the Ring とアメリカの多様性の関係
- 8回 Independence Dayとアメリカのほら話
- 9回 Star Wars EplIII とアメリカのほら話
- 10回 Devil Wears Prada とアメリカ人の個人観
- 11回 Titanic とアメリカ人の個人観
- 12回 A . I とアメリカ人の機械観
- 13回 Terminator II とアメリカ人の機械観
- 14回 Terminator IV とアメリカ人の機械観
- 15回 まとめ (絶対に欠席しないこと。)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% 試験は、自筆ノート(コピーノートは不可)持ち込み可で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国では、結婚や日常生活といった私的領域から政治や外交、教育に至る公的領域にわたり、宗教が大きな影響を及ぼしている。一方、欧米世界ではごく初期に政教分離を法制化し、「自由」「平等」「民主主義」といったアメリカの理念を標榜し、世界にその影響を及ぼしている。本講義では、こうしたアメリカの宗教事情を理解するため、建国期から現在にまでの幅広い歴史的視野に立ち、アメリカ社会と宗教の関係について考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 ニューイングランドの建設と「選民」思想
- 4回 - 6回 独立革命と宗教
- 7回 - 9回 政教分離の原則
- 10回 - 12回 選挙と政治
- 13回 - 14回 社会的規範と宗教
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・課題等含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの代表的な現代小説を数編取り上げ、テーマなどを分析し、各々の小説およびその作家の特徴を考える。読書の課題を課すことによりなるだけ多くの作品に触れてほしいと考えている。授業を通じて小説を読む醍醐味を一緒に楽しみたい。

教科書 /Textbooks

『ホテル・ワールド』アリ・スミス著・丸洋子訳 (DHC)
Ali Smith, Hotel World (Penguin, 2002)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 『日の名残り』 「1日目・2日目」
- 2回 『日の名残り』 「3日目・4日目」
- 3回 『日の名残り』 「5日目・6日目」
- 4回 『贖罪』 Part 1
- 5回 『贖罪』 Part 2
- 6回 『贖罪』 Part 3
- 7回 『贖罪』 まとめ
- 8回 Hotel World “Past”
- 9回 Hotel World “Present Historic”
- 10回 Hotel World “Future Conditional”
- 11回 Hotel World “Perfect”
- 12回 Hotel World “Future in the Past”
- 13回 Hotel World “Present”
- 14回 Hotel Worldのまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況および課題提出により評価する。試験は行わない。

課題

- (1) 毎回の授業につき6～10行程度の感想文などを書いて提出(課題内容は授業中に指示する)。(40%)
 - (2) Hotel Worldの各章につき、あらずじ400～500字程度、好きな文章(原文)の抜き出し2箇所以上及び簡単な感想を書いて提出(6月第2週の授業時に提出)。(30%)
 - (3) Hotel Worldまたは参考文献の作品どれか1つについて、何か1つテーマを選び、2,000字程度のレポートを書いて提出。重要だと思われる文を適宜引用しながら、作品のテーマについて自分なりの解釈を述べる内容のものが望ましい。(最後の授業時に提出)(30%)
- 全出席および(1),(2),(3)の課題を全部提出した時点で内容の良し悪しにかかわらず70点として評価する。
上記の課題とは別に小説や英語の原文(小説の一部で良い)を読んで自由レポート(あらずじなど)を提出した場合には、必要に応じて加点する(ボーダーに点が少し不足する場合など。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業時に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの大衆文化【昼】

担当者名 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの映画や小説における女性の主体形成の描かれ方を考察する。
題材は『ジェイン・エア』『ベッカムに恋して』『サルガッソーの広い海』。
(時間が許せば『ヴェラ・ドレイク』まで。『ヴェラ・ドレイク』については、『朗読者』(独)『チェンジリング』(米)と比較しつつ考察を加える可能性あり。)

映画を見て、原作と比較しつつ、主人公や脇役の女性たちの表象のされ方について分析する。
ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、階級、職業、植民地主義等の問題にも目配りをする。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリント配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2~5回 『ジェイン・エア』を題材に女性の主体形成の表象について考える。
【女家庭教師・移動・インド・西インド諸島・狂気・結婚・遺産・宗教】
- 6~9回 『ベッカムに恋して』を題材に女性の主体形成の表象について考える。
【エスニックマイノリティ・ジェンダー・セクシュアリティ・ホモソーシャルボンド
・シスターフッド・スポーツ・アメリカ・資本主義・結婚・階級・アイルランド・家族】
- 10~13回 『サルガッソーの広い海』を題材に女性の主体形成の表象について考える。
【エスニシティ・「屋根裏の狂女」・狂気・セクシュアリティ・ジェンダー・
『ジェイン・エア』】
- 14回 予備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習参加・小レポート25~30% 期末レポートまたは試験70~75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『ジェイン・エア』(シャーロット・ブロンテ作)および『サルガッソーの広い海』(ジーン・リース作)は翻訳で構わないので授業開始前までに必ず読了しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの歴史を通時的にたどりながら、各々の時代に深い関連のある文化事象をそのつど取り上げ、解説する。DVDなども教材として用い、興味を持てる授業になるよう心がける。

教科書 /Textbooks

『図説 イギリスの歴史』指昭博著(河出書房新社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1章 「諸民族の興亡」
- 2回 英語の成立
- 3回 第2章 「大陸国家から島国へ」
- 4回 第3章 「王朝の対立」
- 5回 第4章 「テューダー朝の時代」
- 6回 キリスト教とイギリス国教会
- 7回 エリザベス女王とルネサンス
- 8回 第5章 「ステュアート朝の時代」
- 9回 第6章 「ハノーヴァ朝の時代」
- 10回 紅茶の歴史
- 11回 産業革命
- 12回 第7章 「改革の時代」
- 13回 第8章 「大英帝国の繁栄と衰退」
- 14回 第9章 「20世紀のイギリス」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可。主として記号選択問題)100%。平素の授業態度により多少の増減あり。
期末試験の成績が60,70,80,90に不足している場合、その幅が5点以内であれば、レポート(課題は自由)を提出した者に限り、60,70,80,90点に引き上げる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業の前にテキストの該当箇所を通読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライドを適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【伝統の創造】【帝国】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスの家族関係は危機にある【王室】【フーリガン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化論【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特に中心とするテキストはないが、必要に応じてプリント資料を用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員が、各テーマ毎に参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その1) ジェンダーとセクシュアリティ
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 2回 映画『キンキーブーツ』を題材にジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その2) ファッション
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 3回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その3) 経済
- 4回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その1) カトリックと中世
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 5回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その2) プロテスタントと資本主義
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 6回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その3) エスニックマイノリティとイスラム教
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 7回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その1) 階級
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 8回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その2) 労働者と言語
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 9回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その3) 石炭経済
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 10回 イギリスの王室とメディアについて考える。
【王室】【大衆】【新聞】【テレビ】
- 11回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その1) ロンドンオリンピック、ロンドン万博
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 12回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その2) デパート、ロンドン動物園、キューガーデン、図鑑
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 13回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その1) エスニシティ
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 14回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その2) ホモソーシャルボンド
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業コメント含む)... 25% 課題... 0-25% 期末試験... 50-75%

イギリス文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環大西洋の社会史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス。
- 2回 イギリス革命：政治とピューリタン革命。
- 3回 イギリス革命：宗教とピューリタン革命
- 4回 イギリス革命：自由と名誉革命。
- 5回 アメリカ革命：政治と反英抗争。
- 6回 アメリカ革命：経済と反英抗争。
- 7回 アメリカ革命：自由と独立革命。
- 8回 アメリカ革命：自由とアメリカ共和国の成立。
- 9回 フランス革命：自由と89年革命。
- 10回 フランス革命：政治と89年革命。
- 11回 フランス革命：政治とナポレオン時代。
- 12回 産業革命：イギリスの産業革命。
- 13回 産業革命：アメリカの産業革命。
- 14回 革命とナショナリズム。
- 15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋美術史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 貞包 博幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19～20世紀初頭の西洋美術に焦点をあてる。とりわけ産業革命後の近代市民社会の形成や機械文明の発達が発達が芸術活動にどう影響したか、近代美術とはそもそもどのようなものであり、どのようにして形成されたかを見ることにする。そのために絵画・彫刻に留まらず、建築・工芸・産業製品についても映像を多用し、理論的かつ視覚的な理解に努める。目標とするところは造形表現が時代の変化といかに密接に関わり、社会の状況を反映したものであるかを知ることにある。

教科書 /Textbooks

安部公正他著『世界デザイン史』美術出版社、2500円(2006年1月)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

千足伸行他『新西洋美術史』西村書店 ニコラス・ペブスナー『モダンデザインの展開』みすず書房
貞包博幸訳『キュービズム』および『バウハウスの実験住宅』中央公論美術出版 他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- | | | |
|--------|----------------|------------------------|
| 1回 | 近代市民社会の発展と美術 | 産業革命、フランス革命、【大衆社会】 |
| 2回 | 美術における二つの価値体系 | 理想主義的価値観、実利的価値観 |
| 3回 | 19世紀の美学思想 | 「用」なるもの、「美」なるもの |
| 4回 | アカデミズムの芸術思潮 | アカデミー、【歴史主義】、芸術至上主義 |
| 5～6回 | 機械文明と新しい造形 | 万国博覧会、鉄道の発達、【機械化】 |
| 7回 | 印象主義の誕生 | マネの絵画、モネの絵画 |
| 8回 | アーツ・アンド・クラフト運動 | ウィリアム・モリス、手工芸、【芸術の大衆化】 |
| 9～10回 | アール・ヌーボーの芸術運動 | 【曲線様式】、鉄の愛用 |
| 11回 | キュービズムの絵画とその意味 | ピカソ、【視点の移動】、時間の導入 |
| 12～13回 | ドイツ工作連盟の活動 | ドレスデン手工芸工房、【規格化】、【品質】 |
| 14回 | バウハウスとモダニズム | 【芸術と技術の統一】 |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...10 % 課題(レポート提出) ...30 % 期末テスト ...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外で望むことはできるかぎり多く美術展を観賞すること。
授業では、各回資料を配付するので十分に読み理解に努めておくこと。出欠は毎回取る。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- この講義のねらいは次の通りです。
- 1) 作品『星の王子さま』を最初から最後まで読んで味わい、内容理解を深める。
 - 2) 作品が提示しているさまざまなテーマについて自分なりの考えを育てる。
 - 3) 考えたことを文章で表現する力をつける。

教科書 /Textbooks

『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ作、河野万里子訳、新潮文庫）
※他の翻訳者によるものも多数出ていて作品名も『小さな王子さま』『ちいさな王子さま』『プティ・フランス』となっていたりもするが、どれも構わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「サン＝テグジュペリ著作集」（全12巻、みすず書房）
- 『サン＝テグジュペリの生涯』（ステイシー・シフ著、新潮社）
- 『「星の王子さま」の见えない世界』（水本弘文著、大学教育出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：作者と作品の紹介＋作品の「献辞」読解
- 2回：以降、毎回作品の2～3章ほどを取り上げて解説や質疑応答のうちに読み取りを深める。
- 3回：
- 4回：
- 5回：
- 6回：
- 7回：
- 8回：
- 9回：
- 10回：
- 11回：
- 12回：
- 13回：
- 14回：
- 15回：終章の読解＋まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のレポート...80% 平常点...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回レポート提出。テーマは前回取り扱った章から自分で見つけ、考察したことを書く。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ文化圏内の世界遺産を手がかりとして、ドイツの歴史とドイツ文化の多様性について考える。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 世界遺産とは何か
- 2回 ドイツ史概観
- 3回 ケルン大聖堂
- 4回 宗教建築の基礎知識
- 5回 危機遺産指定と解除
- 6回 ドレスデン・エルベ渓谷
- 7回 東西ドイツ再統一後の問題
- 8回 危機遺産指定と世界遺産からの削除
- 9回 リューベック・戦災からの復興
- 10回 その他のハンザ都市
- 11回 再統一後のハンザ都市の整備
- 12回 番外編・アウシュヴィッツ
- 13回 その他の強制収容所
- 14回 負の遺産の持つ意味
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペインの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イベリア半島のスペインは、地域的に多様性に富んだ国です。講義では中世イベリア半島におけるイスラーム勢力との遭遇、レコンキスタと諸地域の形成からスペイン王国確立にいたる歴史を概観したうえで、おもに近世スペイン社会史の視点から人々の心性に焦点を絞って、スペインの社会と文化を扱います。今日の多言語・多文化スペインの理解につなげたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ペナサール『スペイン人-16世紀~19世紀の行動と心性』(彩流社)
- 立石博高ほか編『スペインの歴史』(昭和堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な内容: ヨーロッパのなかのスペイン
- 2回 中世のイベリア半島-イスラーム優位の時代 【アル・アンダルス】
- 3回 キリスト教諸王国の形成から半島の統一 【レコンキスタ】
- 4回 スペイン王国成立: 国家と社会 【複合王政】【異端審問所】【血の純潔】
- 5回 大航海時代のイベリア世界と日本 【イエズス会】
- 6回 近世スペイン: 時間と空間の持続
- 7回 カトリック信仰の黄金時代 【マンタリテ】
- 8回~9回 祝祭と娯楽
- 10回 18世紀スペイン 【啓蒙改革】
- 11回 セビーリャのテルトゥリア【ソシアビリテ】
- 12回 近代はカディスから、カフェ文化の誕生
- 13回 カディス国民議会【1812年憲法】【自由主義革命】
- 14回 スペイン独立戦争
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上にあげた参考文献のほか、授業で紹介する文献を読む。とくにどの学問もそうであるが、特殊な用語(キー・ワード)については、歴史学辞典、『スペイン・ポルトガルを知る事典』(平凡社)などで確認する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近現代の南欧世界【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

南スペインを代表するアンダルシアに焦点を絞り、工業化・国民化の文脈のなかでアンダルシアの位置、人々が生きた生活空間(アグロタウン)、ソシアピリテ形態と変容、日々のたたかい(抗議行動から移民まで)について論じ、経済的「停滞」や「後進性」で特徴づけられた南欧像の再考を試みる。

教科書 /Textbooks

プリントを毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 立石博高ほか編『スペインの国家と地域』国際書院、2003年
- 関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「長い19世紀」ヨーロッパのなかのスペイン
- 2回 出来事-独立戦争と自由主義革命
- 3回 カタルーニャの工業化と南スペイン【不均衡発展】
- 4回 19世紀の国民形成【国民化】
- 5回 南スペインの生活空間
- 6回 アグロタウン論【共同体】【都市的秩序】
- 7回 プレナンが見たアンダルシア農村
- 9回 農民たちのたたかい 【ラティフンディオ制】【ホルナレーロ】【再生産戦略】
- 10回 イベリア半島南部の移民現象 【世紀末農業危機】【移民システム】
- 11回 アソシアシオンの養生とその意味 【カシーノ】【農民組合】
- 12回 アンダルシア地域主義 【再生主義】
- 13回 フランス・イタリアの「南」との比較 【オクシタニー】【シチリア】
- 14回 近代史のなかの「南」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で紹介する参考文献を読むと理解が早いでしょう。授業で配布するレジユメを読み直し、学んだことを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシアの歴史と社会【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソ連崩壊以降の国内社会問題、内政、近隣諸国との関係など現代ロシアも含めて、ロシアの歴史・社会・文化・生活習慣などについて理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和田春樹編『ロシア史』山川出版社、藤沼貴著『ロシア その歴史と心』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシアの自然・風土：ロシア基本データ、ロシアの領域特徴・自然特徴
- 2回 ロシアの歴史1：【キエフ・ルーシ】、【モンゴルの支配】、【モスクワ公国の発展】
- 3回 ロシアの歴史2：【動乱の時代】、【西欧化の波】、【ピョートル時代の近代化】
- 4回 ロシアの歴史3：【帝政ロシアの異民族支配体制】、【19世紀の改革と反動】、【ロシア革命】
- 5回 ロシアの歴史4：【ソ連国家建設から1970年代末までのソ連社会概観】
- 6回 ビデオ鑑賞：ソ連時代の人々の行動と価値観
- 7回 - 8回 ロシア文化論：ロシア文化と地政学的条件、自然観と宗教、生活文化、社会文化
- 9回 - 10回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで：【ペレストロイカ】、【グラスノスチ】
- 11回 エリツイン時代のロシア：企業民営化、議会と大統領の対立、チェチェン侵攻
- 12回 プーチン時代のロシア：7連邦管区制度導入、言論統制、民営化企業見直し
- 13回 中央政府と民族共和国の関係：タタルスタン、ダゲスタンを例に
- 14回 ロシアの外交：【近い外国】、【遠い外国】との関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北ユーラシアの民族と社会【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。
事例研究では、ロシア・旧ソ連を重点的に扱い、多民族国家・社会における言語問題、民族対立、文化統合・国民統合などの問題について考察し、グローバル化社会における個人と帰属社会の関係について理解を深めることを狙いとする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年
『スラブの民族』(講座スラブの世界 2) 山川出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：【民族籍と国籍】、【民族アイデンティティ】
- 2回 - 3回 民族社会と文化：文化の定義、人と文化、文化政策、【クレオール】
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 - 6回 言語と社会：【母語とは】、近代化と言語政策・言語問題
- 7回 アジアの国語教育
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会：ウラル系とチュルク系民族の共生の歴史
- 9回 北カフカスの諸民族
- 10回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 11回 - 12回 中央アジアの民族と社会：草原の民とオアシスの民、信仰と宗教、新たな国造り
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：各地域が抱える問題、言語事情
- 14回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 80 % 平常の学習状況 ... 20 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位修得資格を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

K. Takami(1992)等。講義中に別途指示、またはプリントを配布する。

『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語音声学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達史の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション概論【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーションに関する諸理論・概念を学習する。受講生には次の「力」をつけてほしい。①日常生活の中に「異文化」を発見する力、②異文化を排除するのではなく受容する力、③自文化を相対化する力。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東照二『社会言語学入門』研究社
- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回イントロダクション (成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2 回文化(1) : 文化を定義する
- 3 回文化(2) : 「異文化」とは
- 4 回コミュニケーション・モデル
- 5 回コミュニケーション・スタイル
- 6 回非言語コミュニケーション
- 7 回ポライトネス・ストラテジー
- 8 回中間のまとめ
- 9 回言葉と文化
- 10 回ジェンダーとコミュニケーション
- 11 回ステレオタイプ
- 12 回パーセプション・ギャップ
- 13 回表象される「異文化」
- 14 回多文化社会
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60%、 学期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語は様々な要因によって影響を受けます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはその言語をどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。言語と社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。今年度は「ことばのバリエーション」、「方言接触」、「言語接触」に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二. (1997). 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 研究社出版.
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子. (2003). 『新世代の言語学』 ころしお出版.
- 田中春美・田中幸子. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 ことばのバリエーション
地域方言
- 3回 社会方言
- 4回 方言接触
- 5回 アコモデーション理論(1)
- 6回 アコモデーション理論(2)
- 7回 第二方言習得
- 8回 方言接触とコイネ化
- 9回 植民地独立後の方言形成
- 10回 言語接触
ピジンとクリオール・ダイグロシア
- 11回 コードスイッチング
- 12回 外来語
- 13回 言語のシフトと維持
- 14回 言語の死
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100% (欠席が3分の1を越える場合は、学期末試験を受けられません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
- Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
- Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Greetings - World Greetings, Adverbs of Frequency
2. Explorers - Geography & Occupations, Past Tense, Past Activities
3. Continue chapter-Discussion – Composition Results
4. Inventions - Machines etc., Past Continuous Tense, Discussion – Last Weekend
5. Continue Chapter – Instant Speeches
6. Review Grammar Test & Cumulative Dialog Test
7. Weather - Lightening, Will & Going to, Composition- Weekend Plans
8. Continue Chapter – Composition Results
9. Transportation - Can & Could
10. Continue Chapter – Tell Us about Yourself
11. Describing places – Superlatives
12. Continue Chapter –Discussion about Final Exam.
13. Review Grammar Test & Cumulative Dialog Test
14. Major Speeches
15. Summary or Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make 50% of the final mark. The other 50% will be from a major speech each student makes and following an outline during that speech.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The same text actually is used for two semesters, because each chapter takes more than one class period, and the speech and questions often take longer than one or two periods.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - f

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - g

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - h

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because'; Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 10 回 Getting people's attention and interrupting/Eighth oral presentations/ listening test
- 11 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by / Writing: paragraph---a country you know
- 12 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/ relative clauses
- 13 回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15 回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - b
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "Sure, No Problem!" /two-part verbs/ requests with modals/
'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends" /gerunds-/ clause with 'because';
Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate" /relative clauses of time/ adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!" / modals & adverbs/ permission, obligation,
prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future" /time contrasts/ conditional sentences using
if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?" / unreal conditional sentences w/
if clauses/ past modals
- 10 回 Getting people's attention and interrupting/ Eighth oral presentations/
listening test
- 11 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing" /passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 12 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie" / participles as adjectives/
relative clauses
- 13 回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling
the conversation
- 15 回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Discussion & Composition about Vacation Activities
2. Sports-Must, Must not, Have to ,etc
3. Continue Chapter/Discussion about Writing from First Class.
4. Health – Food & Drink , Should & Shouldn't
5. Continue Chapter/Instant Speech Assignment
6. Entertainment-Oscars, present perfect tense
7. Continue Chapter/Grammar Review Quiz
8. Desire for chocolate, food, verb + gerund or infinitive
9. Continue Chapter/Write about Food likes and Dislikes
10. Animal communication – conditional if. Final Speech Project Plan
11. Fashion(Passive Voice)
12. Final speech Project
13. Final speech Project
14. Continue Chapter
15. Final Speech Project

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make 50% of the final mark. The other 50% will be from a major speech each student makes and following an outline during that speech.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 1 - e
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - f

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 1 0 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 1 1 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 1 2 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 1 3 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 1 4 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 1 5 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - g

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - h

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on developing students' discussion skills, English speech presentation skills and note-taking skills in an on-your-feet, parliamentary debate format. Students will also learn to brainstorm, pre-write, organize their argumentation, and develop rebuttal skills to support their opinions and debate argumentation skills. Finally, this course will develop critical thinking and listening skills in English so that students feel comfortable when adjudicating their peers.

教科書 /Textbooks

Both Make Your Point! and excerpts from Discover Debate will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: What is debate?; debate vs. argument and discussion; definitions; derivations
- 2 回 Unit 2: Tennis debate: comparisons, contrasts and conditional statements
- 3 回 Review & Quiz
- 4 回 Unit 3: Resolutions and cases; casing a resolution; brainstorming and paraphrasing
- 5 回 Unit 4: Points; making points; flowing; note-taking; reading back from notes
- 6 回 Unit 5: The First Affirmative Constructive; links; opening speeches; abbreviations
- 7 回 Review & Quiz
- 8 回 Unit 6: The First Negative Constructive; refutation; opening negative speeches
- 9 回 Discover Debate handouts and homework
- 1 0 回 Unit 7: Holistic reasoning; bringing points together in a logical framework
- 1 1 回 Review & Quiz
- 1 2 回 Unit 8: Members' speeches; later speeches; critiquing speeches; notetaking
- 1 3 回 Unit 9: Rebuttals and adjudication; organization of closing speeches; judging
- 1 4 回 Review & Quiz
- 1 5 回 Unit 10: Speaking Style; voice; gestures; body language; word stress; emphasis; resolution brainstorming; team selection; preparation for 2nd semester first debate

成績評価の方法 /Assessment Method

Quizzes over parliamentary debate format and language: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, weekly quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 2, (Macmillan Language

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回(Week 1)	Introduction
第2回	Unit 1: Keeping in touch
第3回	Unit 2: Feeling nostalgic
第4回	Unit 3: School and beyond
第5回	Unit 4: Below the surface
第6回	Unit 5: Going on vacation
第7回	Unit 6: Keeping up to date
第8回	Unit 7: Staying healthy
第9回	Unit 8: An honest life
第10回	Unit 9: That makes me mad
第11回	Unit 10: It's a chore
第12回	Unit 11: Change
第13回	Unit 12: A good life
第14回	Course summary
第15回	Guidance of exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

For and against Expressing opinions and exchanging ideas Flaherty (1stsemester)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The internet, reading, listening, building a paragraph & statistics
- 3 回 NEETs reading, listening, building a paragraph & statistics
- 4 回 Fashion reading, listening, building a paragraph & statistics
- 5 回 Environment reading, listening, building a paragraph & statistics
- 6 回 international marriage reading, listening, building a paragraph & statistics
- 8 回 junk food reading, listening, building a paragraph & statistics
- 9 回 paternity leave reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 0 回 depopulation reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 1 回 examinations reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 2 回 animal testing reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 3 回 temporary workers reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Would you like beef or fish?
- 第3回 Can I have your passport, please?
- 第4回 Do you have any vacancies?
- 第5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第7回 Do you mind if I watch TV?
- 第8回 How do you feel?
- 第9回 Are you free this weekend?
- 第10回 Are you ready to order?
- 第11回 My father works in a bank.
- 第12回 Out and About 2: Eating Out
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (MacMillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions
- 2 回 Life likes
- 3 回 Vocabulary development for likes
- 4 回 Friends and relationships
- 5 回 Vocabulary development for relationships
- 6 回 Entertainment
- 7 回 Vocabulary development for entertainment
- 8 回 Review
- 9 回 Socialization
- 1 0 回 Vocabulary development for Socialization
- 1 1 回 Activities
- 1 2 回 Vocabulary development for activities
- 1 3 回 Money and communicating
- 1 4 回 Vocabulary development for communicating
- 1 5 回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - d /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (MacMillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions
- 2 回 Life likes
- 3 回 Vocabulary development for likes
- 4 回 Friends and relationships
- 5 回 Vocabulary development for relationships
- 6 回 Entertainment
- 7 回 Vocabulary development for entertainment
- 8 回 Review
- 9 回 Socialization
- 1 0 回 Vocabulary development for Socialization
- 1 1 回 Activities
- 1 2 回 Vocabulary development for activities
- 1 3 回 Money and communicating
- 1 4 回 Vocabulary development for communicating
- 1 5 回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス AES 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on developing students' discussion skills, English speech presentation skills and note-taking skills in an on-your-feet, parliamentary debate format. Students will also learn to brainstorm, pre-write, organize their argumentation, and develop rebuttal skills to support their opinions and debate argumentation skills. Finally, this course will develop critical thinking and listening skills in English so that students feel comfortable when adjudicating their peers.

教科書 /Textbooks

Both Make Your Point! and excerpts from Discover Debate will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 First two debates (over topic selected before summer recess); new topic handouts
- 2 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 3 回 Two debates in English; new topic handouts
- 4 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 5 回 Two debates in English; new topic handouts
- 6 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 7 回 Two debates in English; new topic handouts
- 8 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 9 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 0 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 1 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 2 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 3 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 4 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 5 回 Two debates in English; new topic handouts

成績評価の方法 /Assessment Method

Debate speeches: 70%; judge, chairperson, timekeeping and flowing participation: 30%
Continual assessment through homework completion, participation in both pre-debate discussions and every-other-week debates. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英会話・英作文 4 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

教科書 /Textbooks

Idioms from square one, by Barry Ward (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Unit 2: Studying for examinations
- 第3回 Unit 5: Staying slim
- 第4回 Unit 8: Vacation
- 第5回 Unit 10: The party
- 第6回 Unit 14: The fitness center
- 第7回 Unit 18: A careful shopper
- 第8回 Unit 20: How's the new job going?
- 第9回 Unit 19: A chance meeting
- 第10回 Unit 16: Time off work
- 第11回 Unit 15: A letter from a friend
- 第12回 Unit 13: Business matters
- 第13回 Unit 12: A new teacher
- 第14回 Unit 7: New neighbors
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

For and against Expressing opinions and exchanging ideas Flaherty (1st term)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 What does culture mean
- 3 回 Cultural rules for acceptable behavior
- 4 回 Stereotyping
- 5 回 Media and culture
- 6 回 Nonverbal communication
- 7 回 Cultural perspectives of time
- 8 回 Touch and space
- 9 回 Verbal communication norms
- 1 0 回 subcultures
- 1 1 回 status
- 1 2 回 What is the family
- 1 3 回 gender is culture
- 1 4 回 review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回(Week 1)	Course objectives and a progress review
第 2回	What's your favourite food?
第 3回	What would you like to drink?
第 4回	I won't be home for lunch today.
第 5回	Could you tell me when we'll there please?
第 6回	How would you like to pay?
第 7回	Out and About 3: Getting around
第 8回	Can I send this airmail?
第 9回	What time does the show start?
第 10回	Where did you lose did?
第 11回	Goodbye and thanks!
第 12回	How many bags do you have?
第 13回	Important expressions and vocabulary review
第 14回	Summary and exam guidance
第 15回	Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on developing students' discussion skills, English speech presentation skills and note-taking skills in an on-your-feet, parliamentary debate format. Students will also learn to brainstorm, pre-write, organize their argumentation, and develop rebuttal skills to support their opinions and debate argumentation skills. Finally, this course will develop critical thinking and listening skills in English so that students feel comfortable when adjudicating their peers.

教科書 /Textbooks

Both Make Your Point! and excerpts from Discover Debate will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: What is debate?; debate vs. argument and discussion; definitions; derivations
- 2 回 Unit 2: Tennis debate: comparisons, contrasts and conditional statements
- 3 回 Review & Quiz
- 4 回 Unit 3: Resolutions and cases; casing a resolution; brainstorming and paraphrasing
- 5 回 Unit 4: Points; making points; flowing; note-taking; reading back from notes
- 6 回 Unit 5: The First Affirmative Constructive; links; opening speeches; abbreviations
- 7 回 Review & Quiz
- 8 回 Unit 6: The First Negative Constructive; refutation; opening negative speeches
- 9 回 Discover Debate handouts and homework
- 1 0 回 Unit 7: Holistic reasoning; bringing points together in a logical framework
- 1 1 回 Review & Quiz
- 1 2 回 Unit 8: Members' speeches; later speeches; critiquing speeches; notetaking
- 1 3 回 Unit 9: Rebuttals and adjudication; organization of closing speeches; judging
- 1 4 回 Review & Quiz
- 1 5 回 Unit 10: Speaking Style; voice; gestures; body language; word stress; emphasis; resolution brainstorming; team selection; preparation for 2nd semester first debate

成績評価の方法 /Assessment Method

Quizzes over parliamentary debate format and language: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, weekly quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 2, (Macmillan Language

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回(Week 1)	Introduction
第2回	Unit 1: Keeping in touch
第3回	Unit 2: Feeling nostalgic
第4回	Unit 3: School and beyond
第5回	Unit 4: Below the surface
第6回	Unit 5: Going on vacation
第7回	Unit 6: Keeping up to date
第8回	Unit 7: Staying healthy
第9回	Unit 8: An honest life
第10回	Unit 9: That makes me mad
第11回	Unit 10: It's a chore
第12回	Unit 11: Change
第13回	Unit 12: A good life
第14回	Course summary
第15回	Guidance of exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 6 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on developing students' discussion skills, English speech presentation skills and note-taking skills in an on-your-feet, parliamentary debate format. Students will also learn to brainstorm, pre-write, organize their argumentation, and develop rebuttal skills to support their opinions and debate argumentation skills. Finally, this course will develop critical thinking and listening skills in English so that students feel comfortable when adjudicating their peers.

教科書 /Textbooks

Both Make Your Point! and excerpts from Discover Debate will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 First two debates (over topic selected before summer recess); new topic handouts
- 2 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 3 回 Two debates in English; new topic handouts
- 4 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 5 回 Two debates in English; new topic handouts
- 6 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 7 回 Two debates in English; new topic handouts
- 8 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 9 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 0 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 1 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 2 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 3 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 4 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 5 回 Two debates in English; new topic handouts

成績評価の方法 /Assessment Method

Debate speeches: 70%; judge, chairperson, timekeeping and flowing participation: 30%
Continual assessment through homework completion, participation in both pre-debate discussions and every-other-week debates. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英会話・英作文 6 【昼】

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

教科書 /Textbooks

Idioms from square one, by Barry Ward (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Introduction
- 第 2回 Unit 2: Studying for examinations
- 第 3回 Unit 5: Staying slim
- 第 4回 Unit 8: Vacation
- 第 5回 Unit 10: The party
- 第 6回 Unit 14: The fitness center
- 第 7回 Unit 18: A careful shopper
- 第 8回 Unit 20: How's the new job going?
- 第 9回 Unit 19: A chance meeting
- 第10回 Unit 16: Time off work
- 第11回 Unit 15: A letter from a friend
- 第12回 Unit 13: Business matters
- 第13回 Unit 12: A new teacher
- 第14回 Unit 7: New neighbors
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about presentation skills. The course is divided into

1. the physical message (gestures/voice inflexion/ posture)
2. the story message (introduction/ body/ conclusion)
3. the visual message (charts/ graphs/ photos).

Students will be asked to practice 1 to 1, 1 to 3, and finally 1 to all presentations about topics that they want to talk about. Students will also be asked to evaluate their peers' performance as a way to receiving feedback.

教科書 /Textbooks

Speaking of Speech, by David Harrington and Charles LeBeau. (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Introduction
- 第 2回 Introduction to visual message and story message.
- 第 3回 Posture, eye contact, and voice inflexion.
- 第 4回 Pairwork activity. Gestures.
- 第 5回 The introduction, what, why, and overview.
- 第 6回 Story message, the lay-out and listening activity.
- 第 7回 Finish the visual message. Explain the need of graphs, charts and directions.
- 第 8回 Do an introduction, one-on-one speech.
- 第 9回 Look at transitions, and sequence makers.
- 第10回 How to make a conclusion.
- 第11回 Brainstorming and prioritizing your ideas.
- 第12回 The story message, the body. Making your speech smooth.
- 第13回 Do a one-to-three speech.
- 第14回 A look at possible speech topics, Powerpoint presentation, and contents.
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit. Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course..

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will teach all four language skills as well as vocabulary. The main focus will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Situational English By NichibeinANAN' UN-DO ¥2,500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Acquainted/Student Information Cards
2. Causative Verbs-
3. Imperatives
4. Reported Speech
5. Present Perfect Tense
6. Writing Assignment
7. Present Perfect Tense(for/since)
8. Past Perfect Tense
9. Passive Voice
10. Writing Assignment
11. Subordinate Clauses of Result
12. Relative Clauses
13. Adj. Clauses(why,when)
14. Writing Assignment
15. Speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be required to make one major speech, which other students will ask questions about. The final mark will be made by averaging all of the periodic writing assignments as 50% and the speech & questions as the other 50%. Unexcused absence will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The British Isles
- 3 回 Very British
- 4 回 Empire
- 5 回 A world role
- 6 回 Being British
- 7 回 The British year Jan, Feb, March, April
- 8 回 The British year May, June, July, August
- 9 回 The British year Sep, Oct, Nov, Dec
- 1 0 回 Many faiths
- 1 1 回 Coming to Britain
- 1 2 回 At home
- 1 3 回 In the family
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。基本的な事項の説明から始める。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツをつかむ

教科書 /Textbooks

“Total Strategy for the TOEIC Test” by T. Ishii et al. (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Computers and Society
- 3回 Business Transaction
- 4回 At the Office
- 5回 Cars and Society
- 6回 Eating and Drinking
- 7回 Shopping
- 8回 Entertainment
- 9回 Accidents & Crimes
- 10回 Teaching & Learning
- 11回 Finance and Banks
- 12回 Economy and Industry
- 13回 Geography and Travels
- 14回 Weather and Climate
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ...50%、 期末試験 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will continue improving their research and presentation skills learnt in the first semester. In principle, students will be given 2 weeks preparation time to make their presentations, and one lesson to actually present their work to the class. Consequently, students can expect to make three presentations in the second semester.

教科書 /Textbooks

Speaking of Speech, by David Harrington and Charles LeBeau. (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction and course objectives
- 第2回 Form a group of 3: Looking at social issues in the world
- 第3回 Start to research social issues
- 第4回 Expansion and consolidation of social issues
- 第5回 Presentation and Discussion: of social issues
- 第6回 Form a group of 3: Looking at environmental issues in the world
- 第7回 Start to research environmental issues
- 第8回 Expansion and consolidation of environmental issues
- 第9回 Presentation and Discussion: of environmental issues
- 第10回 Form a group of 3: Looking at political issues in the world
- 第11回 Start to research political issues
- 第12回 Expansion and consolidation of political issues
- 第13回 Presentation and Discussion: of political issues
- 第14回 Peer review and teacher feedback.
- 第15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit. Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will teach all four language skills as well as vocabulary. The main focus will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Situational English By NichibeinAN' UN-DO ¥2,500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. May & Might
2. Should, Ought to & Had better
3. Would(for past repeated actions)
4. Research Project Introduction
5. The First Conditional
6. The Second Conditional
7. Wish
8. Writing Assignment
9. Verbs followed by Subjunctive Noun Clauses
10. Verbs followed by Gerunds
11. Phrasal Verbs
12. Completion Help for Research Project & Write-up of Project
13. Presentation of Research Project
14. Critique of Research Projects
15. Final Speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be required to complete a research project and share it with the class. Other students will be appointed to ask questions about the research project being presented. The final mark will be made by averaging all of the writing assignments as 50% and the speech & Research Project as the other 50%.Unexcused absence will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 At school
- 2 回 At college
- 3 回 Finding a job
- 4 回 The economy
- 5 回 Food
- 6 回 Film and theatre
- 7 回 Music
- 8 回 The classics
- 9 回 Modern life
- 10 回 In the news
- 11 回 On TV and radio
- 12 回 At the shops
- 13 回 Sport
- 14 回 Review
- 15 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“THE TOEIC TEST TRAINER Target 780” by B. A. Smith. (センゲージ ラーニング)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Practice Test
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ...50%、 期末試験 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers reading and discussion activities built upon short samples of writing taken from newspapers, magazines, novels, and plays. Reading skills will be developed through a series of goal-oriented tasks which systematically address the techniques required to process texts appropriately and efficiently. Discussion skills will be developed through analysis of techniques and forms employed by proficient/native-speakers of English, followed by regular and extensive in-class discussion sessions..

教科書 /Textbooks

Texts will be selected on a weekly basis by the class instructor.
Students are expected to bring their dictionaries to every class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction
2回- 6回 Controversy and Conflict
7回- 10回 Fact and Fiction
11回- 14回 Opinion and Persuasion
15回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular written assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course, continuing on from 上級英語 I, offers reading and discussion activities built upon short samples of writing taken from newspapers, magazines, novels, and plays. Reading skills will be developed through a series of goal-oriented tasks which systematically address the techniques required to process texts appropriately and efficiently. Discussion skills will be developed through analysis of techniques and forms employed by proficient/native-speakers of English, followed by regular and extensive in-class discussion sessions..

教科書 /Textbooks

Texts will be selected on a weekly basis by the class instructor.
Students are expected to bring their dictionaries to every class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 I
- 2回- 6回 Culture and Conflict
- 7回- 10回 Art and Society
- 11回- 14回 Student-Selected Topics
- 15回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular written assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・他 クラス /Class 1年 (1 - 2、1 - 3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文化の代表的な側面であるアメリカの小説を取り上げ、時代と照らし合わせながら内容を読み取る。授業では19世紀と20世紀の文学作品を用いる予定である。最後にそれらを合わせて総合的にアメリカという国について考えていくことを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

A College Anthology of American Literature
(郡山直編 北星堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アメリカとは (歴史的側面)
- 2回 アメリカとは (社会的側面)
- 3回 19世紀に関するテキストを読む (小説を中心に)
- 4回 19世紀に関するテキストを読む
- 5回 19世紀に関するテキストを読む
- 6回 内容についてのディスカッション
- 7回 20世紀に関するテキストを読む (小説を中心に)
- 8回 20世紀に関するテキストを読む
- 9回 20世紀に関するテキストを読む
- 10回 内容についてのディスカッション
- 11回 内容についてのディスカッション
- 12回 アメリカについて考える
- 13回 アメリカについての各自の提案
- 14回 授業のまとめ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30 % レポート等 ... 30 % 最終試験 ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前、授業後の自己学習を必ず行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの文化をより深く知るために、アメリカの文学作品を材料に用いて、読み解きながら生のアメリカに迫ることを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アメリカを知ろう(歴史的側面)
- 2回 アメリカを知ろう(社会的側面)
- 3回 アメリカはどのような国であろうか(ディスカッション)
- 4回 作品を読む。(17世紀)
- 5回 作品を読む。(18世紀)
- 6回 作品を読む。(19世紀)
- 7回 ディスカッション
- 8回 作品を読む。(19世紀)
- 9回 作品を読む。(20世紀)
- 10回 作品を読む。(20世紀)
- 11回 ディスカッション
- 12回 アメリカとはいかなる国であるのか。
- 13回 アメリカとはいかなる国であるのか。
- 14回 授業のまとめ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% レポートなど ... 30% 最終試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前、授業後の自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年 (1 - 1、1 - 3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの服飾史の概説書を読むことにより、イギリスの服飾文化に関する理解を深める。

教科書 /Textbooks

Fashionable England, 細川祐子著 (開文社出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 「まえがき」
- 2 回 Chapter 1
- 3 回 Chapter 2
- 4 回 Chapter 3
- 5 回 Chapter 4
- 6 回 Chapter 5
- 7 回 Chapter 6
- 8 回 Chapter 7
- 9 回 Chapter 8
- 1 0 回 Chapter 9
- 1 1 回 Chapter 10
- 1 2 回 Chapter 11
- 1 3 回 Chapter 12
- 1 4 回 Chapter 13, 14
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80%、 課題提出 20%
その他、レポート (テーマは自由) 提出があれば、ボーダー点に若干足りない場合に評価の対象として考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業に先立って単語調べ等の課題を出すので、毎回提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族を問わず世界中どこでも、最も古くから人々に親しまれてきたのが詩歌である。詩を排除すると、イギリスの文学・文化の味わいが貧しいものに思える。本講読では、英詩の基本的な形式から始めて、さまざまな技法を説明する。英文ならではの楽しさを、受講生には体感してほしい。英詩を読むことは、語学力を伸ばすことにとどまらず、イギリスの文学や文化、社会、宗教などへの理解を深めることに繋がるはずである。

教科書 /Textbooks

小林 章夫 著『イギリスの詩を読んでみよう』NHK出版
* 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講すること。
講義中に、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1-2回 リズムと形式： ナーザリー・ライム
- 第3回 韻律： ナーザリー・ライム
- 第4回 技法： ロバート・バーンズ
- 第5回 叙景詩： ウィリアム・ワーズワス
- 第6回 恋愛詩： エドモンド・スペンサー
- 第7回 哀悼の詩： トマス・グレイ
- 第8回 ナンセンス： ナーザリー・ライム
- 第9回 女性詩人： クリスティーナ・ロセッティ
- 第10回 ウィリアム・ブレイク「子羊」
- 第11回 ナーザリー・ライム「誰が駒鳥を殺したの？」
- 第12回 アルフレッド・テニソン「砂州を越えて」
- 第13回 W.シェイクスピア『ソネット集』
- 第14回 W.シェイクスピア『ソネット集』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 20% 小テストと提出物... 20% 定期試験の成績で総合的に評価する... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本文化に係わる英文のエッセイや小説を読み解く中で、改めて英語という媒体を通して日本を考えることを授業の目的とする。その際文学作品を使うことで英語と日本語の翻訳の問題についても合わせて考える。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本の文化をこう考える (イントロダクション)
- 2回 テキストを読む。(文学作品を中心に)
- 3回 テキストを読む。
- 4回 テキストを読む。
- 5回 ディスカッション
- 6回 テキストを読む。(詩などを中心に)
- 7回 テキストを読む。
- 8回 テキストを読む。
- 9回 ディスカッション
- 10回 テキストを読む。
- 11回 日本の文化とはディスカッション
- 12回 日本の文化とはディスカッション
- 13回 翻訳についての一考察
- 14回 授業のまとめ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% レポート等... 30% 最終試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前、授業後の学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の文献講読【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文献のなかから、おもに近現代の文章について講じる。和・漢・欧文脈が混在する近代日本語によって、いかなる自己認識 / 他者認識が行われているかを考察する。日本語による文章の読解力・考察力・表現力の涵養を目指す。

教科書 /Textbooks

各回で資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：「比較する身体・比較する眼差し」
- 第2回 久米邦武『米欧回覧実記』
- 第3回 森鷗外『航西日記』『独逸日記』
- 第4回 内村鑑三『余は如何にして基督教徒となりし乎』
- 第5回 新渡戸稲造『武士道』
- 第6回 岡倉覚三『東洋の覚醒』『茶の本』
- 第7回 夏目漱石『倫敦消息』
- 第8回 永井荷風『あめりか物語』・『ふらんす物語』
- 第9回 芥川龍之介『上海遊記』
- 第10回 金子光晴『マレー蘭印紀行』
- 第11回 森崎和江『二つのことば・二つのころ-ある殖民二世の戦後』
- 第12回 きだみのる『気違い部落周遊紀行』
- 第13回 藤原新也『インド放浪』
- 第14回 渡辺京二『逝きし世の面影』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点…20% 期末レポート…80%
ただし、欠席が全体の三分の一を超える場合は「不可」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で取り上げるテキストは図書館に複数所蔵されているので、受講前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学講読【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の二大ジャンルである、和歌と物語の関係を「歌物語」を通じて考える。

教科書 /Textbooks

石田穰二訳注『新版 伊勢物語』（角川ソフィア文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「伊勢物語」の主人公像を探る。
在原業平をモデルとするとされる本物語の主人公は、本当に実在人物業平なのか？そこには史実と虚構の交雑はないのか？どこまでが事実でどこからが創作なのか？主人公は一貫して「みやび」な人物か？変化はないか？あるとすればそれはなぜか？

- 1回 「伊勢物語」について【段階的成立論】
- 2回 在原業平について【三代実録】
- 3回 初冠から辞世まで【一代記的構成】
- 4回 二条后章段における主人公像(1) - 第4段【禁忌】
- 5回 二条后章段における主人公像(2) - 第5段【禁忌】
- 6回 二条后章段における主人公像(3) - 第6段【禁忌】
- 7回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 8回 伊勢斎宮章段における主人公像(1) - 第69段その1【王権侵犯】
- 9回 伊勢斎宮章段における主人公像(2) - 第69段その2【王権侵犯】
- 10回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 11回 東下り章段の構造 - 第9段その1【挫折と決意】
- 12回 4つの場面における主人公像 - 第9段その2【望郷】
- 13回 付随章段群における主人公像【流浪と放逸】
- 14回 古今和歌集との関係【史実と虚構】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% 試験... 70%
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げる章段について、本文を熟読して問題点の所在を確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランスに関する幅広い情報をフランス語で学びます。フランス語レベルは仏検3～2級程度。現在のフランスの姿を知ることができます。キーワード・・・フランスをフランス語で学ぶ。

教科書 /Textbooks

『時事フランス語2010』（クリスチャン・ボームルー著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全20課。現代フランス社会の様々な側面を伝える内容です。フランス語レベルは仏検3～2級程度。進み方は原則1回1課。毎回復習の小テストを実施。

- 1回 顔合わせ。授業のやり方についての打ち合わせ。プリントを用いたの小講読。
- 2回 1課：ブーム！日本文化
- 3回 2課：エッフェル塔 120歳
- 4回 3課：ルノワール 飽くなき探求者
- 5回 4課：点字の発明者 ブラーユ
- 6回 5課：くず屋のシスター
- 7回 6課：ハートのレストラン
- 8回 7課：フランスも当たり年 ノーベル賞
- 9回 8課：ベタンクはいかが？
- 10回 9課：太平洋の楽園
- 11回 10課：シャンパーニュとシャンペン
- 12回 11課：よみがえる巡礼
- 13回 12課：パックスって何？
- 14回 13課：母の名はX・・・
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※履修中に仏検3級合格者には最低Cを、準2級合格者にはBを、2級合格者にはAを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツの社会事情や文化的背景に関するドイツ語テキストを読むことで、ドイツ文化理解を深めると共に、ドイツ語読解力を高める。

教科書 /Textbooks

「太郎のモーゼルの旅」(市川 明 朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 助言を与える・ドイツの食文化
- 2回 相手の発言をさえぎる・ドイツの歴史
- 3回 道を尋ねる・ドイツの思想家
- 4回 訪問の際の会話・ドイツ流礼儀作法
- 5回 自己紹介・人の紹介の仕方
- 6回 お祝いの表現・ドイツの習慣
- 7回 両替・ヨーロッパの通貨
- 8回 切符の購入・ドイツの娯楽
- 9回 経歴の表現・ドイツの学制
- 10回 朝の挨拶・ドイツの家庭やホテル
- 11回 注意と警告・自己責任の国ドイツ
- 12回 別れる際の表現・ドイツの観光スポット
- 13回 丁寧な依頼・ドイツの城
- 14回 連絡の取り方・ドイツの交通機関
- 15回 許可を求める表現・ドイツの文学

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語読解能力があることが前提。必ず独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、スペイン文化に関するテキストを読んで、スペインの歴史・文化を特定のテーマに絞って学びます。3年次のゼミと補完的な性格です。できれば1年次あるいは2年次のスペイン語履修者を対象にします。

教科書 /Textbooks

プリント（おもに日本語）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 立石博高『スペイン歴史散策』行路社
- 同『スペインの食文化』農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プリント（スペイン語テキスト）配布、受講者と相談のうえ授業内容・予定を決定
- 2回 日本語で書かれたスペイン文化の文献案内
- 3回 日本におけるスペインイメージ
- 4回 テキストを読む（1）：質疑応答
- 5回 テキストを読む（2）：質疑応答
- 6回 19世紀の旅行者たちのスペイン観
- 7回 オルテガのアンダルシア論
- 8回 近代のなかの北と南
- 9回 発展するカタルーニャ、文芸復興
- 10回 停滞するアンダルシア、農村社会論
- 11回 新たなスペイン像：近代の再考
- 12回 今日のスペイン-多言語・多文化の国 【自治州国家】
- 13回 学生によるテーマ研究の発表
- 14回 言語からみたEUとスペイン 【言語統一】 【多言語主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 70% 発表... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語の文献を含めてよく読む・理解する。インターネットでスペインを散策するのも良いでしょう。ある町ではラジオ番組があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロシア近現代の歴史書の講読により、近くて遠いロシアの政治社会、文化、ロシア人のメンタリティ、対外関係についての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

藤本和貴夫、松原広志編著『ロシア近現代史』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 モスクワ・ロシアの伝統とその崩壊
- 2回 - 3回 ロシア帝国の成立と展開
- 4回 - 8回 ロシア帝国の近代化
- 9回 - 11回 ロシア革命と社会主義
- 12回 - 13回 社会主義的秩序の形成
- 14回 スターリン批判からロシア連邦へ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの内容要約の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (比較ドイツ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ文化研究に必要な総合的能力を習得する事を目標とし、ドイツ文化に関する情報収集などの訓練を行う。

教科書 /Textbooks

「授業中にプリントを配布する。」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「授業中にプリントを配布する。」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 ドイツ文化の基礎知識を身に付けよう
- 4～6回 情報の集め方
- 7～8回 研究発表とレポート提出
- 9～11回 資料の読み方
- 12～14回 研究発表と質疑応答
- 15回 1学期のまとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本美術史入門書の講読・要約・学習を行うことによって、日本美術史の基礎を通史的に学習する。具体的には、各時代の担当者を決めて、その時代の美術的な特色や代表的な作品について調べて発表してもらう。
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

教科書 /Textbooks

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の確認、各自の担当箇所の決定
- 2回 日本絵画の見方入門
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 5回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 6回 飛鳥～白鳳時代の担当者の発表
- 7回 奈良時代の担当者の発表
- 8回 平安時代前期の担当者の発表
- 9回 平安時代中期の担当者の発表
- 10回 平安時代後期の担当者の発表
- 11回 江戸時代前期の担当者の発表
- 12回 江戸時代中期の担当者の発表
- 13回 江戸時代後期の担当書の発表
- 14回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習
- 15回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容... 60% 数回のレポート... 20% 授業への参加態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者以外の者も必ず事前にテキストを読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立大学 = 北九州市立自然史・歴史博物館連携の科目として博物館所蔵資料の整理を行うとともに、博物館での展示を企画準備します。また北九州市立戸畑中央小学校所蔵資料を『スクール・ミュージアム』として学校開放日と授業のために展示し解説を行います。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献のまとめの回に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 博物館でのガイダンス①
- 3回 博物館でのガイダンス②感想レポート提出
- 4回 博物館での資料整理①
- 5回 博物館での資料整理②
- 6回 博物館での資料整理③
- 7回 文献のまとめ
- 8回 4年生の卒論構想発表①
- 9回 4年生の卒論構想発表②
- 10回 博物館での資料整理④
- 11回 博物館での資料整理⑤
- 12回 博物館での資料整理⑥
- 13回 博物館での資料整理⑦
- 14回 小学校でのガイダンス 感想レポート提出
- 15回 学内でのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 発表...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

火曜午前10時に博物館に集合すること。
9月に学外授業として1～2泊で展示のミニ研修と調査を行うので必ず参加して下さい。
8～9月に小学校での展示替えを行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

年中行事をテーマとする。正月、雛祭り、七夕、お盆、様々な祭りなど、年中行事は今日の我々の生活にとっても親しみ深い習俗である。平安時代の年中行事を中心に、今日に至るまでの各時代の変遷を押さえながら、それぞれの年中行事の意義について考えていきたい。各自、個別の年中行事を担当してもらい、年中行事書・儀式書や民俗学の研究成果などを材料に報告してもらう。

教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山中裕『平安朝の年中行事』(塙書房・塙選書)
柳田國男『年中行事覚書』(講談社学術文庫)
『平安時代儀式年中行事事典』(東京堂出版)
『全国年中行事事典』(東京堂出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 平安時代の年中行事の概要【年中行事】【祭】【仏事】
- 3回 年中行事の研究(1)
- 4回 年中行事の研究(2)
- 5回 受講生による研究発表
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談をうけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (メディア文化) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。
前期は、文献購読を通して、読む・レジュメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。受講者は、最終的には2学期に取り組みたいテーマの選定を目指す。
ゼミのキーワードは、身体(声)、メディア、コミュニケーション、芸能(演技)、ポピュラーカルチャーなどである。現代の問題にひろく関心を向けながらも、歴史的な視点を重視する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。なお論文には、研究方法を学ぶために英語論文を含むことがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 文献購読 グループ発表
- 9回～14回 文献購読 個人発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「大式三位集」を読む。大式三位とは、かの紫式部の娘で、平安中期の歌人としても名高い。その家集が「大式三位集」あるいは「藤三位集」である。自筆本は現存しないが、近年冷泉家の時雨亭文庫から発見された写本の影印本により、全63首を丁寧に読む。それによって、歌風・表現や人的交流の実態を探る。

教科書 /Textbooks

上記影印本の複写プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記影印本の複写プリント

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業(1・2番歌)
- 3回 担当者による発表と質疑(3・4番)
- 4回 同上(5・6番)
- 5回 同上(7・8番)
- 6回 同上(9・10番)
- 7回 同上(11・12番)
- 8回 同上(13・14番)
- 9回 同上(15・16番)
- 10回 同上(17・18番)
- 11回 同上(19・20番)
- 12回 同上(21・22番)
- 13回 同上(23・24番)
- 14回 同上(25・26番)
- 15回 前半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% レポート 50%
無断欠席は不可

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予定部分について予め翻字(第1回に説明)しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 園田 豊 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近世（江戸時代）初期の小説である仮名草子の中から、『竹斎』を読みます。各回毎に、ゼミ生の皆さんの中から担当を決め、口語訳などのレジュメを作成したものを発表していただきます。
同時に、近世初期の道行文（紀行文）の先駆けであり、『東海道名所記』『東海道中膝栗毛』などに影響を与えた当作品の特徴といえる、作者の狂歌的な発想、修辞によるパロディなどを見ていきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

プリント配布。（『假名草子集（日本古典文学大系90）』より抜粋します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「『竹斎』の成立 - 仮名草子の時好性」（松田修、『国語国文』昭和32年3月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仮名草子とは
- 3回 『竹斎』について
- 4回 教員による演習
- 5回～15回 『竹斎 上』ゼミ生による演習発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表...80%、演習に臨む態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『日本古典文学大辞典』（岩波書店）などで、『竹斎』について調べてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究方法の習得

教科書 /Textbooks

ゼミで作成したものを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 4年生の発表を聞き、内容に関して質疑応答をしつつ、研究方法や発表の仕方、発表のポイントなどについて身につけていく

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答への発言の程度... 1 0 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治・大正期の小説を読んでいく。一作ずつ丁寧に読み進めながら、「読解」から「解釈」することにむけてのレベルアップをはかる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史に関する本。
- 「明治文学全集」
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の目的、手順等について概説。語釈担当の順番の決定。
第2回～15回 とりあげた作品についてのコメントを全員述べ、議論していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本語学) 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を中心に講義を行ないます。
第1回 演習の運営方針と発表予定について
第2回 国語学・日本語学研究とは
第3回～14回 各人の発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% レポート...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本語教育学) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すのではなく、人と人の触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-1では、日本語教育という枠から離れて広く教育の研究にはどのようなものがあるのか、どんな方法で行われているのかを幅広く知ってもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

秋田喜代美他編著(2005)『教育研究のメソドロロジー』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○秋田喜代美他(2007)『事例から学ぶはじめての質的研究法：教育・学習編』東京図書
その他に日本語教育における先行研究例を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、自己紹介
- 2～5回 教育フィールドへのいざない
- 6回 復習及び、発表担当決め
- 7回 質的調査と学校参加型マインド
- 8回 数量的方法
- 9回 授業のディスコース分析
- 10回 エスノグラフィー
- 11回 アクション・リサーチ
- 12回 ライフストーリー研究
- 13回 国際比較研究
- 14回 教育実践の歴史的研究
- 15回 総括及び、夏休みの学習計画

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)... 50% 参加者としての貢献度... 30% レポート... 20%
(主に発表を聞く時)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。
また、授業では、予習復習を前提とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『豚の死なない日A Day No Pigs Would Die』は、【シェーカー教徒】の貧農の家に生まれた少年ロバートが【生きるということ】と家族の絆の大切さを学ぶ作品だ。父は毎日豚を殺す。職業に貴賤はないが、やらなければ生きていけないという状況は辛い。人が【働く】ということとは何か？人はなぜ【働く】のか？現代では、【労働】と呼ばれ、金を稼ぐためのだけの労苦となった。資本主義社会では働くことの意味は危機に瀕している。本来、生きるための労苦だけではなかったはずだ。だが良い仕事とは何か？今、勤勉であることが良い仕事を決定づけるのでもなければ、働くことを意味するのでもない。しかし、今、人は働くことの真の意味について無頓着ではない。『豚の死なない日』で読み解くべき現代的テーマはそこにある。金原氏の翻訳は、原著で醸しだされる雰囲気やリズムをかなりの精度で捉え、素晴らしい日本語として結実させている。だが翻訳は素晴らしい。特に【翻訳】や通訳の仕事をめざそうと考えている人たちに読んでいただきたい作品だ。

教科書 /Textbooks

Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』 (白水社Uブックス) 他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめ—ゼミの発表とレポートの書き方、提出方法など
- 2回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第1～5章
- 3回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第5～10章
- 4回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第11～15章
- 5回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第16～最終章
- 6回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)序【人間にとって労働とは】
- 7回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)I～II章【労働観の系譜】
- 8回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)III～結び【現代社会と働くことの意味】
- 9回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』I～II章【労働倫理】
- 10回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』III～IV章【良い仕事】
- 11回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』V～VI【善い行い】
- 12回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫1～3章【肉、牛、豚】
- 13回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫4～6章【馬、牛肉、牛乳】
- 14回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫7～9章【昆虫、ペット、人肉】
- 15回 まとめ—最終レポート(小論文)の書き方、提出方法など

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(50%)とレポート(50%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (英米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一緒に語り合います。前期は主に英米文学の中の短編（児童文学を含む）を数多く読み、それぞれの作品における様々な問題点やテーマ（心理、差別、自然、生と死、愛、機械など）に関する討論を通じて、それぞれの作家の特徴や傾向を掴むと同時に、文学作品の鑑賞と討論の面白さをみんなと共有します。比較の視点も導入します。（講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。）

*ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り

*ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します（作品は主に翻訳を利用します）。参考文献は適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、今後の流れの説明、その他
- 2回 「振子と陥穽」 by E.A.Poe
- 3回 「インディアン・キャンプ」 by E. Hemingway
- 4回 「若いグッドマン・ブラウン」 by N. Hawthorne
- 5回 「王女の誕生日」 by O. Wilde
- 6回 「プリルさん」 by K. Mansfield
- 7回 「島を愛した男」 by D.H.Lawrence (内容確認など、問題点の確認)
- 8回 「島を愛した男」 (議論)
- 9回 「無蓋ボート」 by S. Crane (内容確認など、問題点の確認)
- 10回 「無蓋ボート」 (議論)
- 11回 「動物農場」 by G. Orwell
- 12回 「笑うサム」 by W. Saroyan
- 13回 「家族の絆」 by 渡邊浩式
- 14回 デイベートの説明 (合宿に備えて)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備・・・30% レポート・・・50% 平常点(発表、討論の参加など)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、議論のための資料、参考文献等を読み、配布資料を準備した上で授業に臨んで下さい。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学、アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究のゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、昨年は、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『アイ・アム・サム』、『ブラダを着た悪魔』、『アイ、ロボット』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 作品分析の方法やレジュメの作成の仕方の説明、参考文献などの紹介
- 2回 図書館めぐり
- 3回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 4回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 5回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 14回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 15回 まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を数名割り振り、B4のレジュメを作成してもらった上で、レジュメの解説をゼミの時間をお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (フランス文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習のねらいは次の通りです。
 1) フランス文化について知識、理解を深める。
 2) 幸福について考える。
 3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
 キーワードはフランス文化と幸福です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 顔合わせ。演習の進め方、目標、発表割り当て等の打ち合わせ。
- 2回 発表 1
- 3回 発表 2
- 4回 発表 3
- 5回 発表 4
- 6回 発表 5
- 7回 発表 6
- 8回 発表 7
- 9回 発表 8
- 10回 発表 9
- 11回 発表 10
- 12回 発表 11
- 13回 発表 12
- 14回 発表 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは原則各人が決める。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時および授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い。
- 2回 レジユメの作り方、発表の仕方についての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (スペイン史) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミは歴史学からのスペイン研究です。わが国でこれまで蓄積された参考文献案内をはじめ、テキストにそって、多様な地域からなるスペインの歴史や文化に接近し、スペインの理解を深めます。ゼミ参加者の関心あるテーマに関する報告もしていただきます。

教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。
- 福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 スペイン中世における諸地域の形成
- 3回 西欧のなかの中世イベリア世界
- 4回 中世スペイン：テキストの輪読(1)
- 5回 中世スペイン：テキストの輪読(2)
- 6回 近世スペインの国家と地域
- 7回 大航海時代のスペイン
- 8回 近世スペイン：テキストの輪読(1)
- 9回 近世スペイン：テキストの輪読(2)
- 10回 スペイン王国の構造
- 11回 啓蒙の時代
- 12回 近代スペイン：テキストの輪読(1)
- 13回 近代スペイン：テキストの輪読(2)
- 14回 近代の幕開け
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50% 報告など... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に読むこと。授業中は質疑応答などを通して積極的に参加する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多民族社会における多言語・多文化の社会現象、対立や共生について理解を深めること、
研究発表・論文作成のための基本的ルール・技能の習得、を目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東照二『バイリンガリズム』講談社、2000年；三浦義孝編著『多言語主義』藤原書店 1997年
宮永國子『グローバル化とアイデンティティ』世界思想社 2000年
『民族に関する基礎研究』I、II 総合研究開発機構、1994年、1996年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 2回 輪読テキストの選択、要約文のまとめ方説明、
- 3回 - 6回 文献の輪読、要約発表
- 7回 要約発表における重要事項・重要用語のまとめ
- 8回 国語教育関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 9回 - 12回 文献の輪読、要約発表
- 13回 要約発表における重要事項・重要用語のまとめ
- 14回 - 15回 文献・資料検索方法、研究テーマ選択、レポート・論文作成法などの指導

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会言語学、民族文化関係の書を複数冊読んで、専門用語や内容を理解し、授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (比較ドイツ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 の続き。1 学期に習得した知識を応用し、各人が研究テーマを設定して、ドイツ文化研究を深める訓練を行う。

教科書 /Textbooks

「授業中にプリントを配布する。」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ~ 3 回 ドイツ文化の知識・応用編 1
- 4 ~ 6 回 研究発表とレポート提出
- 7 ~ 8 回 ドイツ文化の知識・応用編 2
- 9 ~ 11 回 資料の利用法研究
- 12 ~ 14 回 研究発表と質疑応答
- 15 回 2 学期のまとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に美術史の通史を学習した際に興味をもった作品あるいは画家を各自一つずつ選び、その作品の概要(画像・材質・技法など)・研究史・残された問題点をまとめて発表する。それによって、文献の集め方、先行研究のまとめ方、美術史的研究方法を習得する。また、最後の数は、平安時代の文献の講読を行う。
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

教科書 /Textbooks

講読について文献は事前にコピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の説明、発表する作品あるいは画家の決定
- 2回 夏休みに講読した美術史入門書についての意見交換会
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 博物館あるいは美術館見学
- 5回 発表とディスカッション
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 『七大寺巡礼私記』講読
- 14回 『七大寺巡礼私記』講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容... 60% 数回のレポート... 20% 授業への参加態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自が何について発表するかは周知するので、発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。また、講読については必ず予習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1 北九州市立大学 = 北九州市立自然史・歴史博物館連携の科目として博物館所蔵資料の整理を行うとともに、博物館での展示を企画準備します。また北九州市立戸畑中央小学校所蔵資料を『スクール・ミュージアム』として学校開放日と授業のために展示し解説を行います。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

展示準備とテーマ報告の2種類を作成する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 学外授業宿題・レポート提出
- 2回 博物館資料の分析①
- 3回 担当コーナーの決定
- 4回 プレゼン準備①
- 5回 博物館課内プレゼン①
- 6回 プレゼン準備②
- 7回 プレゼン準備③
- 8回 4年生卒論経過報告①
- 9回 4年生卒論経過報告②
- 10回 3年生テーマ報告①
- 11回 3年生テーマ報告②
- 12回 プレゼン準備④
- 13回 博物館課内プレゼン②
- 14回 博物館最終プレゼン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 火曜午前10時に博物館に集合すること。
10月に小学校での展示替えを行うので必ず参加して下さい。
2～3月に博物館で展示準備を行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き年中行事をテーマとする。2学期は1学期の成果を踏まえて、さらに問題点を掘り下げていく。また中国の年中行事と日本古代の年中行事の比較にも取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中村裕一『中国古代の年中行事』全4冊(汲古書院)
中村裕一・布目潮風・守屋美津雄編『荆楚歳時記』(平凡社・東洋文庫)
渡部武編『四民月令』(同上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の年中行事書について【年中行事】
- 3回 受講生による研究発表
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談をうけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (メディア文化) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化・民衆文化についての研究レポートを作成することが目標となる。後期は、前期演習をふまえて、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 受講生の発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 20% 発表... 40% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込みます。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の「演習A - 1」に引き続き、「大式三位集」を読む。科目名はA - 1・A - 2と異なるかに見えるが、実際は一連のものであるので注意すること。

教科書 /Textbooks

同じく影印本の複写を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に同じ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者による発表と質疑 (27・28・29番歌)
- 2回 同上 (30・31・32番)
- 3回 同上 (33・34・35番)
- 4回 同上 (36・37・38番)
- 5回 同上 (39・40・41番)
- 6回 同上 (42・43・44番)
- 7回 同上 (45・46・47番)
- 8回 同上 (48・49・50番)
- 9回 同上 (51・52・53番)
- 10回 同上 (54・55・56番)
- 11回 同上 (57・58・59番)
- 12回 同上 (60・61番)
- 13回 同上 (62・63番)
- 14回 後半のまとめ
- 15回 全体の総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

1学期に同じ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これも同様。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 園田 豊 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近世（江戸時代）初期の小説である仮名草子の中から、『竹斎』を読みます。各回毎に、ゼミ生の皆さんの中から担当を決め、口語訳などのレジュメを作成したものを発表していただきます。
同時に、近世初期の道行文（紀行文）の先駆けであり、『東海道名所記』『東海道中膝栗毛』などに影響を与えた当作品の特徴といえる、作者の狂歌的な発想、修辞によるパロディなどを見ていきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

プリント配布。（『仮名草子集（日本古典文学大系90）』より抜粋します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「『竹斎』の成立 - 仮名草子の時好性」（松田修、『国語国文』昭和32年3月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 『竹斎 下』ゼミ生による演習発表
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表... 80%、演習に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『日本古典文学大辞典』（岩波書店）などで、『竹斎』について調べてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究方法の習得

教科書 /Textbooks

加納朋子『ななつのこ』（創元推理文庫）
川上弘美『神様』（中公文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 上記2冊の短篇集から、作品を1編選び選んだ作品に関して発表する。
文学作品を「読む」ということを身につけていく

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容... 80% 発表にたいする質疑... 20% (すべて予定)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治・大正期の文学を主に扱う。一作ずつ丁寧に読み進めながら、研究の基本的な手続きを学ぶことを目的とする。とくに卒論テーマの決定を視野に入れての授業となる。

教科書 /Textbooks

ゼミ生各自が発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史に関する本。
- 「明治文学全集」
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の目的、手順等について概説。演習担当予定表の作成。
- 第2回 模範演習。
- 第3回～15回 受講者による演習。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本語学) 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を中心に講義を行ないます。
第1回 演習の運営方針と発表予定について
第2回 研究論文を執筆すること
第3回～第14回 各人の発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本語教育学) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人の触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-2では、4年次に入って直ぐに卒業論文を作成する、つまりそのための研究に取り掛かることができるように準備をします。具体的には、卒業論文レベルの研究をイメージできるようになる、論文の書き方の凡そを知る、仮テーマを選定する、までを目標とします。

教科書 /Textbooks

○伊藤哲司他(2005)『動きながら識る、関わりながら考える：心理学における質的研究の実践』ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○浜田麻里他(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究とは何か、卒業論文とは何か
- 3回 論文の書き方
- 4～7回 卒業論文例
- 8回 仮テーマの選定
- 9～12回 仮テーマについての発表
- 13回 再び、研究とは何か、卒業論文とは何か
- 14回 仮テーマの見直し
- 15回 総括及び、春休みの学習計画

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)... 50% 参加者としての貢献度... 30% レポート... 20%
(主に発表を聞く時)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から人間関係を大切にしてください。また、研究テーマは、現実の世界にあります。授業以外のさまざまな活動に積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に『豚の死なない日』を読んだのち、【働く】とはどういう意味を持つのか、を議論し、やっと「労働」の対価である食にありつける。『豚の死なない日』で、人間の肉食への異常な欲求と、その反対に屠殺への嫌悪を学ぶと、【肉食】とは何か、その反対の、【菜食】主義とは何かを知りたくなろう。世紀のヒロイン「ダイアナ妃」も菜食主義者であった。彼女は、無差別に人を殺害する非人間的な兵器である地雷の撤去運動に熱心な心優しい人であったが、その一方で、世紀の人殺し、ホロコーストの無情なファシスト、ヒットラーも菜食主義者であった。肉食が人間の闘争心を掻き立てるのも事実だが、菜食がいいというわけでもない。

教科書 /Textbooks

Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』他。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらに必要なものは授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに—論文の書き方
- 2回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 3回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 4回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 5回 20世紀アメリカ社会と【ファーストフード】と【ディズニーランド】と【アメリカ文化】
- 6回 【ファーストフード】と【マクドナルド】
- 7回 ヨーロッパと【スローフード】運動とカリフォルニアの【有機野菜】と【地産地消】運動
- 8回 イタリアの小さな町のアメリカの【ファーストフード】に対抗した【スローフード】運動
- 9回 【スローフード】運動は単に田舎の【手作り】の食べ物を保守する運動ではなかった。
- 10回 【ファーストフード】のアメリカ機械文明が生み出した社会や文化に対する反対運動の基軸
- 11回 日本の【スローフード】運動と【菜食主義】
- 12回 アメリカの【ベルトコンベア式】大量生産方式と【大量消費】時代の幕開け
- 13回 【冷凍食品】と【価格革命】、【安い肉】(粗悪な肉)、【安い労働力】(パートタイマー)
- 14回 【大量生産】と大農場と安い【パート】や【外国人労働者】
- 15回 まとめ—レポートの書き方から卒論の書き方へ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 (50%) とレポート (50%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、図書館の指定図書コーナーにある。さらに必要な参考書はその都度指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (英米文学) 【昼】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一緒に語り合いたいと思います。工期は、ゼミ生主体で一冊の長編作品を選んでもらい、その作品を、あるときは速読、またあるときは精読することで、十分に満喫します。問題点について討論をすると同時に、文学批評についても様々なアプローチ方法を取り入れることにより、各自自分にあった方法を見出してもらいたいと思います。最後に卒論について説明をし、卒論を書くにあたって方向性をつかんでもらう予定です。

* ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

* ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。(講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

教科書 /Textbooks

プリントを配布します(作品は主に翻訳を利用しようと考えています)。参考文献は適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 扱う長編作品の決定、担当者決め、その他、今後の流れの説明
- 2回 作品の第1パートの内容確認と議論
- 3回 作品の第2パートの内容確認と議論
- 4回 作品の第3パートの内容確認と議論
- 5回 作品の第4パートの内容確認と議論
- 6回 作品の第5パートの内容確認と議論
- 7回 作品の第6パートの内容確認と議論
- 8回 作品の第7パートの内容確認と議論
- 9回 作品の第8パートの内容確認と議論
- 10回 作品の第9パートの内容確認と議論
- 11回 作品の第10パートの内容確認と議論
- 12回 作品の第11パートの内容確認と議論
- 13回 作品の第12パートの内容確認と議論
- 14回 論文の書き方、ノート作りについて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備…30% レポート…50% 平常点(発表、討論の参加など)…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、議論のための資料、参考文献等を読み、配布資料を準備した上で授業に臨んで下さい。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学、アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究のゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、昨年は、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『アイ・アム・サム』、『ブラダを着た悪魔』、『アイ、ロボット』、『エリン・ブロコビッチ』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みレポートの内容を各自が発表
- 2回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 8回 キャリアセンターの先生を交えての懇談会
- 9回 4年生を招いての懇談会
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 14回 まとめ、春休みの課題レポートに関する説明
- 15回 卒論執筆に関する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 発表...20% 夏休み明け提出のレポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を数名割り振り、B4のレジユメを作成してもらった上で、レジユメの解説をゼミの時間をお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (フランス文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、演習のねらいは次の通りです。
 1) フランス文化について知識、理解を深める。
 2) 幸福について考える。
 3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
 キーワードはフランス文化と幸福です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 休暇中課題の発表。演習の進め方についての打ち合わせ。
- 2回 発表 1
- 3回 発表 2
- 4回 発表 3
- 5回 発表 4
- 6回 発表 5
- 7回 発表 6
- 8回 発表 7
- 9回 発表 8
- 10回 発表 9
- 11回 発表 10
- 12回 発表 11
- 13回 発表 12
- 14回 発表 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 50% レポート・・・ 40% 休暇中の課題・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは原則各人が決める。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文化) 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国の諸問題などについて各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方などについての話し合い。
- 2回 卒論の書き方などについての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (スペイン史) 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 では、主に近世のスペインを扱いましたが、このゼミでは、近現代のスペインにかかわるテーマに焦点を絞りこみます。テキストに
そってスペインの社会、地域や国家の問題を学びますが、ゼミ参加者の関心にそったテーマについて報告していただきます。

教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。
○福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 19世紀前半のスペイン：自由主義とロマン主義
- 3回 19世紀のスペインの社会・経済
- 4回 テキストの輪読(19世紀)
- 5回 テキストの輪読・コラム欄
- 6回 文献案内
- 7回 スペインの「近代」について
- 8回 ゼミ生の報告会(1)
- 9回 ゼミ生の報告会(2)
- 10回 19世紀末のスペイン
- 11回 地域問題：アンダルシアとカタルーニャ
- 12回 地域問題：バスク(ビデオ)
- 13回 テキストの輪読(20世紀)
- 14回 現代スペイン社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50 % 発表... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に通読する。特殊な歴史学用語は、たとえば、『世界史辞典』(角川)やその他の辞典類で調べること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多言語・多文化の社会現象、比較文化に関する研究テーマ選択の指導を行い、論文作成のための基本的ルール・技能の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 3回 夏休み課題レポートの発表
- 4回 課題レポートにおける重要概念について議論
- 5回 - 10回 研究テーマ選択指導、研究テーマ関連の文献資料について指導・報告
- 11回 - 15回 研究テーマの構成・見出し語の立て方、論文作成法指導

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート・論文作成法に関する書を

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各人がテーマを設定してドイツ文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

教科書 /Textbooks

授業中に随時プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 論文の書き方
- 3～5回 論文テーマ発表と討論
- 6～7回 資料収集と利用法 1
- 8～9回 中間報告会
- 10～11回 資料収集と利用法 2
- 12～14回 研究発表と質疑応答
- 15回 1学期のまとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自に卒業論文の構想発表を行ってもらい、先行研究にきちんと目を通してあるか、研究史を踏まえた上で明らかにすべき問題を設定しているか等を確認する。

尚、「演習A - 1」と合同で行うので、卒論構想発表を終えた後は、テキストに基づく発表のディスカッションに参加すること。

教科書 /Textbooks

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論構想発表会の手順の確認
- 2回 卒論構想発表会の準備
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 卒論構想発表会
- 5回 卒論構想発表会
- 6回 三年生の飛鳥～白鳳時代担当者の発表
- 7回 三年生の奈良時代担当者の発表
- 8回 三年生の平安時代前期担当者の発表
- 9回 三年生の平安時代中期担当者の発表
- 10回 三年生の平安時代後期担当者の発表
- 11回 三年生の江戸時代前期担当者の発表
- 12回 三年生の江戸時代中期担当者の発表
- 13回 三年生の江戸時代後期担当書の発表
- 14回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習
- 15回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容... 60% 数回のレポート... 20% 授業への参加態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自が何について発表するかは周知するので、発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。また、三年生の発表に参加する際には、必ず事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次に行った北九州市立自然史・歴史博物館所蔵資料の展示を完成させるとともに、北九州市立戸畑中央小学校所蔵資料の展示を3年生に引き継ぎます。
さらに卒業論文の準備を行いテーマと題目を決定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

卒論のテーマを決めるのには以下の論文を参考にしてください

- 『岩波講座日本歴史』(新旧2種類)(岩波書店)
- 『岩波講座日本通史』(岩波書店)
- 『日本の近世』全18巻(中央公論社)

また各自で卒論に必要な文献目録を作り提出してください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 博物館でのガイダンス①
- 3回 博物館でのガイダンス②
- 4回 卒論題目の決定と博物館での資料整理の指導①
- 5回 卒論題目の決定と博物館での資料整理の指導②
- 6回 卒論題目の決定と博物館での資料整理の指導③
- 7回 卒論題目の決定と文献のまとめ 5月下旬より4回個別に行う
- 8回 卒論題目の提出と構想発表①
- 9回 卒論題目の提出と構想発表②
- 10回 博物館での資料整理の指導④
- 11回 博物館での資料整理の指導⑤
- 12回 博物館での資料整理の指導⑥
- 13回 博物館での資料整理の指導⑦
- 14回 小学校でのガイダンスと展示安のまとめ
- 15回 学内でのまとめ プレ卒論(原稿用紙10枚分提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

プレ卒論50% 発表...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

火曜午前10時に博物館に集合すること。

9月に3年生と一緒に学外授業として1~2泊で展示のミニ研修と調査を行います。

8~9月に小学校での展示替えを行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世の宗教文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。
【日本文化】 【宗教文化】

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の古代・中世文化を学ぶにあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒業論文作成にむけての発表
- 15回 まとめ

特になし。昨年度に続き、各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。
藤原道信は平安中期に生きた典型的な王朝歌人の一人で、しかも夭折したため、その歌才を惜しまれた。詠作期間は数年にも関わらず、勅撰集に多く入集しているのも頷ける。ではその和歌はどのようなものであり、そこから伺える道信の半生はいかなるものであったかを追究する。

教科書 /Textbooks

榊原家本の影印本のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業 (1・ 2・ 3 番歌)
- 3回 受講生による発表と質疑 (4・ 5・ 6 番) 以下同じ。
- 4回 (7・ 8・ 9 番)
- 5回 (10・ 11・ 12 番)
- 6回 (13・ 14・ 15 番)
- 7回 (16・ 17・ 18 番)
- 8回 (19・ 20・ 21 番)
- 9回 (22・ 23・ 24 番)
- 10回 (25・ 26・ 27 番)
- 11回 (28・ 29・ 30 番)
- 12回 (31・ 32・ 33 番)
- 13回 (34・ 35・ 36 番)
- 14回 (37・ 38・ 39 番)
- 15回 前半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

無断欠席は不許可。発表 = 50% レポート = 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 大場 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

江戸時代前（元禄）期の浮世草子作者井原西鶴の作品を読みます。
キーワードは俳諧的文章、滑稽です。

教科書 /Textbooks

浮橋康彦編『西鶴全作品エッセンス集成』和泉書院（2002年8月）、2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『定本西鶴全集 全14巻』中央公論社
- 『井原西鶴集 ①～③』（日本古典文学全集）小学館
- 『対訳西鶴全集』明治書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 『日本永代蔵』①初午は乗てくる仕合
- 2回 『日本永代蔵』②二代目に破る扇の風
- 3回 『日本永代蔵』③世界の借家大将
- 4回 『日本永代蔵』④世はぬき取の観音の眼
- 9回 『日本永代蔵』⑤茶の十徳も一度に皆
- 10回 『世間胸算用』①鼠の文つかひ
- 11回 『世間胸算用』②訛言も只是かかぬ宿
- 12回 『世間胸算用』③門柱も皆かりの世
- 13回 『世間胸算用』④小判は寝姿の夢
- 14回 『世間胸算用』⑤平太郎殿
- 15回 まとめ

※必ずしもこの通りにゆかない場合もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表... 80% 演習に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館には西鶴関係の文献がたくさんあります。その中から少なくとも一冊は読むことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究手法の習得と卒業論文への応用

教科書 /Textbooks

各自が卒業論文で論ずる作家の短編を1篇提出し、提出された作品を印刷してテキストとして作成しゼミ生全員に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

3年生、4年生合同で実施する

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 卒業論文を見据えつつ、自分が論ずる作家の作品を資料として、作家研究、作品研究などについて発表する

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容... 80% 質疑への応答... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当スケジュールの作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回～第8回 各人の発表
- 第9回 資料編の作成方法
- 第10回～第14回 各人発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習 B - 1 では、前半に各自の卒業論文のテーマに沿った発表を行います。そして、後半に卒業論文の構想発表会を行います。

教科書 /Textbooks

萱間真美『質的研究実践ノート：研究プロセスを進める clue とポイント』医学書院

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、春休みの課題報告
- 2回 卒論テーマとしたいことの発表(1)
- 3回 卒論テーマとしたいことの発表(2)
- 4回 卒論テーマとしたいことの発表(3)
- 5回 卒論テーマとしたいことの発表(4)
- 6回 研究デザインとは何か
- 7回 研究目的の明確化
- 8回 概念枠組み
- 9回 研究課題の決定
- 10回 研究方法
- 11回 研究の評価
- 12回 卒論構想発表会(1)
- 13回 卒論構想発表会(2)
- 14回 今後の研究計画
- 15回 総括及び

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 出席 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は適宜紹介します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年演習で、『No Pigs Would Die豚の死なない日』を読み、豚学について学んだ。豚（イノシシ）は本来森にすみ（今でも、最高級の豚は森（林）で飼われている。豚は、人類が最もよく食べ、愛した肉であった。欧米人はハムとソーセージを愛し、アメリカでは20世紀初頭までは、豚肉が牛肉よりも好まれて食べられていた。豚肉の生産量の方が牛肉の生産量より多かった。それを変えたのは、ハーバークなどファーストフードである。

教科書 /Textbooks

必要な「資料」は毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の指定図書コーナーにあり、さらに必要な参考文献はその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期は3年ゼミの「食」の延長で、食文化等を学ぶ。
- 第2回 中国（中華料理）やアジア料理は【豚肉】によって発達したと言っても過言ではない。
- 第3回 一方、【聖書】が豚を忌まわしいものとし、ユダヤ教徒やイスラム教徒では豚は嫌われた。
- 第4回 人類は【Hunting（殺戮）】なしには古代では生きられなかった。
- 第5回 現代でも人は狩猟と【農作】なしには生きられない。多数の人はサラリーを貰って生きているが、実は、代わりに農業と水産と牧畜業をしてくれているのである。
- 第6回 生きていくための最低限のラインがそこにある。【食文化】こそが生命である。
- 第7回 【食文化】において、今最も重要な運動が【スローフード】運動である。
- 第8回 『食と文化の謎』を通して、世界の食と文化のタブー（最大のタブーであるカーニバルを含む）について学ぶ。
- 第9回 それはイタリアの小さな町から世界に向かって発信された食文化運動であると言うだけでなく、反米・反【ファーストフード】運動でもあった。
- 第10回 必然的に【スローフード】運動は、反【大量生産】・反【大量消費】運動である。
- 第11回 また、反【機械文明】運動であり、【伝統的な食】の保守、【小さな生産農家】の保護、【小さな消費】を目指す運動であった。
- 第12回 【巨大な企業】より、【小さな生産】を大事にするのがその基本姿勢である。
- 第13回 各自が自分の町の【食文化】について調査、発表する。
- 第14回 そして、徐々に「卒論」指導へと移行していきたい。
- 第15回 まとめ「卒論の書き方」

成績評価の方法 /Assessment Method

発表（40%）とレポート（60%）により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合いたいと思います。4年次では、大学4年間の総決算ともいえるべき卒論の指導をします。1学期には、9月に行う中間発表を目指して、原則として個別（あるいはグループ）指導で、扱いたいテーマ、作品を決定し、おおまかなレポートを提出してもらいます。この学期は、9月の中間発表に備えて議論を煮詰める、卒論作成の予備段階です。（講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。）

*ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

*コンピュータを用いてゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマや作家に応じて3～4名程度のグループ分けをし、前期の方針の確認をします。
(グループ毎に日程を調整して、毎週集まります。)
- 2回 それぞれのグループのメンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表します。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 7回 グループ毎の活動を通して卒論の題目の決定。
- 8回 各自、400字程度で論じたい内容をまとめる。
- 9回 各自コンテンツションを考え、お互いに議論をしつつ、決定します。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論をします。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 14回 夏休み期間の過ごし方について、また、中間発表の準備をします。
- 15回 6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 対面式 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

春休み明けに提出してもらう卒論の構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で卒論を完成させます。4年次は、就職活動で多忙になるので、ゼミ生の都合に合わせて、個別指導を行ないます。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。卒論執筆に関して疑問が生じた際には、いつでも、指導を行います。就職活動に関する相談にも、知識のおよぶ限り応じます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 2回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 3回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 4回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 5回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 6回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 7回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 8回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 9回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 10回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 11回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 12回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 13回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 14回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 15回 夏休み中の課題に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習のねらいは3年次と変わりませんが、卒論に向けた勉強が主になります。

- 1) フランス文化について知識、理解を深める。
 - 2) 幸福について考える。
 - 3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
- キーワードは、「フランス文化と幸福を卒論に」です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 休暇中課題の発表。演習の進め方についての打ち合わせ。
- 2回 全員、卒論テーマの予定(二つ以内に絞って)の発表。一人5分程度。
- 3回 発表1
- 4回 発表2
- 5回 発表3
- 6回 発表4
- 7回 発表5
- 8回 発表6
- 9回 発表7
- 10回 発表8
- 11回 発表9
- 12回 発表10
- 13回 発表11
- 14回 発表12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・ 50% レポート・ 40% 休暇中課題・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは卒論テーマと関連するもの。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミは、歴史学からの「スペイン研究」です。比較史の視点からスペインと同じラテン系のイタリア・フランスの近代も扱います。とくにゼミ生の卒業論文のテーマを考慮に入れて、柔軟に授業を進めます。できるだけ共通のテーマに関する論文を読み、論文作成の作法も習得します。

教科書 /Textbooks

最初の授業でプリントおよび「論文の書き方マニュアル」を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的講義：プリント配布と文献案内・ゼミの進め方
- 2回 論文の書き方について（形式）
- 3回 いくつかのモデル論文（配布）：論文構成
- 4回 論文を読む（1）形態
- 5回 論文を読む（2）構造分析
- 6回 論文を読む（3）註など
- 7回 ゼミ生の個別報告（1）
- 8回 ゼミ生の個別報告（2）
- 9回 ゼミ生の個別報告（3）
- 10回 報告会の検証（反省会）
- 11回 卒業論文作成に向けての文献収集について
- 12回 文献表を作成
- 13回 卒業論文の序論を書いてみる
- 14回 ゼミ生のテーマを相互に話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

個別報告 70% レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の質疑応答には積極的に発言する。資料収集を夏休み前までに済ませる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 4回 卒論テーマの最終的確認、春休み課題発表
- 5回 - 6回 卒論の構成・見出し語の立て方、論文作成法、調査研究方法指導
- 7回 - 15回 卒論テーマ関連の資料収集の発表、資料分析、資料批判

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各人のドイツ文化研究を、論文としてまとめる。

教科書 /Textbooks

各人のドイツ文化研究を、論文としてまとめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 論文執筆状況報告会 1
- 3～5回 資料の収集と整理の方法
- 6～7回 論文執筆状況報告会 2
- 8～9回 論文に関する意見交換
- 10～11回 資料収集と整理の方法 2
- 12～14回 論文執筆状況報告会 3
- 15回 最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習A - 2」と合同で行うので、三年生の発表に対するディスカッションに参加すること。
但し、四年生は、それとは別に、卒業論文を書き始め、10月中頃・11月中頃・12月中頃の少なくとも三回以上は提出し、添削・コメントを受けながら、卒業論文の完成を目指してもらう。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文の進展状況の確認
- 2回 卒業論文の進展状況の確認
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 博物館あるいは美術館見学
- 5回 発表とディスカッション
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 『七大寺巡礼私記』講読
- 14回 『七大寺巡礼私記』講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

添削・コメントを踏まえて改善されているかどうか... 60% 数回のレポート... 20%
授業への参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

三年生の発表に参加する際には、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。また、購読については必ず予習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に演習 B - 1 で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成、提出してもらいます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 以後2週間に1度のペースで卒論の経過報告
- 2回 卒論の経過報告①
- 3回 小学校の展示作業指導
- 4回 卒論の経過報告②
- 5回 3年生のプレゼン指導①
- 6回 卒論の経過報告③
- 7回 3年生のプレゼン指導②
- 8回 3年生への卒論経過報告①
- 9回 3年生への卒論経過報告②
- 10回 3年生テーマ報告①
- 11回 3年生テーマ報告②
- 12回 卒論原稿チェック
- 13回 卒論原稿最終チェック
- 14回 博物館最終プレゼン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

3年生へのコメント・指導50% 卒論準備状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

10月に小学校での展示替えを行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世の宗教文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。
【日本文化】 【宗教文化】

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究発表と討議
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒業論文作成にむけての発表
- 15回 まとめ

特になし。昨年度に続き、各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。
1学期に引き続き道信の和歌、それを通じて伺える道信の半生を追究する。

教科書 /Textbooks

B - 1を参照

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同前

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者の発表と質疑(40・41・42番歌)以降同様。
- 2回 同上(43・44・45番)
- 3回 同上(46・47・48番)
- 4回 同上(49・50・51番)
- 5回 同上(52・53・54番)
- 6回 同上(55・56・57番)
- 7回 同上(58・59・60番)
- 8回 同上(61・62・63番)
- 9回 同上(64・65・66番)
- 10回 同上(67・68・69番)
- 11回 同上(70・71・72番)
- 12回 同上(73・74・75番)
- 13回 同上(76・77・78番)
- 14回 同上(79・80・81番)
- 15回 後半部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 50% レポート... 50%
無断欠席は不許可

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 園田 豊 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に向けての、ゼミ生各自による研究発表と質疑応答。

教科書 /Textbooks

ゼミ生各自のレジユメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ生各自により挙げていただきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 ゼミ生各自の卒業論文研究発表
※必ずしもこの通りにゆかない場合もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表... 80% 演習に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館の文献を使って、各自のテーマを見つけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

習得した日本近代文学の研究手法の卒業論文への応用

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4年生のみの卒論指導

1回 ガイダンス

2回～15回 卒業論文で自分が論ずる作家やその作品をもとに、どのように卒業論文を書こうとしているか発表する

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容... 80% 質疑への応答... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当予定表の作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業への意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回～第8回 各人の発表
- 第9回 資料編の作成方法
- 第10回～第14回 各人発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すのではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B - 1では、前半に卒業論文の中間報告を行います。そして、後半に卒業論文の研究成果発表会を行います。

教科書 /Textbooks

萱間真美『質的研究実践ノート：研究プロセスを進めるclueとポイント』医学書院

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社

西條剛央『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、夏休みの経過報告
- 2回 中間発表(1)
- 3回 中間発表(2)
- 4回 論文の書き方(1)
- 5回 論文の書き方(2)
- 6回 論文の書き方(3)
- 7回 個別研究指導(1)
- 8回 個別研究指導(2)
- 9回 個別研究指導(3)
- 10回 個別研究指導(4)
- 11回 論文完成前の点検(1)
- 12回 論文完成前の点検(2)
- 13回 卒論発表の準備
- 14回 卒論発表会
- 15回 総括及び

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 出席 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は適宜紹介します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期の4年演習は、實際上、卒論指導が主となる。卒論の準備に追われる。卒論は、まず6月に「卒論題目届け」を提出しなければならない。卒論の題目は、基本的には3年の終わり頃までにはほぼ決めておいた方がよい。当ゼミは、基本的にアメリカの文化・文学を主として、日米の文学比較、日米の文化比較をテーマに卒論を書くものが多い。これらの大枠の中で、中枠を決め、そして最終的な「卒論テーマ」を絞り込まねばならない。一見簡単そうだが、比較文化はそもそも大枠が広いので、結構難しい作業である。

教科書 /Textbooks

「卒業論文の書き方」に関する参考文献を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 卒論を書くに当たって—【資料を集める】のが難儀だが、そのコツは。
- 第2回 図書館等(大学、他大学、県立・市立図書館)で【第一次資料】を探す。
- 第3回 自分が決めた【テーマ】に関係する【直接の生の資料】を探す。コピーでも可。
- 第4回 ナマ資料が英語文献であれば、英語の【原書】を収集する。翻訳はできる限り避ける。
- 第5回 他人が本で引いた【引用】の中から、それをまた「引用」するのはできるだけ避ける。
- 第6回 卒論の資料がそろい、いざ書き始めるが、これがなかなか【テーマ】に届かない。
- 第7回 【卒論テーマ】はいわば「城」の天守閣である。そう簡単に攻め落とせるものではない。
- 第8回 まず、お堀を埋めて、そして城壁の石垣を登り、ときに落下し、また、登り...
- 第9回 やっと、【城=卒論テーマ】に入れる。しかし、目指す本丸はまだまだである。
- 第10回 本丸に入るには、まずルールがある。一つ、「服装=【論文の形式】」を整える。
- 第11回 自分のナマの言葉(内容)をそのまま書き殴っても【論文】にはならない。それは感想文かせいぜい普段のレポートに過ぎない。
- 第12回 「内容=中味(心・精神)」のない論文は、【形式】が整っていても読めない。
しかし、一朝一夕に中味(心・精神)はできない。
- 第13回 そういふときの便法は、①基本的な型を覚える。卒論の関する他の研究者の論文を沢山学び、模倣(盗作ではない)すること
- 第14回 ②その際、最低限それらの【論文】に対する賛否をはっきり書き、できれば数行のメモ・コメントを書き残しておく。あとで【卒論】を纏めるとき、コメントが大変役に立つ
- 第15回 ③まず、序論と結論を先に書く。それから本論へと進む。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミにおける発表(50%)とレポート(50%)で判定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。9月の中間発表以降も、原則としてグループ活動になります。お互いに切磋琢磨しつつ、各自の論文をより良いものに仕上げていきます。2学期も、1学期に分けた各グループ毎に日程を調整して毎週集まり、中間発表の原稿をお互いに読みあい、コメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の中間発表原稿をより完成度の高い卒論に仕上げていきます。(講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

- *ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。
- *コンピュータを用いてゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認
- 2回 各グループの第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 各グループの第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 各グループの第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 各グループの第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 各グループの第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 各グループの第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 8回 各グループの第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 9回 各グループの第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 各グループの第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 各グループの第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 卒論の内容要約の作成。
- 13回 論集作りについての議論。
- 14回 論集作りについての議論。
- 15回 最終発表会の準備。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した研究テーマを、卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出した卒論の下書きに対して、どこをどのように改訂すべきなのか、どのような加筆をさらに行わなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日は、ゼミ生の都合に合わせて。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。指導に沿って卒論の下書きを改訂することにより、自然に無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。併せて、就職活動に関する相談にも知識の及ぶ限り応じます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 章レベルでの個別指導
- 2回 章レベルでの個別指導
- 3回 章レベルでの個別指導
- 4回 章レベルでの個別指導
- 5回 章レベルでの個別指導
- 6回 段落レベルでの個別指導
- 7回 段落レベルでの個別指導
- 8回 段落レベルでの個別指導
- 9回 センテンスレベルでの個別指導
- 10回 センテンスレベルでの個別指導
- 11回 センテンスレベルでの個別指導
- 12回 単語レベルでの個別指導
- 13回 単語レベルでの個別指導
- 14回 単語レベルでの個別指導
- 15回 提出前の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。また、卒論指導に沿って、卒論原稿に加筆修正を加えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き卒論に向けた勉強が主になります。
1) フランス文化について知識、理解を深める。
2) 幸福について考える。
3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
キーワードは、「フランス文化と幸福を卒論に」です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての打ち合わせ。
- 2回 発表1
- 3回 発表2
- 4回 発表3
- 5回 発表4
- 6回 発表5
- 7回 発表6
- 8回 発表7
- 9回 発表8
- 10回 発表9
- 11回 発表10
- 12回 発表11
- 13回 発表12
- 14回 発表13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは卒論テーマと関連するもの。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この2学期のゼミは、基本的には卒業論文の経過報告（発表会）です。ゼミ生には3回ほど報告してもらいます。それぞれ異なるテーマの寄せ集めになりますが、このゼミの共同財産という自覚を持ちましょう。

教科書 /Textbooks

B - 1の演習で配布した「論文の書き方」、モデル論文など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ生による卒業論文の進捗状況報告
- 2回 ゼミ生による各自の「序論」の相互発表
- 3回 モデル論文を読む(1)
- 4回 モデル論文を読む(2)
- 5回 個別発表(1)
- 6回 個別発表(2)
- 7回 個別発表(3)
- 8回 論文作成指導(1)
- 9回 論文作成指導(2)
- 10回 個別発表(4)
- 11回 個別発表(5)
- 12回 個別発表(6)
- 13回 教員による個別支援
- 14回 教員による個別支援
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

個別発表の内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の間で相互に刺激しあって、強い意志で卒業論文完成にまい進する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 4回 夏休み課題発表
- 5回 - 15回 卒論関連の資料収集発表、卒論執筆の点検

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 4年次
/Year

単位 6単位
/Credits

学期 1・2学期(バ
/Semester ア)

授業形態
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 1 (日本) 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と1クラス10名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野(文学、芸術、宗教、歴史等)に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。
 クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を3冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較文化学科への招待 佐藤 真人
- 2回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3回 講義 1
- 4回 講義 2
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 3
- 7回 講義 4
- 8回 講義 5
- 9回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10回 講義 6
- 11回 講義 7
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 2 (欧米) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で参考文献について触れます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義ではまず「文学」という言葉を広義に解釈し、いわゆる詩や劇、小説、散文はもちろんのこと、様々な人間の生き方を包括的に描いているものであれば、漫画や映画をも含めて論じていき、「文学」の堅いイメージを覆し、文学の面白さを共有します。学際的な文学は、多くの読者（鑑賞者）に感動を与えつつ、人間の様々な問題について考えさせてくれる、いわば生きる糧なのです。また、研究姿勢の基盤ともいえるべき「疑うことの必要性」から説き起こし、研究に必要不可欠な2つの方法論-比較と分析-と、更にそれを総合へと展開させてゆくことの重要性についても説明します。比較文学の実践については、まず二つの方法論の特長を簡単に見、具体的に様々なテーマ毎に文学の比較をしていきます。様々な問題が生じている今日にあって、日本だけでなく外国文学を通じて異文化をも理解することで、人間の在り方を問い直してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

コピーを利用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 研究の方法論について(「絶対」の否定、【比較と分析】)
- 2回 文学とは：文学の面白さ、文学は感動、文学は倫理...
- 3回 文学とは：文学は想像力 (The Missing Piece)、文学は鏡(『緋文字』)...
- 4回 文学の必要性：【無用の用】(『星の王子様』)
- 5回 文学は反体制：物質主義批判(『アメリカの悲劇』)、科学文明批判(「あざ」)、ルール 批判
- 6回 文学は反体制：メディア批判(『トゥルーマンショー』)、教育批判(『女王の教室』)...
- 7回 文学の読み方、読みの多様性
- 8回 比較文学とは、目的と意義
- 9回 比較文学の方法1(フランス派)：『七人の侍』と『荒野の七人』、
比較文学の方法2(アメリカ派)
- 10回 比較文学の実践：時代比較、国(地域)比較
- 11回 比較文学の実践：ジャンル比較：小説と映画
- 12回 比較文学の実践：翻訳の問題：俳句とその訳(松尾芭蕉とその翻訳)
- 13回 比較文学の実践：テーマ比較：日米の集団主義と個人主義(『わたしは貝になりたい』と『坩堝』)
- 14回 比較文学の実践：テーマ比較：母性比較(『ピラヴド』『マザー&ラヴァー』)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験かレポート...90% 出席点(課題など)...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で提示する様々な作品に積極的に接してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア文化概論【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を講義するなかでメディア論的な思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学史と視点① W.ベンヤミン【複製技術】
- 第3回 学史と視点② M.マクルーハン【メディア / メッセージ】
- 第4回 学史と視点③ R.シャルチエ【読書論】【物質性】
- 第5回 メディア史① 身振りと言葉(1)【身近なメディア】【文明史】
- 第6回 メディア史② 身振りと言葉(2)【象徴】【コミュニケーション】
- 第7回 メディア史③ 印刷技術【グーテンベルグ】
- 第8回 メディア史④ 音声(1)電話【家庭】【個人】
- 第9回 メディア史⑤ 音声(2)レコード・ラジオ【マスメディア】
- 第10回 メディア史⑥ 音声(3)ウォークマン【都市の風景】
- 第11回 メディア史⑦ 映像(1)映画【活動写真】【トーキー】
- 第12回 メディア史⑧ 映像(2)テレビ【メディアイベント】
- 第13回 学史と視点④ S.ホール【カルチュラルスタディーズ】【オーディエンス】
- 第14回 学史と視点⑤ 再びメディアとは何か【インターネット】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題など)...約30% 学期末試験約70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabus
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心にして、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。
 - ①授業の展開の全体像
 - 5回
 - ②「新出事項導入」
 - 6回
 - ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回
 - ②Reading
 - 9回
 - ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回
 - ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 40%、 課題... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 30%、課題... 20%、期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 30%、課題... 20%、期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「国語」にとって、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Aでは、自己に「きゝ」、他者に「きゝ」、児童・生徒に「問う」ことを通し、自己変革を保障する教育力を、獲得する。Bでは、「教材」を自在に開発し、学習指導目標を明確にした上、授業構想を確立する力を、模擬授業により錬磨する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに中学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 なぜ【「きく」】なのか。
- 第2回 「きく」は、何を創造するのか。
- 第3回 ことばにとり、「沈黙」とは何か。
- 第4回 「表現」と「理解」は、通底する。
- 第5回 一語の価値を「きゝ」分ける。
- 第6回 「きい」たものを、つなぐ。
- 第7回 「国語」にとり「学力」とは何か。
- 第8回 【「主題意識」】を確認し合う。
- 第9回 「教材」を、透視し開発する。
- 第10回 分からないからこそ、「問う」。
- 第11回 「問い」に体系をつける。
- 第12回 【「評価」】は、「評定」とは違う。
- 第13回 学習者に「きく」。
- 第14回 「生活語」の沃野に「きゝひたる」
- 第15回 まとめ こんな指導者になりたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本年度は、中学校国語科教員をめざす者を対象とする。履修後は「国語科教育法B」を受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「国語」にとって、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Aでは、自己に「きゝ」、他者に「きゝ」、児童・生徒に「問う」ことを通し、自己変革を保障する教育力を、獲得する。Bでは、「教材」を自在に開発し、学習指導目標を明確にした上、授業構想を確立する力を、模擬授業により錬磨する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに中学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 【「学習指導要領」】とは、何か。
- 第2回 「教科書」「で」指導する。
- 第3回 教材透視・教材開発・授業構想。
- 第4回 模擬授業(1) 【学習指導目標】
- 第5回 模擬授業(2) 焦点化
- 第6回 模擬授業(3) 独自の価値
- 第7回 模擬授業(4) 「問う」
- 第8回 模擬授業(5) 一歩先へ
- 第9回 模擬授業(6) 【集団思考】
- 第10回 模擬授業(7) 評言
- 第11回 模擬授業(8) 【単元学習】
- 第12回 模擬授業(9) 評価のことば
- 第13回 模擬授業(10) 学習指導目標改革
- 第14回 【授業計画】の再構築
- 第15回 まとめ 指導者への決意

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国語科教育法A」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。

②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。

③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 ティスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書道【昼】

担当者名 /Instructor 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校国語科書写の教育内容を正しく理解し、指導に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

全国大学書写書道教育学会編 『明解 書写指導』 萱原書房 平成21年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」国語科編 文部省、その他(プリント配布)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講基礎調査I・II、筆順について
- 第 2 回 書写・書道教育史、用具用材と基本用筆①
- 第 3 回 学習指導要領(国語科書写)、基本用筆の習得②
- 第 4 回 基本用筆の習得③・④
- 第 5 回 楷書の学習と許容体
- 第 6 回 行書の成立、行書の学習①、
- 第 7 回 授業研究①、行書の学習②
- 第 8 回 授業研究②、行書の学習③、
- 第 9 回 授業研究③、行書の学習④
- 第 10 回 授業研究④、行書の学習⑤
- 第 11 回 授業研究⑤、生活の中の書①(細字)
- 第 12 回 授業研究⑥、生活の中の書②(細字)
- 第 13 回 授業研究⑦、仮名の歴史、基礎的な仮名の書き方
- 第 14 回 授業研究⑧、書体の変遷
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...50%(課題I...25% 課題II...25%) レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限られた時間の中での活動となりますので、特に毛筆の技術面において、授業時に習得できなかった場合は、自宅にて復習することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学I【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育に限らず、広く第2言語（外国語）教育における複雑で多用な要素に気づくことを第一のねらいとする。教師、学習者、授業、教えること、学ぶこと等を通して、日本語教育の現状を知り、それにどのように関わるかを考え、行動できるようになることを願う。そのため、話し合いを中心としたペア、グループ形式での活動を多く行う予定である。授業では構成的グループ・エンカウンターを用いて、クラス内の人間関係作りから行う。

教科書 /Textbooks

○青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

春原憲一郎他編『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』凡人社
高松里『日本に住む外国人留学生Q & A』解放出版社
小林浩明『留学生初心者のためのハンドブック』←配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【日本語教育】【日本語教育学】
- 2回 日本語教育とは何か【言語教育】【コミュニケーション能力】
- 3回 日本語能力とは何か【日本語能力試験】【文法】【談話】【社会言語学】【ストラテジー】
- 4回 学習能力とは何か【学習ストラテジー】【認知】【メタ認知】
- 5回 教師の役割【教育の目的】【学習者オートノミー】
- 6回 教師の仕事【教師の一日】【カウンセラー】【コーディネーター】【アドバイザー】
- 7回 教師の養成【教師トレーニング】【教師の成長】【教師オートノミー】
- 8回 アクション・リサーチ【自己研修型教師】
- 9回 教師オートノミー【内省的実践】【教師の実践知】【ナラティブ】
- 10回 ジャーナル・アプローチ【ジャーナル】【教師同士の対話】
- 11回 日本語教育と文化【文化の定義】【多文化主義】【複文化主義】【多文化共生】
- 12回 日本語教育のスタンダード【CEFR】【JFスタンダード】【ACTFL-OPI】
- 13回 評価とは何か【学習者評価】【ポートフォリオ評価】
- 14回 試験
- 15回 総括【リフレクション】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 試験 ... 30 % 自己評価 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では多くの課題が出ると思ってください。また、学生による授業への積極的な参加を求めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国語 / 第二言語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。日本語教師（日本語学習支援者）を目指す者がまず知らなければならないのが、どのように言葉が学習されるのかであり、どのように言語学習を支援できるのかである。そこで、自らの外国語学習経験を通して、第二言語習得研究から俗説や思い込みを検証する。

教科書 /Textbooks

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」『自律を目指すことばの学習』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中望他『日本語教育の理論と実際：学習支援システムの開発』大修館書店
 ○大津由紀雄著『英語学習7つの誤解』生活人新書(NHK)
 西村淳子『多言語多文化学習のすすめ』朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回授業オリエンテーション&複言語のすすめ【複言語】
- 2回一斉授業の問題点【学習者オートノミー】【自律学習】【ポートフォリオ】
- 3回チュートリアル【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 4回リソースを考える【リソース】
- 5回学習計画を立てる【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 6～8回学習を振り返り、学習計画を修正する【リフレクション】
- 9回全体リフレクション【学習の変化】【学習観】【ピリーフス】
- 11回自律学習の問題点【カウンセリング】【アドバイジング】【ピア・ラーニング】
- 12回自律学習の応用【チュートリアルの応用】
- 13回日本社会と日本語教育と学習者オートノミー【多文化共生】【地域日本語学習】
- 14回学習者オートノミーについてさらに考える【教師オートノミー】【自己主導型学習】
- 15回振り返り総括:日本語教師になること・私たちにできること

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ...80 % 試験 ...20 %
 (授業態度には、学習活動に対する自己評価40%を含みます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講希望者は、「未習の外国語」または「未体験の学習方法で既習の外国語」を学習者オートノミーを發揮した学習(自律学習)をしてもらいます。テキスト以外に、そのための教材を用意してもらうことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行が叫ばれる現代、生涯にわたって私たちが主体的に学んでいくことの重要性が認識され、そうした学びをサポートする職員・指導者・リーダー・機関・施設・制度など条件整備が問われています。

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
- 『新社会教育講義』小川利夫編、大空社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 2回 社会教育行政と生涯学習関連行政-教育行政と一般行政
- 3回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 4回 生涯学習施設
- 5回 生涯学習関連施策の動向
- 6回 学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報
- 7回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 8回 社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 9回 社会教育施設-公民館
- 10回 社会教育施設-博物館
- 11回 社会教育施設-図書館
- 12回 大都市における公民館-北九州市
- 13回 生涯学習社会の学習システム
- 14回 成人教育の国際的動向
- 15回 生涯学習、社会教育、学校教育、家庭教育

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。) ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事の必修科目の基本科目として、この授業を先に受講するか、あわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館概論 【昼】

担当者名 /Instructor 太田 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代博物館の目的と機能について考究し、現代博物館はいかにあるべきかを講義する。
博物館学の領域と学的体系について講義するとともに、わが国における博物館の法的意味について講義する博物館の目的と社会的機能の変遷を欧米における博物館史、および日本の博物館史を通して明らかにする。
また、博物館の発達史から博物館の系統分類を行いその特性を解説すると共に博物館の専門職員（学芸員）としての必要な基礎知識を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集（日本博物館協会編）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博物館学講座 1～10（雄山閣出版）、日本の自然史博物館(糸魚川淳二著、東京大学出版会)、新しい自然史博物館（糸魚川淳二著、東京大学出版会）、博物館学（倉田公裕著、東京堂出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、博物館とは
- 2、博物館に対する考え方
- 3、博物館学の領域と体系
- 4、博物館の定義（博物館法の定義、国際博物館会議（ICOM）の定義）
- 5、現代博物館の主な機能
- 6、日本における博物館の法的位置づけ Ⅰ
- 7、日本における博物館の法的位置づけ Ⅱ
- 8、世界史における博物館の成立とその歴史 Ⅰ
- 9、世界史における博物館の成立とその歴史 Ⅱ
- 10、日本における博物館の歴史
- 11、博物館の事業
- 12、専門職としての学芸員の役割
- 13、博物館資料について
- 14、博物館資料の登録事項について
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館経営論・博物館情報論【昼】

担当者名 太田 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館経営論・博物館情報論においては現代博物館の社会的機能を達成するための理論を講義する。博物館の構成、事業、必要な施設等、博物館経営・情報に必要な内容を講義する。専門職として学芸員に求められる資料の登録事業、展示活動、ミュージアム・マネージメント、ミュージアム・マーケティング、マルチメディア、インターネットなどの情報論の基礎を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集 (日本博物館協会編)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博物館学教程 (大堀 哲 編著、東京堂出版)、博物館学経営論 (諸岡 博 著、信山社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、博物館とその機能
- 2、博物館資料と博物館の種類
- 3、博物館の構成要素、博物館位置論
- 4、博物館の業務と組織
- 5、博物館資料の収集から登録、保管まで
- 6、博物館の施設
- 7、ミュージアム・マネージメント I
- 8、ミュージアム・マネージメント II
- 9、ミュージアム・マーケティング I
- 10、ミュージアム・マーケティング II
- 11、マルチメディア
- 12、博物館インターネット
- 13、アウトリーチ
- 14、ボランティアと博物館
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館資料論 【昼】

担当者名 /Instructor 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館法が提唱する「博物館」に対する最低限の共通認識を養うために、博物館法を理解し、さらに博物館資料と関連の深い文化財保護法などの諸法令の要点を学習する。
ついで、ビデオなどを通して個別博物館の活動例を紹介しながら、博物館資料の保存と活用に関する、学芸員としての心構えと最低限の知識を習得する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

網干善教編『博物館学概説』 関西大学出版 1998
『文化財保護行政ハンドブック - 美術工芸編 -』 ぎょうせい 1998

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての博物館【博物館法】
- 2回 博物館の建設事情について【日本の博物館建設】
- 3回 最近の博物館を取り巻く諸問題【博物館の現状】
- 4回 博物館資料の保存環境【施設の立地と周囲の環境】
- 5回 博物館資料の劣化と対策(1)【物理・化学的要因】
- 6回 博物館資料の劣化と対策(2)【生物的要因】
- 7回 博物館資料の保存施設【施設内部の環境】
- 8回 博物館学芸員の仕事(1)【資料の調査と収集】
- 9回 博物館学芸員の仕事(2)【資料の整理】
- 10回 博物館学芸員の仕事(3)【資料の展示】
- 11回 文化財保護法と博物館【文化財の保護】
- 12回 博物館資料の取扱い(1)【仏像・彫刻】
- 13回 博物館資料の取扱い(2)【軸物・屏風】
- 14回 博物館資料の調査と整理【古文書】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・20% 期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

どこかの博物館(美術館)を見学し、博物館の雰囲気や展示方法・構成・内容など、自分なりの印象を描いてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教授法I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 矢野 花織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国内における日本語教育（学習支援）の方法について、学習者を学習目的別に「留学生・就学生」、「生活者としての外国人」、「多文化の子ども」と大きく3タイプに分け、それぞれの背景や現状について概観した上で、学習動機や学習環境に応じたコースデザインを学ぶ。

教科書 /Textbooks

田中望『日本語教育の方法-コースデザインの実例-』大修館書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中望・斉藤里美著『日本語教育の理論と実際』大修館書店
河野俊之・小河原義郎『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ。』アルク
河野俊之『Teach Japanese日本語を教えよう第2版』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【構成的ファシリテータ】【エクササイズ】【シェアリング】
- 2回 留学生・就学生に対するコースデザイン【ニーズ分析】【レディネス分析】
- 3回 シラバスとテキスト【言語的シラバス】【内容的シラバス】
- 4回 カリキュラムデザイン【教授法】【教材】【教具】
- 5回 授業計画【準備】【教案】【教室活動】【引継ぎ】
- 6回 コースデザイン分析【チームティーチング】【批判的思考】
- 7回 協働学習【ジグソー法】【振り返り】
- 8回 評価法【客観的テスト】【主観的テスト】【妥当性】【信頼性】
- 9回 「生活者としての外国人」に対する学習支援(1)【ファシリテータ】【多文化共生】
- 10回 「生活者としての外国人」に対する学習支援(2)【地域日本語教育】【社会的ニーズ】
- 11回 「生活者としての外国人」に対する学習支援(3)【コーディネータ】【システム構築】
- 12回 「多文化の子ども」に対する学習支援(1)【生活・学習環境】【発達段階と言語習得】
- 13回 「多文化の子ども」に対する学習支援(2)【JSLカリキュラム】【進路】
- 14回 言語生活支援としての教室活動【言語保障】【エンパワーメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では自由に意見を述べることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教授法II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の教授法に依拠して教えることはなくても、各教授法によって推奨される学習活動を応用することは多い。しかし、そのためには、基盤となる言語理論や学習理論を理解する必要がある。その上で、学習者に対して適切な選択肢を提示することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

リチャーズ&ロジャーズ『アプローチ&メソッド世界の言語教授・指導法』東京書籍

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鎌田修他『日本語教授法ワークショップ(増補版)』凡人社
 ○ビデオ有り
 ラーセン-フリーマン『外国語の教え方』玉川大学出版部

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【アプローチ】【メソッド】
- 2回 言語教育の歴史【言語教育改革】【メソッド時代】
- 3回 オーラル・アプローチ【場面教授法】
- 4回 オーディオリンガル・メソッド
- 5回 全身反応法
- 6回 サイレント・ウェイ
- 7回 コミュニティ・ランゲージ・ラーニング
- 8回 サジェストペディア
- 9回 コミュニカティブ言語教授法
- 10回 OPI
- 11回 SAPL
- 12回 VT法
- 13回 コンピテンシー重視の言語教授法、協同言語学習法
- 14回 内容重視の指導法、タスク重視の言語教授法
- 15回 まとめと自己評価

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(発表を含む) ... 50 % 試験 ... 20 % 自己評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各教授法については学生による授業(発表を含む)の形式をとる。教育実習へ向けての準備としたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学演習I【昼】

担当者名 横林 宙世 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中・上級日本語教育におけるいろいろな局面を理論と実践の両面から学習すし、「誰のために」「何のために」「何を」「どう教えるか」を追及する。

教科書 /Textbooks

丸山敬介『日本語教育学演習シリーズ⑥教え方の基本』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中望『日本語教育の方法 - コースデザインの実際』大修館書店
- 名柄迪監修『実践日本語教授法』バベル・プレス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 基本事項の確認
- 3回 初級と中上級の相違 1
- 4回 初級と中上級の相違 2
- 5回 中上級の教材と指導法
- 6回 読解指導 1
- 7回 読解指導 2
- 8回 談話指導 1
- 9回 談話指導 2
- 10回 プロジェクトワークの指導
- 11回 課題発表の指導
- 12回 ビデオ教材の利用
- 13回 教材作成 1
- 14回 教材作成 2
- 15回 評価

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題提出を含む)...30% 課題作成...20%、期末試験...50%
演習科目であるから授業時間の3分の1以上の欠席者には単位は与えられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでから授業に参加すること。又授業では扱わない初級部分にも目を通しておくこと。書物や新聞を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学演習II 【昼】

担当者名 横林 宙世 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中上級の文法にはどんなものがあるか、それらの意味、機能、用法について日本語能力試験問題1、2級を基に概略知識を得た後、テキストからいくつかの項目を取り上げ、演習形式で検討していく。レポート担当者は担当部分を調べてきて発表する。

教科書 /Textbooks

友松悦子他『どんなとき使う日本語表現文型500』（アルク）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 白川博之監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク）
- グループジャマシイ『教師と学習者のための日本語文型辞典』（くろしお出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 中上級の文法とは 1 (group work)
- 3回 中上級の文法とは 2 (group work)
- 4回 中上級の文法とは 3
- 5回 課題発表 1
- 6回 課題発表 2
- 7回 課題発表 3
- 8回 課題発表 4
- 9回 課題発表 5
- 10回 課題発表 6
- 11回 課題発表 7
- 12回 課題発表 8
- 13回 課題発表 9
- 14回 課題発表 10
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度(授業中の積極的な発言を含む)・・・20%、 課題提出・・・10% 発表(含むレジュメ)・・・25%
最終レポート・・・45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をして授業に参加すること。書物、新聞などを読んで、語彙量を増やし、日々自身の日本語力を高める努力を重ねること。外国人に説明し、適切な例文が作れるように日本語を意識的に外から眺める努力を続けること。中・上級の表現文型を用いて例文を沢山作る努力を続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育実習【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧に詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。また、実習成果の一つとして簡易な報告書の作成を行う。

教科書 /Textbooks

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストに多くの文献が紹介されています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】
- 2回 学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】
- 3回 チュートリアルとは何か【個別対応】【学習者オートノミー】
- 4回 チュートリアルとは何か【リソース】【ポートフォリオ】
- 5回 実習(1)【リフレクション】【気づき】
- 6回 実習(2)
- 7回 実習(3)
- 8回 実習(4)
- 9回 実習(5)
- 10回 実習(6)
- 11回 実習(7)
- 12回 再び、チュートリアルとは何か【教師オートノミー】【自己主導型学習】
- 13回 総括【教師の成長】【多文化共生社会】
- 14回 報告書の作成(1)
- 15回 報告書の作成(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習は外国人留学生特別科目「日本語A」(週2回ペア2クラス)のチュートリアルで実習を行います。
実習期間はほとんど毎日実習準備のために大学に来る心積もりでいてください。
実習準備に参加しない人の実習参加は認められないことがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育実習【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語学習者(留学生)のための短期集中コースをデザインし、それを実行する。コースを設計し、その運営を行うことは決して易しいことではないが、日本語教師の専門性には欠かすことのできない能力である。
平成21年度は、「留学生のための就職活動支援講座」を行った。

教科書 /Textbooks

田中望他『日本語教育の理論と実践：学習支援システムの開発』大修館書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅倉美波他『日本語教師必携ハート&テクニク』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び教育実習計画について【コースデザイン】
- 2回 コースデザイン【ニーズ調査】【レディネス調査】【言語学習適性調査】【学習条件調査】
- 3回 ニーズ分析
- 4回 目標言語調査及び言語資料分析
- 5回 シラバスデザイン及びカリキュラムデザイン(1)
- 6回 シラバスデザイン及びカリキュラムデザイン(2)
- 7回 実習(1)振り返り及び学習者評価
- 8回 実習(2)振り返り及び学習者評価
- 9回 実習(3)振り返り及び学習者評価
- 10回 実習(4)振り返り及び学習者評価
- 11回 実習(5)振り返り及び学習者評価
- 12回 実習に対する評価
- 13回 総括
- 14回 報告書の作成(1)【報告書の目的】【章建て】【役割分担】
- 15回 報告書の作成(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習は必ずしも授業時間に行えるとは限りません。実習協力者の都合によります。
実習期間はほとんど毎日実習の準備のために大学に来る心積もりでいてください。
実習準備に参加しない人の実習参加は認められないことがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習I【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」は「博物館実習II」の事前教育である。
実際の館務実習である「博物館実習II」の教育効果を高めるために文学部の担当教員のほか、各種の博物館・美術館で実際に勤務している学芸員の方々をも講師に招き、学内における講義・実習と学外の諸施設および展示の見学とを組合わせて行う。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として隔週ごとの土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。
歴史・民族・考古・美術・自然史・文学等の博物館を訪れる予定。
最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。
学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習II【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館務実習です。実習は本学が委託した博物館・美術館で実施されますが、指導学芸員はじめ館員の方すべてが、激務のなかで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分2週間を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。
「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)
ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10%、課題...10%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。1年生科目の「歴史と政治」を受講している方がわかりやすい。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」をことさらに語るには、どのような効力があるのだろうか。誰が何時、何を「文化」と名づけて、どのように語り、どのような意味と価値を生み出したのか。そこにどのような政治的な効力があるのかをよみとり、「文化と政治」という問題を検討したい。

具体的には、①日本の国民国家形成期である明治期、②総力戦の体制を構築した昭和初期、そして③現代の文化財保護等における、「文化」という名づけと、多様な「資源化」の政治を検討する。

また講義期間中に、外部講師による講義で、日本以外のフィールドを扱うことを予定している。

ビジョン科目「人間と文化」を前提に講義するので「人間と文化」を履修していることが望ましい。

教科書 /Textbooks

必要な資料は講義中にプリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「文化」を語るとは？【文化】【国民国家】
- 2回～5回 国民国家・日本の形成と「文化」の政治 : 「美術」と「文学」という近代【明治期・日本】【内国勸業博覧会】【言文一致】【国民文学】
- 6回～9回 動員の政治と「文化」 : 大政翼賛会文化部の活動から【地方文化運動】
- 10回～13回 資源として「文化」・商品としての「文化」 【文化財保護行政】【観光】
- 14回 文化について学ぶとは
- 15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート80% 授業内小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
 ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 中溝 幸夫 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼球運動研究の基礎知識：読みと眼球運動(1)：(中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているか：読みと眼球運動(2)：(中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか：言語活動の認知神経科学入門(中溝)
- 第5回 未定
- 第6回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得(漆原)
- 第7回 ことばはどのように失われるのか：脳科学と失語症・失文法(漆原)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子(日高)
- 第9回 特別講義(外部講師)
- 第10回 概念と言葉：概念におけるプロトタイプ効果など(ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か：隠喩論(ストラック)
- 第12回 両義性と仄めかし：アイコン性、phonaesthemesなど(ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性(杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論(杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...16%×5
 5名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～8回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスII」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール(【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
 キャリアプラン 【自然】【遊び】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラジエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来社会に出ていく皆さんのために、①様々な職業や企業などの社会について知る②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方をイメージする③コミュニケーションに慣れる④社会人としての基本的な態度を身につける⑤自分について知る、以上5点を目標にします。グループワーク、ゲーム、個人作業、講義などを組み合わせて授業を進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【キャリア】 【ガイダンス】
- 2回 進路の現状 (就職・公務員・教員等の進路スケジュール) 【進路】 【公務員】 【教職】
- 3回 学生生活とキャリア (社会人基礎力、大学時代の過ごし方) 【学生生活】 【資格】 【能力】
- 4回 自分を知るI (自分の歴史を考える、自分の強みを知る) 【自己分析】 【強み】
- 5回 インターンシップ (インターンシップ経験者の話、役立ったこと) 【インターンシップ】
- 6回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) 【働く】 【職種】
- 7回 企業・業界について (企業の組織について、業界の見方) 【会社】 【業界】
- 8回 働いている人の話を聞く (実際の仕事、仕事のやりがいについて) 【やりがい】 【仕事】
- 9回 就職試験 (SPI、一般常識) 【採用】 【SPI】
- 10回 様々な働き方 (働き方の多様化、キャリアに対する考え方) 【雇用形態】 【フリーター】
- 11回 キャリアとお金 (働き方別の賃金、生活費シミュレーション) 【給料】 【生活】
- 12回 自分を知るII (自分の価値観を考える、多様性を認識する) 【価値観】 【多様性】
- 13回 就職活動の実体験 (内定した4年生の話、就職活動のポイント) 【就職活動】
- 14回 学生生活を考える (将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか) 【学生生活】 【目標】
- 15回 まとめ (授業全体を振り返る、総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...60% 授業内でのレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別準備することはありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】
- 2回 会話とストレートトーク (コミュニケーションとは、大切さ)
- 3回 言動の基本、伝え方 (話力とは、聞き手に心を開いて話をする)
- 4回 話し方に心理学を応用するI (行動パターンによるコミュニケーション)
- 5回 話し方に心理学を応用するII (良い人間関係を作るコミュニケーション)
- 6回 話し方に心理学を応用するIII (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション)
- 7回 応対マナー (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い)
- 8回 電話応対 (電話・手紙のマナー) 【マナー】
- 9回 敬語を上手に使い話力を高める (敬語の使い方)
- 10回 話しのTPO (シチュエーションを考える)
- 11回 思考法① (ロジカルシンキング)
- 12回 思考法② (クリティカルシンキング)
- 13回 パワーポイントをマスターする (データを読み取る、何が言えるかを考える)
- 14回 プレゼンテーションをやってみる (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仕事で求められる重要な力は『コミュニケーション力』と『考える力』です。複雑化、成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく、問題を発見し、解決に導いていく思考ができる人材が求められます。前半は社会人として円滑なコミュニケーションができるように、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながら学んでいきます。後半は仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。
 ※講義の性格上、履修希望者多数の場合は抽選となります。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用する場合があります。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|------------------------------|
| 1回 | 全体ガイダンス | (授業の目的、授業のルール) 【コミュニケーション】 |
| 2回 | 会話とストレートトーク | (コミュニケーションとは、大切さ) |
| 3回 | 言動の基本、伝え方 | (話力とは、聞き手に心を開いて話をする) |
| 4回 | 話し方に心理学を応用するI | (行動パターンによるコミュニケーション) |
| 5回 | 話し方に心理学を応用するII | (良い人間関係を作るコミュニケーション) |
| 6回 | 話し方に心理学を応用するIII | (日常会話、スピーチ、プレゼンテーション) |
| 7回 | 応対マナー | (どう話すのか、話す時の立ち振る舞い) |
| 8回 | 電話対応 | (電話・手紙のマナー) 【マナー】 |
| 9回 | 敬語を上手に使い話力を高める | (敬語の使い方) |
| 10回 | 話しのTPO | (シチュエーションを考える) |
| 11回 | 思考法① | (ロジカルシンキング) |
| 12回 | 思考法② | (クリティカルシンキング) |
| 13回 | パワーポイントをマスターする | (データを読み取る、何が言えるかを考える) |
| 14回 | プレゼンテーションをやってみる | (パワーポイントを使いこなす、考えをまとめる) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席50%、授業の成果物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。講義全体のキーワードは「働くこと」「成長の秘訣」「将来のキャリア」です。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路を絞り込んでいる人は、どんな準備をすれば良いかが理解できます。将来の自分の進路がイメージできない人は、世の中の仕事の現実を知るチャンスです。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロフェッショナル人材の講演【働くこと】【成長の秘訣】【将来のキャリア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業ごとのレポート60%、最終レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※第1回と最終回以外すべて社会人ゲストによる公演です(事情によりビデオになる場合あり)。
- ※講演する社会人が所属する企業や仕事に関して必ず予習をしてください。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
- ※2009年度企業：ジェイコム北九州、安川電機、門司港ホテル、TOTOインフォム、コクヨ、山口銀行。2010年度は公務員や教員、起業家、大企業の第一線で活躍する女性、地元で家庭と両立する女性などにも来て頂こうと思っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学論・学問論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 /ONO NORIAKI / 法律学科, 矢田 俊文 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから大学生活を送る新入生に対し、大学とはなにか、大学で何を学び、新しい時代をどのように生き抜くべきかについて、真剣に考える機会を提供することを目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 「知の時代」と学問・大学
- 3回 戦後大学史 新制大学と学生急増の時代
- 4回 戦後大学史 18歳人口減少と大学改革の時代
- 5回 北九州市立大学の改革 中期計画と大学運営
- 6回 北九州市立大学の改革 教育改革1 学部学科再編
- 7回 北九州市立大学の改革 教育改革2 学生生活支援
- 8回 北九州市立大学の改革 地域貢献
- 9回 大学生活を始めるにあたって-大学生活から学んだもの-
- 10回 企業に入り社会人となって
- 11回 企業とは何か-企業経営から学んだこと-
- 12回 世界を知る
- 13回 世界から学ぶ
- 14回 社会人となるための心構え-新しい時代を生き抜くために-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の感想文... 20% 総括レポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑法】【法の適用】【憲法と刑法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か【意味世界】、【解釈】
- 第2回 量的調査と質的調査【量的データ】、【質的データ】
- 第3回 調査と研究の進め方【記述の問い】、【説明の問い】
- 第4回 社会調査を企画する【個別面接調査】、【留置調査】、【郵送調査】
- 第5～8回 ワーディングと調査票の作成【ダブル・バーレル】、【キャリア・オーバー効果】、【パーソナル - インパーソナル】
- 第8～9回 サンプリング【母集団】、【標本】、【無作為抽出法】、【標本誤差】
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成【コーディング】、【カラム設計】、【データ・クリーニング】
- 第11回 分布と統計量【単純集計】、【代表値】、【分散】、【標準偏差】、【分位数】
- 第12回 検定の考え方【帰無仮説】、【第1種、第2種の誤り】
- 第13～14回 クロス表と相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

谷・山本編『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

H.ザイセル『数字で語る 社会統計学入門』新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト入手して授業に参加のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、生命科学に関する基礎的な知識を身につける。関連図書・文献を読み、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(1)
- 3回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(2)
- 4回 DNA・遺伝子について基本的事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど)。

教科書 /Textbooks
 適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン。
- 2回 図書館の使い方。
- 3回 ノートの取り方。
- 4~5回 本の読み方。
- 6~10回 レジュメの作り方。
- 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
- 14回 総論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
 便宜上、上のように書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習I」は半期完結型の授業です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	グループディスカッション (1)
2回	" (2)
3回	" (3)
4回	グループゲーム (1)
5回	" (2)
6回	自分自身を理解する
7回	自分自身を人に理解させること
8回	人を理解すること
9回	集団で克服していくトレーニング
10回	キャンプのオリエンテーション (1)
11回	" (2)
12回	" (3)
13回	" (4)
14回	" (5)
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
I(1学期)では、まず各自が「テーマ」を決める。さらに、その「テーマ」について「問い」をたてる。平行して、社会的な考え方、文献資料の調べ方等についても学ぶ。さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。
報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2～5回 社会的なものの方・考え方 - 『知的複眼思考法』
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7～8回 情報収集の仕方(図書館データベース、国立国会図書館等の使い方)
- 第9回 「問い」のたてかた
- 第10～14回 実例 - 『「二ート」って言うな』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 課題... 40% 参加度... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習Ⅱもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手と呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに思想史上の古典に関する知識）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

教科書 /Textbooks

初回に紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 西洋古典の教養について
- 3回 聖書に関する基礎知識I
- 4回 聖書に関する基礎知識II
- 5回 古代ギリシャを見直すI
- 6回 古代ギリシャを見直すII
- 7回 読解と討論I
- 8回 読解と討論II
- 9回 読解と討論III
- 10回 読解と討論IV
- 11回 読解と討論V
- 12回 課題テーマに関する発表I
- 13回 課題テーマに関する発表II
- 14回 課題テーマに関する発表III
- 15回 課題テーマに関する発表IV

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員ができるだけ多くの発言および発表の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
また、授業内で参照する資料に関しては、各自図書館でコピーしてくる必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 スキルチェック①
第3回 スキルチェック②	第4回 バレーボールとは
第5回 状況判断とポイント	第6回 戦術理解：レセプションフォーメーション&サービス
第7回 戦術理解：アタックフォーメーション	第8回 戦術理解：アタック&ブロックガードフォーメーション
第9回 戦術理解：ブロックインフォーメーション	第10回 戦術理解：ブロックシステム
第11回 ゲーム分析：対象チームのフォーメーション分析	第12回 ゲーム分析：レセプション⇒攻撃のパターン・特徴
第13回 ゲーム分析：ディグ⇒攻撃のパターン・特徴	第14回 ケーススタディ
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことがあります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。

また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

遺伝子とは何か？細胞とは何か？本演習では「生命科学入門」をテーマとし、教養基礎演習Iに引き続いて関連図書・文献を読み、科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身に付ける。身近な科学記事を選んで、研究内容についての自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、芦田嘉之「やさしいバイオテクノロジー」ソフトバンククリエイティブ2007年、池田清彦「寿命はどこまで延ばせるか？」PHP研究所2009年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明(1)
- 3回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明(2)
- 4回 遺伝子・細胞について基本的事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(発表を含む)...50% 期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉強の仕方を一から学んでいきます (図書館の使い方、レジュメの作り方、本の読みかたなど)。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン。
- 2回 図書館の使い方。
- 3回 ノートの取り方。
- 4~5回 本の読み方。
- 6~10回 レジュメの作り方。
- 7~13回 プレゼンテーションの仕方。
- 14回 総論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 4 5 % 課題... 4 5 % 期末試験... 1 0 %
 便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。なお、この「教養基礎演習II」は半期完結型の授業です。「教養基礎演習I」をとっていない学生の履修を希望します。ご注意下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定のテーマを設定し、それを調べ、読み、考え、議論し、書くという作業を通して、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

何をテーマにして、どのように進めるかは、基本的には受講生と相談の上で決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(発表・コメント)50パーセント、期末レポート50パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加する姿勢を重視する。無断欠席は、他の参加者に迷惑がかかるので、厳禁する。無断欠席を一回でもした場合、単位の取得を認めない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 " (2) 期間
- 11回 " (3) 金額
- 12回 " (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成
- 14回 " (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 受講態度 ... 20% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講を義務づける。
II(2学期)では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2~6回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第6回 第1回論文検討会
- 第7~11回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第10回 第2回論文検討会
- 第11~14回 関連文献のテキスト批評(コメンタリー)
- 第15回 論文報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15%課題(報告レジюмеと論文)...70%参加度...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

分担を決め報告をしてもらう。また、内容についての質疑・応答を通して理解を深める。
文献を読んでくること、質疑に参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の翌年度の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に検索してみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。
* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いため、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることにある。1学期の内容に続く発展的テーマをめぐって討論を重ねたあと、参加者各人には特定のテーマ・関心に基づいたプレゼンテーションを行なってもらう。

教科書 /Textbooks

プリントにて配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 哲学論文の読み方I
- 3回 哲学論文の読み方II
- 4回 文学作品への思想的アプローチI
- 5回 文学作品への思想的アプローチII
- 6回 読解と討論I
- 7回 読解と討論II
- 8回 読解と討論III
- 9回 課題テーマに関する発表I
- 10回 課題テーマに関する発表II
- 11回 課題テーマに関する発表III
- 12回 課題テーマに関する発表IV
- 13回 課題テーマに関する発表V
- 14回 課題テーマに関する発表VI
- 15回 課題テーマに関する発表VII

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況... 60% 口頭発表... 40%
(口頭発表のテーマに関しては授業内で別途指示する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加者全員に対して十分な発表の機会を確保するため、受講者の最大人数は15人までとする。
それを越える場合は受講者数調整をかける。
(※とくに履修制限は設けないが、このゼミは同担当者による「教養基礎演習I」の続きであることに留意されたい。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を、自チームの強化策や相手チームの攻略策の検討などを通じ、応用・実践していただこうと思います。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。バレーボールが好きな人を募集します。最大で15人程度を予定しています。座学と調査・実習を組み合わせ実施します。原則としてIとIIはセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 グループ分けと対象チームの選定
第3回 情報の収集①	第4回 情報の収集②
第5回 収集した情報の分析①	第6回 収集した情報の分析②
第7回 収集した情報の分析③	第8回 強化策 / 攻略策の検討①
第9回 強化策 / 攻略策の検討②	第10回 強化策 / 攻略策の検討③
第11回 プレゼン資料の作成①	第12回 プレゼン資料の作成②
第13回 グループ発表①	第14回 グループ発表②
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきたい。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼におきます。

また、学内と離れた場所での野外活動(スキー実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につける。DNA 2重らせん発見を中心とした分子生物学黎明期における研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジームズ・ワトソン『DNA』上(青木薫訳)講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子研究について基本事項の説明(1)
- 3回 遺伝子研究について基本事項の説明(2)
- 4回 遺伝子研究について基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回~14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む)...30% 発表...30% 期末レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習AIIもあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 インTRODクシヨン

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手を呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になりたいかな、と思っている人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

AIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 25% 報告... 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 希望者による口頭発表I
- 14回 希望者による口頭発表II
- 15回 希望者による口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
授業前の準備事項として、バタイユという思想家がどのような人物なのかを辞書・辞典等で必ず調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子研究とその歴史」をテーマとし、関連図書・文献を通して、科学的なものの考え方や考え方を身につけるとともに、社会における意味を考える。ヒトゲノム計画以降の分子生物学発展期の研究についての参考文献を読み進め、学んだ中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジームズ・ワトソン『DNA』上・下(青木薫訳)、講談社2005年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ゲノム研究についての基本事項の説明(1)
- 3回 ゲノム研究についての基本事項の説明(2)
- 4回 ゲノム研究についての基本事項の説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 A I もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 近代文書の解読
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。Iを履修できない場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習AI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習AI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、AI、AIIの通年受講を原則とする。

1学期(AI)に続くAIIでは、AIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。

なお、今年度はBI、BIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...15% 報告...15% 論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習 A I のつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期(教養演習 A I)の内容の復習
- 2回 読解と議論I
- 3回 読解と議論II
- 4回 読解と議論III
- 5回 読解と議論IV
- 6回 読解と議論V
- 7回 読解と議論VI
- 8回 読解と議論VII
- 9回 読解と議論VIII
- 10回 読解と議論IX
- 11回 読解と議論X
- 12回 希望者による口頭発表I
- 13回 希望者による口頭発表II
- 14回 希望者による口頭発表III
- 15回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% レポートor口頭発表...40%
(最終的な単位認定は、レポートもしくは口頭発表のいずれかによって決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、関連図書・文献を通して、生命科学の基礎知識を得ると共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。その中において、受講生にとっての新たな「発見」をまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 遺伝子・染色体についての基本的説明 (1)
- 3回 遺伝子・染色体についての基本的説明 (2)
- 4回 遺伝子・染色体についての基本的説明 (3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介 (1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介 (2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介 (3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介 (4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介 (5)
- 10回 発表の仕方についての説明
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (討論への参加を含む) ... 30% 発表... 30% 期末レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B II もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を涵養し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房、2006年）¥3,150

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 インTRODクシヨN

2回目の講義からテキストを読み始めます（～14回）。毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。

「歴史と政治」を受講していれば、演習の効果はよりあがるでしょう。15回の演習で、一冊完読します。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 45% 課題... 45% 期末試験... 10%

便宜上、上のよう書きましたが、実際には無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習 A I・II」「教養演習 B II」とセットで履修することを希望します。A I・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks
 履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

参考までに、昨年度の「防衛セミナー」では、①陸自空挺部隊経験者兼災害派遣経験者(3佐)、②陸自イラク復興支援経験者兼現職募集課長(1佐)、③陸自海外大使館における防衛駐在官経験者兼現職地本本部長(1佐)、④空自春日基地司令(将補)、⑤海自下関基地隊司令(1佐)、⑥陸自イラク復興支援群長経験者兼現職幹部候補生学校長(将補)、⑦陸自第40普通科連隊長兼小倉駐屯地司令(1佐)などを招聘し、貴重なレクチャーをしていただいた。今年度は、上に述べたとおり、比較的若手を呼ぶ。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する人は履修を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。

BIでは、まず「テーマ」を決めるとともに、国際社会学(グローバルイゼーション論等)に関する基本的な文献を読む。その後、自分の問題関心にしたがって関連文献のリストを作成し、文献を報告してもらい、質疑応答を通して知識を深める。

なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。(以下、AIIに続く。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フィールドワーク - 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉、新曜社
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 テーマと問いを明確にする
- 第3回~14回 関連文献についてのテキスト批評
- 第15回 論文執筆計画についての報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 25% 報告... 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。演習全体のキーワードは、「消費経済と宗教文化」である。

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』（中山元訳）ちくま学芸文庫、2003年。
（※このテキストは、バタイユ著作集第6巻『呪われた部分』（生田耕作訳）とは違うものなので、取り違えないように。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI
- 2回 ガイダンスII
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 口頭発表I
- 14回 口頭発表II
- 15回 口頭発表III

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。文庫なので、コピーで配ることはしない。
準備として、少なくともバタイユの作品のいずれかに触れておくこと。熱意ある学生の参加を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「遺伝子と長寿社会」をテーマとし、教養演習 B II に引き続いて関連図書・文献を読み進め、生命科学や遺伝子研究の基礎を学ぶと共に、医療・産業における科学の貢献や社会との関わりを学ぶ。また、近年注目されている iPS 細胞についても勉強する。身近な科学記事を選んで、研究内容について自分の言葉でまとめ、発表・討論を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

黒木登志夫『健康・老化・寿命』講談社2005年、福岡伸一「生物と無生物のあいだ」講談社2007年、八代嘉美『iPS細胞』平凡社2008年他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(1)
- 3回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(2)
- 4回 幹細胞と遺伝子についての基本的説明(3)
- 5回 関連図書・DVDの解説・紹介(1)
- 6回 関連図書・DVDの解説・紹介(2)
- 7回 関連図書・DVDの解説・紹介(3)
- 8回 関連図書・DVDの解説・紹介(4)
- 9回 関連図書・DVDの解説・紹介(5)
- 10回 関連図書・DVDの解説・紹介(6)
- 11回～14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(討論への参加を含む) ... 30% 発表 ... 30% 期末レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り教養演習 B I、教養特講義 IV もあわせて履修してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○中地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。可能な限り、教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読を練習する。

教科書 /Textbooks

『演習古文書選・近代(上)』(吉川弘文館)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 第2回～7回 近代文書の解読
- 第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...45%課題...45%期末試験...10%
便宜上、上のようには書きましたが、実際には無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小林担当の「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。BIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。なお、「歴史と政治」(1年生科目)をとってれば、より効果的に勉強できます。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」論をテーマにした演習を行う。履修者各自のテーマに基づき展開する。

教科書 /Textbooks

履修希望者の関心に基づき指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細な授業スケジュールは履修希望者との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の出席と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養演習BI」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養演習BI」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際社会学的な関心に基づく「問い」をたて、1年かけて論文(40,000字程度)を書くことを目指す。それゆえ、BI、BIIの通年受講を原則とする。
1学期(BI)に続くBIIでは、BIで作成した論文執筆計画書に従って論文執筆を行う。また、適宜、関連文献のレビュー(テキスト批評)を行う。
なお、今年度もAI、AIIとの合同ゼミを考えている。また、演習形式のため受講者の最大数は7人とする。それを越える場合、受講者調整をかける。なお、共同で調査を行って論文を書くことになった場合、実査の段階では、(調査対象者の都合によるので)日時は必ずしも時間割通りにはならないこともあるので注意されたい。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『実証研究の手引き - 調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 論文執筆計画(進捗状況)の確認
第2~14回 関連文献のテキスト批評/論文検討会
第15回 論文のプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 15% 報告... 15% 論文... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

執筆計画等の準備が必要となる。また、報告される文献については、全員、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代思想の基本文献を一冊セレクトし、それを読み解くことで、当該分野に関する基礎的な知識と思考力を養成する。今年度は、フランス・ポストモダン思想の強力な源泉の一つとなったバタイユのテキストを取り上げる。(教養演習BIのつづき)

教科書 /Textbooks

ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分—有用性の限界』(中山元訳)ちくま学芸文庫、2003年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井健『バタイユ入門』ちくま新書、1996年。
○湯浅博雄『バタイユ 現代思想の冒険者たち11巻』講談社、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期(教養演習BI)の内容の復習
- 2回 読解と議論I
- 3回 読解と議論II
- 4回 読解と議論III
- 5回 読解と議論IV
- 6回 読解と議論V
- 7回 読解と議論VI
- 8回 読解と議論VII
- 9回 読解と議論VIII
- 10回 読解と議論IX
- 11回 読解と議論X
- 12回 口頭発表I
- 13回 口頭発表II
- 14回 口頭発表III
- 15回 今年度の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況...60% 口頭発表...40%
(参加者には当該テーマに関する口頭発表の実施を求める)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する者は、授業開始前に各自でテキストを購入しておく必要がある(税抜1500円)。
本演習は1学期からの継続であるため、テキストの途中から講読を再開する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※参加募集は夏休み前などに行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※2学期の履修登録の修正登録期間に忘れずに履修登録してください。
- ※期間限定プロジェクトを除き、翌年度前期の『プロジェクト演習II』も履修登録してください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウエーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。演習全体のキーワード：「経験から学ぶ力」「主体性」「二人称的思考」

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

なし。その都度資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
第15回 まとめ ※【経験から学ぶ力】【主体性】【二人称的思考】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※プロジェクトへ参加募集は掲示板に掲示します。なお、参加人数には制限があります。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。各グループ自由に設定してください。
- ※教室も指定しませんが、空いていれば学生プラザのプロジェクトルームを使用してください。
- ※2009年度実績：オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、就活生応援マガジン「キャリアーナ」、JOB×HUNTER 2011、北Q企業大解剖-the movie-、Navy Wavy (ニューウェーブ北九州)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中・高で習う「数学」とは違い、「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○ サイモン・シン著・青木薫訳 『フェルマーの最終定理』 新潮社 (2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。
ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて楽しいと思われる問題。
- 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
- 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
- 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
- 4回 円周率とは【πの歴史】、【ピュファンの針】
- 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
- 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
- 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
- 8回 究極の折り紙
- 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
- 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
- 11回 「テーマから考えてみよう」
- 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
- 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【moduloの世界】
- 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
- 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3コマ以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思惟構造を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）【ユダヤ教】
- 5回 一神教について2（キリスト教の成立）【キリスト教】【イスラム教】
- 6回 一神教と日本の宗教風土【牧畜文化】【稲作漁撈文化】【都市国家】
- 7回 仏教について1（インドの仏教）【シャカ】【上座部仏教】【大乘仏教】
- 8回 仏教について2（中国の仏教）【儒教】【道教】【殺生戒】
- 9回 仏教について3（日本の仏教）【本覚思想】【戒律】
- 10回 神道について1（古代の神道）【禊祓】【罪と穢】
- 11回 神道について2（神道と東アジアの宗教）【皇帝祭祀】【神祇令】
- 12回 日本の宗教風土1（神と仏）【神仏習合】【神仏隔離】
- 13回 日本の宗教風土2（祖先崇拜）【盆と彼岸】【寺檀制度】
- 14回 日本の宗教風土3（近代から現代へ）【神仏分離】【政教分離】【新宗教】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（レポート含む）...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
5～6回のレポートを課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ものがたりと人間【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 木下 善貞 / 英米学科
/Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ものがたり」とは、決して「文学」の問題に限られるものではない。神話から文芸、噂話さらには日々のニュースまで、言語をあやつる人間は、「ものがたり」という行為を通して出来事や<世界>、「歴史」を了解し、そしてそこで生きる「自己」像を創り上げてきた。つまり、「私」とは何か、という問いまで、「ものがたり」として存在していることを意味する。この科目は、人間の限界と可能性を、「ものがたり」をキーワードにしながら、文学、文化、歴史、心理、法学など多様な学の知を横断しながら考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料等は、講義中にプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものがたりとは何か (重信) 【語る】【語り手】
 - 2回～3回 ものがたりの生成 (重信) 【うわさ】
 - 4回～6回 ものがたりと歴史 (重信) 【物語文】
 - 7回 ものがたりと「落語」 (小野) 【声】【場】
 - 8回 ものがたりと「法律」 (小野) 【法廷】【声と説得】
 - 9回～10回 ものがたりに心理学から考える (税田) 【発達】
 - 11回～13回 ものがたりの論理 :文学テキストから (木下) 【第一の語り手】
 - 14回 まとめ :ものがたりの力 (重信)
 - 15回 質問日
- (以上はあくまでも予定であり、各回の講義タイトル、内容が変更される場合がある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語、授業途中の出入りを厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名
/Instructor

真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は二部構成となっており、前半では表象論の基礎的問題を扱い、後半では日本の近世までに制作された美術作品について扱う。
前半は、まず表象概念の説明をアニメ、演劇などをとりあげておこなう。そののちに、「戦争」というテーマのもとに銅像、語り芸、映画などの例をとりあげて、表象研究の意義について考える。
後半は、映像やアニメに日本の近世以前の美術作品が借用されている例を紹介する。どの場面にこういった作品が描き込まれているかを受講者に見出してもらい、それらの作品の概要について確認して行く。それによって、現代の我々の生活の中には、その気になれば、歴史的美術作品の断片が数多く見出せることを実感してもらう。前半は主に真鍋が、後半は主に五月女が担当する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回【表象論事始め】理論①
- 2回 理論②
- 3回 表象の分析① - 『ハウルの動く城』をとりあげて -
- 4回 表象の分析② - 『おくりびと』をとりあげて -
- 5回【テーマ研究】戦争と表象①
- 6回 戦争と表象②
- 7回 戦争と表象③
- 8回 前半のまとめ
- 9回【映像・アニメに見出せる日本の絵画】映像Aの出題編
- 10回 映像Aの解答編①
- 11回 映像Aの解答編②・映像Bの出題編
- 12回 映像Bの解答編・アニメAの出題編
- 13回 アニメAの解答編・アニメBの出題編
- 14回 アニメBの解答編
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 中間・期末テスト ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半においては、毎回コメントカードを記入して提出してもらう。
後半においては、毎回課題を出し、その次の回到回答を発表してもらうので、必ず予習が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などとよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 英語の方言・日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第12回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第13回 コミュニケーション力(漆原)
- 第14回 予備日
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% レポート...20%×4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 波瀨 剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、「芸術」と「現実」とがどのように関わっているのかという点について検討する。具体的には、「現実」を超えた世界を創造する「芸術」と、「現実」を忠実に再現しようとした「芸術」とでは、どちらがより「リアル」なのかについてさまざまな材料を提示する。受講者には、各回の講義を通じて、「芸術」と「現実」との関わり方について理解する機会となることを期待する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、適宜資料を配布。参考文献も適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 芸能とシニール①
- 3回 芸能とシニール②
- 4回 芸術は爆発か?①
- 5回 芸術は爆発か?②
- 6回 シニールリアリズムの物語①
- 7回 シニールリアリズムの物語②
- 8回 ノスタルジの向こう側①
- 9回 ノスタルジの向こう側②
- 10回 映像テキストの読み方①
- 11回 映像テキストの読み方②
- 12回 さまざまな戦後①
- 13回 さまざまな戦後②
- 14回 歴史 / 物語の現在性①
- 15回 歴史 / 物語の現在性②

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および課題... 20% 学期中レポート... 40% 定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
岩本 真理子 / 比較文化学科, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

今年度は、国際政治学・平和学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、ドイツ文化/文学(岩本)、哲学・倫理学(伊原木)、民俗学・文化論(重信)など、異なった専門の教員がオムニバス講義を展開する予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
- 第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
- 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
- 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジユメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジユメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1) 【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2) 【国連】
- 4回 人権概念の整理(1) 【国家】 【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2) 【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1) 【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2) 【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1) 【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2) 【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状 【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題 【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1) 【国籍】
- 13回 外国人の人権(2) 【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキング】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なのであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 重信 幸彦 / 基盤教育センター
加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達は、家族、近隣そして友人、さまざまに分類しうる人間関係のなかで生き、生かされて、そのなかで多様な葛藤や親密性を経験しながら、他者との関係性を築きあげている。この科目では、「社会」と私達が名づけている関係性を、「社会」という言葉を使わずに「つながり/つながる」をキーワードに、自己と他者との関わりを具体的に問うことからときほぐし、「社会とは何か」を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、ガイダンス 遊びの記憶から
- 2、あそぶ 1 / 教育学 (児玉)
- 3、あそぶ 2 / 民俗学 (重信)
- 4、あそぶ 3 / ワークショップ 序 いる・なごむ・つるむ (加倉井)
- 5、あそぶ 4 / ワークショップ 破 つくる・ためす・あそぶ (加倉井)
- 6、あそぶ 5 / ワークショップ 急 あそぶ・ふりかえる (加倉井)
- 7、あそぶ 6 まとめ (児玉・加倉井・重信)
- 8、たべる 1 / 民俗学 (重信)
- 9、たべる 2 / 食事風景の観察から (児玉・重信)
- 10、たべる 3 / ワークショップ ~五感と共感・分配と葛藤~ (児玉)
- 11、つながる 1 / 近場から街へ (児玉・重信)
- 12、特別講義 つながる 2 / 駄菓子屋という場 (松田道雄)
- 13、特別講義 つながる 3 / 関係性はもう一つの世界をつくる (松田道雄)
- 14、つながる 4 見えない者同志のつながりへ (児玉・加倉井・重信)
- 15、<つながりの人間学>へ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況と発表 50% 学期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を重視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値（4）【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値（5）【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題（3）【種差別】
- 10回 現代における差別の問題（4）【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小レポート含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロニアリズムの思想課題】【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロニアリズムなのか(1)(2)【ポストコロニアリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「ネイション」と「エスニシティ」【多文化主義】【同化主義】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【スカーマン報告】【オルダム暴動】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【サッチャー主義】【ロンドン同時多発テロ】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアからみた「ネイション」と「エスニシティ」：学説史の整理【ナショナリズム】
- 9回 インドネシア(1)：「多様性の中の統一」からこぼれ落ちる人々【華人】
- 10回 インドネシア(2)：「統一が分離独立か」の二者択一を超えて【アチェ】【災害】
【イスラム教】
- 11回 ベトナム：ナショナリズムの輝きと黄昏【ベトナム戦争】【難民】【ドイモイ】
- 12回 マレーシア(1)：半島部における「民族の政治」【プミブトラ】【バンサ・マレーシア】
- 13回 マレーシア(2)：サバにおける民族の生成【ボルネオ】【選挙】
- 14回 東南アジアの事例のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 1回 「開発と統治」をはじめにあたって | 担当：三宅 |
| 2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 | 担当：伊野 |
| 3回 民主化問題を考える視座(2) | 担当：伊野 |
| 4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって【ミャンマー】 | 担当：伊野 |
| 5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 【援助】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動【バングラデシュ】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 7回 途上国と一村一品運動【一村一品運動】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化【グラミン銀行】 | 担当：チョウドリ・三宅 |
| 9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動 【韓国】 | 担当：申 |
| 10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策 【環境政策】 | 担当：申 |
| 11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス 【米国】 | 担当：申 |
| 12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 | 担当：三宅 |
| 13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 | 担当：三宅 |
| 14回 もっと詳しく聴きたいアンコールアワー | 担当：指名教員 |
| 15回 まとめ | 担当：三宅 |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % 試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)○長志珠絵『近代日本と国語ナシヨナリズム』(吉川弘文館)○鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 ガイダンス②「日本」という枠組み
 - 3回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 4回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 5回 県名を読む③戊辰戦争
 - 6回 『国語元年』を読む(ビデオ)①文部省説諭
 - 7回 『国語元年』を読む(ビデオ)②統一話し言葉
 - 8回 『国語元年』を読む(ビデオ)③山の手言葉
 - 9回 『国語元年』を読む(ビデオ)④「日本語」から「【国語】」へ
 - 10回 『ラスト・サムライ』を読む
 - 11回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 12回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合は筆記試験100%、受講生100名以下の場合は授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツアメリカ、スペイン、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【移民問題】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：テパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

重信 幸彦 / 基盤教育センター, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノと人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考資料等は、プリントにして授業中に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一部 内燃機関の近代 (重信)

- 1、自動車と出会った「明治ニッポン」【内国勲業博覧会】 / 2、内燃機関と身体【職人】
- 3、自動車とカタストロフィ【交通事故】【交通法規】

第二部 都市と自動車 (重信)

- 4、フォードVSシボレー【都市化】 / 5、「円タク」とモダン都市【タクシー】
- 6、加速化と均質化【身体】【時間】 / 7、自動車と都市の政治【交通統制】

第三部 フォーディズムの時代 (中野)

- 8、ヘンリー・フォードとアメリカ【フォード】 / 9、フォード・システムと大衆社会【フォーディズム】 / 10、ポスト・フォーディズムへ

第四部 「家庭」と自動車 (重信)

- 11、「家庭」という価値と自動車【新中間層】【中流幻想】 / 12、マイホームとマイカー【高度成長期】 / 13自動車というメディア【メディア】 / 14自動車と人間 / 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M.ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 解子 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○		

授業の概要 /Course Description

人はそれぞれの価値観で都市をとらえ評価します。多くの場合、自分の関心領域以外にはあまり目を向けません。しかし、これからの“住みよい”都市づくりには総合的な視点がますます必要です。本講義では、都市間比較の方法をとりながら、多面的に都市をとらえ評価する視点や、都市を知るために役立つ情報活用のあり方などについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

指定しません（資料を配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北九州都市協会『住みよい都市・全国主要都市の比較調査』共同通信社（2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）

- 第1回 講義の概説 【評価指標】
- 第2回 都市間比較I 【自然】
- 第3回 都市間比較II 【居住】
- 第4回 都市間比較III 【経済】
- 第5回 都市間比較IV 【インフラ】
- 第6回 都市間比較V 【文化・教育】
- 第7回 都市間比較VI 【健康・安全】
- 第8回 都市間比較VII 【都市イメージ】
- 第9回 都市間比較VII 【総合評価】
- 第10回 「住みよい都市」の検証I【事例研究】
- 第11回 「住みよい都市」の検証II【事例研究】
- 第12回 「住みよい都市」の検証III【事例研究】
- 第13回 「住みよい都市」の検証IV【事例研究】
- 第14回 予備日
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30% 学期末のレポート... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありませんが、講義を進めるなかで、「あなた方はどう思う？」という問いかけをしたいと思います。積極的な発言を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ | 【ボックス・モンゴリカ】 |
| 2回 中世ヨーロッパの世界観 | 【プレスター・ジョン】 |
| 3回 イベリア諸国の形成 | 【レコンキスタ】 |
| 4回 「中世の危機」とポルトガル | 【アヴィス朝革命】 |
| 5回 大航海時代と「世界分割」 | 【トルデシリャス条約】 |
| 6回 ポルトガルのアジア進出 | 【アルブケルケ】 |
| 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① | 【点と線の支配】 |
| 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② | 【南蛮貿易】 |
| 9回 スペインによる植民地帝国の形成① | 【エンコミエンダ制】 |
| 10回 スペインによる植民地帝国の形成② | 【ポトシ】 |
| 11回 オランダ、イギリスの台頭 | 【東インド会社】 |
| 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 | 【三角貿易】 |
| 13回 環大西洋世界の展開① | 【環大西洋革命】 |
| 14回 環大西洋世界の展開② | 【産業革命】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|--------------|---|------------------------|
| 第1回 | 憲法の意義 | - | 【国家権力の授権と制限】 |
| 第2回 | 憲法の展開 | - | 【近代から現代、そして未来へ】 |
| 第3回 | 人権総論 | - | 【自由の保障と制約】 |
| 第4回 | 人権各論①（幸福追求権） | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 人権各論②（平等原則） | - | 【人種・性と平等】 |
| 第6回 | 人権各論③（信教の自由） | - | 【信教の自由と政教分離】 |
| 第7回 | 人権各論④（表現の自由） | - | 【プライバシー・名誉・性表現】 |
| 第8回 | 国民主権論 | - | 【国民主権の意義】 |
| 第9回 | 日本の政治制度 | - | 【議院内閣制の本質】 |
| 第10回 | 平和主義論① | - | 【憲法9条の制定・意義】 |
| 第11回 | 平和主義論② | - | 【平和主義の現実と未来】 |
| 第12回 | 平和主義論③ | - | 【憲法9条と裁判所】 |
| 第13回 | 日本憲法史 | - | 【大日本帝国憲法と日本国憲法】 |
| 第14回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況に関して概説する |
| 第15回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況について概説する |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておくとう受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。

講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成を行います。本講義の目的は、文字、静止画、図形、音声、映像、動画などを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。
講義全体のキーワードは、HTML、プレゼンテーション、マルチメディアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習 1
- 7回 グループ作業によるWebページ作成実習 2
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表 1
- 14回 グループによる発表 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% (HTMLによるWebページ... 45%、プレゼンテーション... 45%)、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとうまく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。「データ処理」で学習した表計算の柔軟で高度な利用を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムについての理解を深めます。使用する言語は、VBA (Visual Basic for Application) です。この言語は、Excelに備わっており、Excelが利用できる環境であれば、VBAが利用できます。
講義全体のキーワードは、Excel、VBA、プログラミングです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Excel VBAの文字が入った書籍が各社から多く出版されています。この中の入門編や基礎編が参考になります。例：「10日でおぼえるExcel VBA入門教室」、瀬戸遥、翔泳社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 VBA、マクロ、プログラミングについて【VBA】
- 2回 マクロ記録でマクロを作成【マクロ】、【処理の自動化】
- 3回 VBAの基本構文【プロシジャ】、【オブジェクト】
- 4回 Visual Basic Editorの利用【ヘルプ】、【デバッグ】
- 5回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 6回 フローチャート1【構造化プログラミング】
- 7回 フローチャート2
- 8回 ブックとシートとセルの操作1【BOOK】、【SHEET】、【セル】
- 9回 ブックとシートとセルの操作2
- 10回 入力支援【入力画面】、【データ参照】
- 11回 制御構造【if文】
- 12回 制御構造【for文】
- 13回 制御構造【while文】
- 14回 制御構造【select文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に通講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておくとお講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

宮崎充保(他)『Intensive Training for the TOEIC Test』 成美堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Preliminary Lesson
- 3回 Part 1 対策
- 4回 Part 2 対策
- 5回 Part 2 対策
- 6回 Part 3 対策
- 7回 Part 3 対策
- 8回 Part 4 対策
- 9回 Part 4 対策
- 10回 Part 5 対策
- 11回 Part 5 対策
- 12回 Part 6 対策
- 13回 Part 7 対策
- 14回 Part 7 対策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...50% 期末試験...50%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、指定された箇所の予習をして授業に出席すること。基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するテストとしてのTOEICの重要性は近年ますます高まってきている。TOEIC受験を奨励する企業も多く、就職対策としてスコア向上は急務である。そこで授業ではTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い(目標500点)、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また1学期は、Reader Explorer 1という写真や図表が効果的に用いられているテキストを使い、世界の異なる文化に触れ、興味深いトピックを発見しながら、特にリーディングの強化をはかる。

教科書 /Textbooks

『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』(Conquering the TOEIC Test)
著者：河原真也・野上良子
発行所：朝日出版社 (ISBN978-4-255-15458-9)
Reading Explorer 1
発行所：センテージ ラーニングELT(ISBN978-1-4240-0637-3)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Ch.1 【写真描写問題】	Reading Explorer Unit 1: Amazing Animals
2回	TOEIC Ch.2 【応答問題】	R E Unit 2: Travel and Adventure
3回	TOEIC Ch.3 【会話問題】	R E Unit 3: Music and Festivals
4回	TOEIC Ch.4 【説明文問題】	R E Review 1
5回	TOEIC 【Practice for Listening Parts】	R E Unit 4: Other Worlds
6回	TOEIC Ch.5 【短文穴埋め問題】	R E Unit 5: City Living
7回	TOEIC Ch.6 【長文穴埋め問題】	R E Unit 6: Clothing and Fashion
8回	TOEIC Ch.7 【読解問題】	R E Review 2
9回	TOEIC 【Practice for Reading Parts】	R E Unit 7: Dinosaurs Come Alive
10回	TOEIC Ch.8 【Mini Test 1】	R E Unit 8: Stories and Storytellers
11回	TOEIC Ch.9 【Mini Test 2】	RE Unit 9: Tough Jobs
12回	TOEIC Ch.10 【Mini Test 3】	R E Review 3
13回	TOEIC Ch.11 【Mini Test 4】	R E Unit 10: Pyramid Builders
14回	TOEIC Ch.12 【Mini Test 5】	R E Unit 11: Legends of the Sea
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
Practical Tips for the TOEIC Test 杉田麻哉 他 著 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Getting Ready for a Business Trip/Chapter 1
- 3回 Departure/Chapter2
- 4回 On a Plane/Chapter3
- 5回 Arrival/Chapter4
- 6回 Meeting People/Chapter5
- 7回 Mini-test 1/Chapter6
- 8回 Making an Appointment/Chapter7
- 9回 At a Hotel/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Visiting a Company/Chapter9
- 12回 Small Talk (1)/Chapter10
- 13回 Negotiation/Chapter11
- 14回 Mini-Test 2/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 The course will focus on ways of helping students improve their confidence and skills with general English. One of the key aims is to help students improve their performance in general proficiency tests such as the TOEIC test. Each class will include segments for homework review, vocabulary consolidation and test preparation strategies.

教科書 /Textbooks
 To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and goal setting
- 2 回 Mini test for listening and review
- 3 回 Mini test for reading and review
- 4 回 Core Unit 1 Focus on questions # 1
- 5 回 Core Unit 2 Focus on dialogues #1
- 6 回 Core Unit 3 Focus on monologues #1
- 7 回 Core Unit 4 Grammar workshop
- 8 回 Mid- semester review
- 9 回 Core Unit 5 Introduction to tests other than TOEIC
- 1 0 回 Core Unit 6 Using the web for independent study
- 1 1 回 Core Unit 7 Focus on questions #2
- 1 2 回 Core Unit 8 Focus on dialogs #2
- 1 3 回 Core Unit 9 Focus on monologs #2
- 1 4 回 End-of-semester review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method
 Attendance 25% Task completion 40% Listening and Reading Tests 35%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 Students will be expected to follow the study plan we will design in the goal setting session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ①“Word Master Approach for the TOEIC Test” <Word Book> Published by Seibido
- ②“The Heinle Picture Dictionary English/日本語”, Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続きTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また文学部比較文化学科における授業ということを考え、2学期は Discover Great Britain and Ireland というイギリスに焦点を当てたテキストを用いる。England, Wales, Scotland, Ireland それぞれの土地にまつわる興味深いエピソードを読みながら、建築、音楽、文学、演劇、食生活などへの関心を深め、リーディングの強化をはかりたい。

教科書 /Textbooks

Power Charge for the TOEIC Test
著者：Harumi Nishida 他
発行所：金星堂 (ISBN978-4-7647-3874-4)
Discover Great Britain and Ireland
著者：Scott Berlin, Chisako Nakayama
発行所：金星堂 (ISBN978-4-7647-3864-5)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Unit 1 【文の構造】	Discover Ch.1 【Introduction】
2回	TOEIC Unit 2 【名詞I: 名詞・代名詞】	Discover Ch.2 【London I】
3回	TOEIC Unit 3 【名詞II: 可算/不可算名詞】	Discover Ch.3 【London II】
4回	TOEIC Unit 4 【形容詞・副詞】	Discover Ch.4 【Wales】
5回	TOEIC Unit 5 【動詞・助動詞】	Discover Ch.5 【A Special Bridge】
6回	TOEIC Unit 6 【時制】	Discover Ch.6 【Accommodations】
7回	TOEIC Unit 7 【イディオムI】	Discover Ch.7 【Making Cheese】
8回	TOEIC Unit 8 【一致】	Discover Ch.8 【Ancient Stones】
9回	TOEIC Unit 9 【分詞・動名詞・不定詞】	Discover Ch.9 【Still More To See】
10回	TOEIC Unit 10 【関係詞】	Discover Ch.10 【Scotland】
11回	TOEIC Unit 11 【接続詞・前置詞】	Discover Ch.11 【Kilts & Tartans】
12回	TOEIC Unit 12 【特殊構文】	Discover Ch.12 【Bagpipes & Whiskey】
13回	TOEIC Unit 13 【比較】	Discover Ch.13 【Ireland】
14回	TOEIC Unit 14 【仮定法】	Discover Ch.14 【The “Star” Of Ireland】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
TOEIC Test: On Target <Book1> 大賀リ工 他 著 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Sickness and Injury/Chapter 1
- 3 回 Transportation/Chapter2
- 4 回 Presentation/Chapter3
- 5 回 Trouble/Chapter4
- 6 回 Small Talk 2/Chapter5
- 7 回 Mini-test 3/Chapter6
- 8 回 At a Restaurant/Chapter7
- 9 回 Making a Complaint/Chapter8
- 1 0 回 TOEIC 模擬テスト
- 1 1 回 Shopping/Chapter9
- 1 2 回 Sightseeing/Chapter10
- 1 3 回 Returning Home/Chapter11
- 1 4 回 Mini-Test 4/Chapter12
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 比1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh'questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 比 1 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Would you like beef or fish?
- 第3回 Can I have your passport, please?
- 第4回 Do you have any vacancies?
- 第5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第7回 Do you mind if I watch TV?
- 第8回 How do you feel?
- 第9回 Are you free this weekend?
- 第10回 Are you ready to order?
- 第11回 My father works in a bank.
- 第12回 Out and About 2: Eating Out
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439 円 (当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Identity
- 3 回 Identity
- 4 回 Values
- 5 回 Values
- 6 回 Culture Shock
- 7 回 Culture Shock
- 8 回 Culture in Language
- 9 回 Culture in Language
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Group Work: Discussion Skills
- 1 3 回 Body Language and Customs
- 1 4 回 Body Language and Customs (make-up class)
- 1 5 回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because'; Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6回 Giving compliments & replying to compliments
- 7回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses/ Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/pastmodals
- 10回 Getting people's attention and interrupting/ Eighth oral presentations/ listening test
- 11回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by/ Writing: paragraph---a country you know
- 12回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/ relative clauses
- 13回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14回 "Explaining "things Japanese"+ Getting information & Controlling the conversation
- 15回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語IV class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 比 1 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course objectives and a progress review
- 第2回 What's your favourite food?
- 第3回 What would you like to drink?
- 第4回 I won't be home for lunch today.
- 第5回 Could you tell me when we'll there please?
- 第6回 How would you like to pay?
- 第7回 Out and About 3: Getting around
- 第8回 Can I send this airmail?
- 第9回 What time does the show start?
- 第10回 Where did you lose did?
- 第11回 Goodbye and thanks!
- 第12回 How many bags do you have?
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 比 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439 円 (当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Individualism
- 3 回 Individualism
- 4 回 Politeness
- 5 回 Politeness
- 6 回 Communication Styles
- 7 回 Communication Styles
- 8 回 Gender and Culture
- 9 回 Gender and Culture
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Group Work: Discussion Skills
- 1 3 回 Diversity
- 1 4 回 Diversity
- 1 5 回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス 比 /Class: 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

Target on the TOEIC Test Starter 水本篤 著 (金星堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Daily Life [品詞 1 品詞の違い]
- 3回 Unit 2 Shopping [品詞 2 接頭辞・接尾辞]
- 4回 Unit 3 Restaurant [品詞 3 数量の表し方]
- 5回 Unit 4 Travel [主語と動詞の一致]
- 6回 Unit 5 People and Professions [動詞の形 1 時制・活用形]
- 7回 Unit 6 Office [動詞の形 2 自動詞・他動詞]
- 8回 Unit 7 Recruitment [動詞の形 3 不定詞・動名詞]
- 9回 Unit 8 Manufacturing [代名詞]
- 10回 Unit 9 Marketing [前置詞]
- 11回 Unit 10 Business Finance and Economy [接続詞 1 相関接続詞]
- 13回 Unit 11 Weather Forecast [接続詞 2 前置詞と接続詞の違い]
- 12回 Unit 12 Government and Other Organizations [関係詞 1 関係代名詞]
- 14回 Unit 13 Social and Environmental Issues [関係詞 2 関係副詞, その他]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 比2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : 時事英語を読み、世界情勢を知ると共にReadingのスピードアップをめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : "Practical Tips for the TOEIC Test"成美堂
Reading : "The Half-Edition of English through the News Media 2010" 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリントによるListening演習
- 2回 授業前半 : TOEIC : Chapter1から順次進める。
授業後半 : Unit 1 から順次進める。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態
/Class Format

クラス 比2 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of TOEIC skills, with particular emphasis on Listening and Reading.

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test: Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Pre-test
- 3 回 Units 1,2,&5.
- 4 回 Units 3,&6.
- 5 回 Units 4,&7.
- 6 回 Units 8,9&12.
- 7 回 Units 10,&13.
- 8 回 Units 11,&14.
- 9 回 Units 15,16,&19.
- 1 0 回 Units 17,&20.
- 1 1 回 Units 18,&21.
- 1 2 回 Units 22,23,&26.
- 1 3 回 Units 24,&27.
- 1 4 回 Units 25,&28
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : 時事英語を読み、世界情勢を知ると共にReadingのスピードアップをめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : "Practical Tips for the TOEIC Test"成美堂
Reading : "The Half-Edition of English through the News Media 2010" 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期同様、
授業前半 : TOEIC : 1学期の続きから(予定 : Chapter 7)順次進める。
授業後半 : Reading : 1学期の続きから(予定 : Chapter 7)順次進める。
- 2回
3回
4回
5回
6回
7回
8回
9回
10回
11回
12回
13回
14回
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 比2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation format
- 2 回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation matter
- 3 回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact
- 4 回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation
- 5 回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;
- 6 回 Second speech presentation/ student evaluation and questions
- 7 回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and clustering; listening for stress; present perfect verb form;
- 8 回 Third speech presentation/ student evaluation and questions
- 9 回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions & connectors; talking about process; strong adjectives
- 1 0 回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 1 回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; informing; intonation for listing; past progressive verb form; Fifth speech presentation
- 1 2 回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions; talking about current events; simple connectors
- 1 3 回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 4 回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structures for cause and effect
- 1 5 回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 比2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students` English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : "TOEIC Test : To the Point"南雲堂
Reading : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリントによるListening演習
- 2回 授業前半 : TOEIC : Lesson1から順次進める。
授業後半 : Reading : Unit 1 から順次進める。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義・演習 /Lecture・Workshop クラス /Class 比2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Comparative culture speech presentations (from summer homework)/Video feedback
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 0 回 Unit 13: "Lies and Statistics..."; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 1 1 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 2 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 1 3 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 4 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 1 5 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Deeper Understanding Framework を使い、各テーマの意義の深いところまで理解でき、的確な表現で自分の進路に合った英語プレゼンテーションが出来るようになる。プレゼンテーション内容の多くは学生が自ら責任を持って決めることになる。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels, Fun Flavor, Book 1
Optimal Levels PROJECT BOOK

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - Getting to know you.
- 2 回 Chapter 1. Movies: Introduction
- 3 回 Chapter 1. Movies: Building your understanding
- 4 回 Chapter 1. Movies: Presentation preparation
- 5 回 Chapter 1. Movies: Presentation day
- 6 回 Chapter 2. Travel: Introduction
- 7 回 Chapter 2. Travel: Building your understanding
- 8 回 Chapter 2. Travel: Presentation preparation
- 9 回 Chapter 2. Travel: Presentation day
- 1 0 回 Chapter 3. Shopping!: Introduction
- 1 1 回 Chapter 3. Shopping!: Building your understanding
- 1 2 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation preparation
- 1 3 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation day
- 1 4 回 Semester review
- 1 5 回 Semester review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション ... 60% 試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 クラス 比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to provide students with opportunities to activate their knowledge and improve their confidence and ability to use everyday English in a variety of situations. In addition to using the core text, students will be expected to participate in activities such as discussing daily events, task solving, role-play, presentations and semi-formal discussions. They will work alone, in pairs and in groups. The focus will be on speaking and listening, however students will also be required to complete several written reports on class activities and discussions.

教科書 /Textbooks

To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Goal Setting
- 2 回 Unit 1, Conversation Strategies
- 3 回 Unit 2, Individual differences in communication styles
- 4 回 Discussion round #1, Ambiguity and Certainty
- 5 回 Unit 3, Short Presentation Topics Part A
- 6 回 Review of Units 1 to 3
- 7 回 Unit 4, Independent Study Skills,
- 8 回 Discussion round # 2, Opinions
- 9 回 Unit 5 Short Presentations Part B
- 1 0 回 Unit 6, Story Telling Experiences through narrative
- 1 1 回 Unit 7, Sharing experience through conversation
- 1 2 回 Discussion round # 3
- 1 3 回 Unit 8, Speculation about future events
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%, Scheduled tasks 30%, Mini-test and folio 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to prepare in advance for scheduled activities.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format
クラス 比人3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to provide students with opportunities to activate their knowledge and improve their confidence and ability to use everyday English in a variety of situations. In addition to using the core text, students will be expected to participate in activities such as discussing daily events, task solving, role-play, presentations and semi-formal discussions. They will work alone, in pairs and in groups. The focus will be on speaking and listening, however students will also be required to complete several written reports on class activities and discussions.

教科書 /Textbooks

To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Goal Setting
- 2 回 Unit 1, Conversation Strategies
- 3 回 Unit 2, Notes on Public Speaking
- 4 回 Discussion round #1
- 5 回 Unit 3, Short Presentation Topics Part A
- 6 回 Review of Units 1 to 3
- 7 回 Unit 4, Independent Study Skills
- 8 回 Discussion round # 2
- 9 回 Unit 5 Short Presentations Part B
- 1 0 回 Unit 6, Story Telling Experiences through narrative
- 1 1 回 Unit 7, Sharing experience through conversation
- 1 2 回 Discussion round # 3
- 1 3 回 Unit 8, Speculation about future events
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%, Scheduled tasks 30%, Mini-test and folio 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to prepare in advance for scheduled activities.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗読テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 暁芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 暁芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず一年次に学んだ文法事項を再確認し定着をはかる。次に長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【状態補語】【結果補語】【方向補語】【動量】【時量】【把構文】【被構文】等
- 2回 文法確認
- 3回 文法確認
- 4回 文法確認
- 5回 第1課 上有天堂【蘇州と杭州】【累加】【使役】【仮定】【条件】【並列】
- 6回 第1課 上有天堂、練習問題
- 7回 第2課 長寿面【誕生日】【把構文】【条件】【並列】【継起】
- 8回 第2課 長寿面、練習問題
- 9回 第3課 七夕【累加】【補語】【被構文】【仮定】【因果】
- 10回 第3課 七夕、練習問題
- 11回 第4課 春節晚会【正月】【条件】【継起】
- 12回 第4課 春節晚会、練習問題
- 13回 第5課 国球【卓球】【因果】【前置詞】【状態の持続】
- 14回 第5課 国球、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

長文読解する中で、より複雑な表現ができるよう、中級レベルの語彙力と文法及び自然な言い回しを身につけていく。同時に中国の風俗習慣や様々な局面についての理解を深めていく。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、中国への理解である。

教科書 /Textbooks

山下輝彦・蘇英霞著『中国を語る～文化と生活～』金星堂（2008年1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 高考【大学受験】【数字】【比較の表現】【逆接】【少しも~ない】【条件】
- 2回 第6課 高考
- 3回 第6課 高考、練習問題
- 4回 第7課 北京的“的哥”【タクシー運転手】【比較の表現】【条件】【慣用表現】
- 5回 第7課 北京的“的哥”
- 6回 第7課 北京的“的哥”、練習問題
- 7回 第8課 海帰【海外からの帰国者】【因果】【目的】【条件】【比較の表現】
- 8回 第8課 海帰
- 9回 第8課 海帰、練習問題
- 10回 第9課 跳槽【転職】【比較選択】【慣用表現】
- 11回 第9課 跳槽
- 12回 第9課 跳槽、練習問題
- 13回 第10課 独生子女【一人っ子政策】【条件】【常用表現】
- 14回 第10課 独生子女、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 第1課 長城【動詞+“過”】【好像】【逆接複文】【算】
- 2回 発表
- 3回 第2課 故宮【従】【如果】【動詞+着】
- 4回 発表
- 5回 第3課 敦煌莫高窟【連～都】【終于】【為了】
- 6回 発表
- 7回 第4課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑【被】【総】【由于】【只】
- 8回 発表
- 9回 第5課 黄山【以～為】【除了】【因為】【用】
- 10回 第6課 九寨溝【必須】【尽管～但是...】【不光】
- 11回 発表
- 12回 第7課 孔廟、孔府、孔林【而且】【可以】【使役表現】
- 13回 第8課 ポタラ宮【～的】【～才】【比較表現の“跟”】
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、中国語の中級会話を学習する。特にコミュニケーションの能力を養成することを主眼とするので、授業においては実際使える会話の練習を重視したい。生きた中国語の勉強によって、中国語の読解力及び会話力を高めると共に、現代中国の世相についての理解をも深めていきたい。

教科書 /Textbooks

兵頭和美など著『中国世界遺産めぐり』白帝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 第9課 峨眉山と泰山大仏【相当于】【按照】
 - 2回 発表
 - 3回 第10課 麗江【一～就...】【像～一様】
 - 4回 発表
 - 5回 第11課 蘇州の古典的園林【正如】【和～一様】【就是說】
 - 6回 発表
 - 7回 第12課 天壇公園【曾經】【即使】【属于】
 - 8回 発表
 - 9回 第13課 頤和園【使～】【通過】【怎麼】
 - 10回 発表
 - 11回 第14課 龍門石窟【值得】【对】
 - 12回 発表
 - 13回 第15課 雲崗石窟【可能補語】【不管】【正是】
 - 14回 発表
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(出席を含む)...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおりのり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 吉祥紅III
- 第4回 作文練習
- 第5回 淮揚菜I
- 第6回 淮揚菜II
- 第7回 淮揚菜III
- 第8回 紹興与酒I
- 第9回 紹興与酒II
- 第10回 紹興与酒III
- 第11回 作文練習
- 第12回 第一家電視台I
- 第13回 第一家電視台II
- 第14回 朗読練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおりのり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 八達嶺I
- 第2回 八達嶺II
- 第3回 八達嶺III
- 第4回 作文練習
- 第5回 潮州功夫茶I
- 第6回 潮州功夫茶II
- 第7回 潮州功夫茶III
- 第8回 作文練習
- 第9回 漢字簡化方案I
- 第10回 漢字簡化方案II
- 第11回 朗読練習
- 第12回 天壇説九I
- 第13回 天壇説九II
- 第14回 天壇説九III
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社 (2007年5月) 1,890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
 - 2回 面接、【動詞と時量】
 - 3回 電話を掛ける【呼び方】
 - 4回 復習、中間小テスト
 - 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
 - 6回 約束【全面否定・肯定】
 - 7回 復習、中間小テスト
 - 8回 空港への出迎え【願望】
 - 9回 食事に招待する【比況表現】
 - 10回 復習、中間小テスト
 - 11回 町を見物する【軽量表現】
 - 12回 空港見送り【仮定表現】
 - 13回 ホテルの予約【起点、終点】
 - 14回 総合復習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30% 中間小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社 (2007年5月) 1,890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
 - 2回 税関で【結果補語1】
 - 3回 タクシーに乗る【距離表現】
 - 4回 復習、中間小テスト
 - 5回 チェックイン【受身主語文】
 - 6回 道をたずねる【連鎖表現】
 - 7回 復習、中間小テスト
 - 8回 両替【等分表現】
 - 9回 レストランで食事する【結果補語2】
 - 10回 復習、中間小テスト
 - 11回 サンプルを送る【比較表現】
 - 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
 - 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
 - 14回 総合復習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30% 中間小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス 比 /Class: 比1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 比1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主としてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

比文1年生はこの講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目標とする。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(1)
- 3回 空港に出迎え【再会のあいさつ】(2)
- 4回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(1)
- 5回 部屋探し【状況をより詳しく説明する】(2)
- 6回 自己紹介【自分について語る】(1)
- 7回 自己紹介【自分について語る】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(1)
- 10回 友たちの家で【目上の人への話し方】【尊敬の表現】(2)
- 11回 帰り道【様子から推測、判断する】(1)
- 12回 帰り道【様子から推測、判断する】(2)
- 13回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(1)
- 14回 百日記念日【素直な気持ちを表明する】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの文型を無理なく駆使できるようになることを目指す。日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『もっとチャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(1)
- 3回 引越しパーティーの日【注意や指示をする】(2)
- 4回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(1)
- 5回 汽車に乗ってお出かけ【やりもらいの表現】(2)
- 6回 村の風景【説明や描写】(1)
- 7回 村の風景【説明や描写】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(1)
- 10回 友たちを訪ねて【忠告やアドバイス】(2)
- 11回 診察を受ける【許可と禁止】(1)
- 12回 診察を受ける【許可と禁止】(2)
- 13回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(1)
- 14回 悲しみよ、さようなら【コミュニケーションの幅を広げる】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】
- 3回 何を食べましょうか【提案と勧誘の表現】
- 4回 何を食べましょうか【意志の表現】
- 5回 電話番号を教えてください【電話に関する表現】
- 6回 電話番号を教えてください【理由の表現】
- 7回 電話番号を教えてください【可能、不可能の用言】
- 8回 趣味は何ですか【趣味に関する表現】
- 9回 趣味は何ですか【仮定形の表現】
- 10回 趣味は何ですか【連体形の表現】
- 11回 韓国ドラマ
- 12回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】
- 13回 仁寺洞にはどのように行きますか【意図、助言の表現】
- 14回 仁寺洞にはどのように行きますか【意志、約束の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

李昌圭 『韓国語を学ぼう 中級』朝日出版社 (2007年4月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 風邪は治りましたか【病気に関する表現】
- 3回 風邪は治りましたか【前置きの表現】
- 4回 風邪は治りましたか【禁止、可能の表現】
- 5回 連休には何をするつもりですか【予定の表現】
- 6回 連休には何をするつもりですか【譲歩、同時進行の表現】
- 7回 雨がたくさん降っているようです【推測に関する表現】
- 8回 雨がたくさん降っているようです【引用・伝聞の表現】
- 9回 雨がたくさん降っているようです【意向を尋ねる表現】
- 10回 韓国ドラマ
- 11回 焼肉を作ることができますか【方法、可能の表現】
- 12回 焼肉を作ることができますか【経験の有無の表現】
- 13回 このズボン、着てみてもいいですか【当然・義務の表現】
- 14回 このズボン、着てみてもいいですか【状態、許容の表現】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 発表・課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。
必ず辞書をもって出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。
必ず辞書をもって出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級で学習してきたことをリスニングを通してさらに自信と実践力をつける。実生活での様々な場面に簡単に応用できるよう、比較的平易なものを使用する予定である。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語の第一歩 リスニング』（企画：韓国・国立国語院・韓国語世界化財団、三修社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介
- 3回 レベルテスト
- 4回 位置【物の場所を理解する】
- 5回 時間【日常の行動をリスニングして理解する】
- 6回 買い物【品物を買う】
- 7回 食べ物【食べ物に関する表現を聞き取り、理解する】
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 週末【週末の活動に関する議論を理解する】
- 10回 家族【家族の紹介をリスニングして理解する】
- 11回 約束【約束、約束のキャンセルをリスニングして理解する】
- 12回 道を尋ねる【公共の場所を見つける】【説明を聞く】
- 13回 電話【電話番号を調べる】【電話に応え、メッセージを受け取る】
- 14回 交通【目的地への道順を理解する】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級で学習してきたことをリスニングを通してさらに自信と実践力をつける。実生活での様々な場面に簡単に応用できるよう、比較的平易なものを使用する予定である。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語の第一歩 リスニング』（企画：韓国・国立国語院・韓国語世界化財団、三修社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 天気【天気と日常生活に関する情報を得る】
- 3回 趣味【趣味に関する話し合いを理解する】
- 4回 旅行【お勤めの旅行先の情報を得る】
- 5回 遺失物を探す【形や色の説明を理解する】
- 6回 病気【症状を説明する】【助けを求める】
- 7回 家【家についての説明をリスニングする】
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 衣服【人を認識する】
- 10回 公演【公演や展示会の情報を得る】【チケットの予約とキャンセル】
- 11回 調理の仕方【料理の作り方をリスニングして理解する】【料理の作り方を説明する】
- 12回 自由会話
- 13回 発表
- 14回 発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済営比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済誉比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 済営比人 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 済営比人1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済誉比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VIII 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ語表現の基礎の習得

教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」 (関口一郎、白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ語の綴りと発音
- 2回 コミュニケーションの第一歩
- 3回 ドイツ語での自己紹介
- 4回 ホテルに泊まる
- 5回 名詞の「性」と冠詞
- 6回 ミュンヘンの名所へ行く
- 7回 知人を訪ねる
- 8回 友達同士の話し方
- 9回 買い物をする
- 10回 分離動詞の使い方
- 11回 列車に乗る
- 12回 前置詞の使い方
- 13回 大学での1日
- 14回 助動詞の使い方1
- 15回 助動詞の使い方2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ語Ⅲの続き・ドイツ語表現の基礎の習得

教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」 (関口 一郎、白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 形容詞の使い方
- 2回 色の表現
- 3回 過去表現は現在完了形で
- 4回 昨日何をしましたか?
- 5回 過去形
- 6回 ドイツの歴史を過去形で説明
- 7回 再帰動詞と再帰代名詞
- 8回 1日の行動を再帰動詞で表現
- 9回 副文と接続詞
- 10回 関係代名詞
- 11回 関係代名詞を使った表現
- 12回 接続法の種類
- 13回 接続法第二式
- 14回 非現実話法の練習
- 15回 全体の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス 比 1年 /Class							
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏検3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞(1)
- 3回 中性代名詞(2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致(1)
- 10回 時制の一致(2)
- 11回 前置詞と接続詞(時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞(場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞(論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第一言語・母語として、中国語に次ぎ世界第2の話者人口を持つスペイン語の学習を通して、言葉とその文化(圏)を少しでも理解するのがねらいです。*我が国ではスペイン語は普通、西語、と表記されます。

教科書 /Textbooks

青木・辻・マリア J. H. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典または電子辞書必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のアルファベット・発音
- 2回 発音・アクセント
- 3回 名詞の性と数・冠詞
- 4回 主格人称代名詞・動詞について
- 5回 直説法現在規則活用
- 6回 基本的な文章(肯定・否定・疑問)
- 7回 疑問詞(QUE・QUIEN・DONDE)・国々とその言語
- 8回 不規則活用(主要三動詞、SER・ESTAR・HABER)
- 9回 形容詞の性・数と主要三動詞例文
- 10回 疑問詞(COMO)・指示詞・所有形容詞
- 11回 他の不規則動詞
- 12回 不定詞の用法
- 13回 不規則動詞例文
- 14回 代名詞(与格・対格・前置詞格)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

西語の発音は、日本語を母語とする者にとっては、非常に容易です。逆に、文法や動詞の活用は、難解で複雑です。特に、初歩段階が肝腎です。欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

西語 I を継続し、ほぼ初級の文法を終えます。

教科書 /Textbooks

西語 I と同じ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不定過去・不完了過去・現在完了(規則活用)
- 2回 動詞の意味上の分類
- 3回 不定語と例文
- 4回 天候・季節の表現と例文
- 5回 不定過去・不完了過去(不規則活用)
- 6回 現在分詞と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節と例文
- 8回 未来・条件未来・過去完了の活用と用法
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞と用法
- 12回 接続法現在の活用
- 13回 比較級と最上級
- 14回 接続法(過去・現在完了・過去完了)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

西語 I 同様、欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直説法未来の活用と用法
- 2回 直説法条件未来の活用と用法
- 3回 直説法過去完了の活用と用法
- 4回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 5回 再帰動詞とは?
- 6回 再帰動詞の用法
- 7回 接続法とは何か
- 8回 接続法現在の活用
- 9回 接続法現在の用法
- 10回 命令形と命令法
- 11回 感嘆文
- 12回 比較級と最上級
- 13回 SEの受身と無人称のSE
- 14回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主にスペインの歴史を織り込んだ中級程度の文章を読んで行きます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の講読部分。（持っていない人にはプリントを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの6課以降の講読・説明
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 直説法点過去(1)
- 3回 直説法点過去(2)
- 4回 直説法点過去(3)
- 5回 直説法線過去
- 6回 直説法点過去と直説法線過去、その用例
- 7回 現在分詞
- 8回 直説法未来
- 9回 直説法過去未来
- 10回 直説法過去完了
- 11回 接続法(1)
- 12回 命令形
- 13回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 14回 DVD教材(会話を聞き取る)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008) また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 接続法(2)
- 3回 関係詞
- 4回 DVDなどで会話練習
- 5回 会話練習
- 6回 接続法現在完了・過去・過去完了
- 7回 接続法まとめ
- 8回 受身文、感嘆文
- 9回 短編教材(DVDなど)と聞き取り
- 10回 短編教材(ラジオ、CDなど)と聞き取り
- 11回 短編教材(DVDなど)と会話練習
- 12回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 平常点 ... 40% (出席 ... 30%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間)で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウオッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較宗教・思想【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アイヌなどの縄文信仰と【神道】、インド・中国・朝鮮半島を経て我が国に渡来した【仏教】、神道と融合した神仏習合、中国の【儒教】と【道教】、西洋に目を向ければ、前2000年頃からのギリシャとローマでのアポロ神など神々への信仰がある一方、中東ではベルシャヤやユダヤの宗教であるゾロアスター教や【ユダヤ教】の一神教があった。ユダヤ教はイエスによって【キリスト教】へと発展して、紀元4世紀にローマ帝国が国教として以降、西洋で勢力をもった。さらに、紀元6世紀にムハンマドが誕生し、【イスラム教】を布教するようになると、イスラム教は中東のみならず世界的な宗教へと発展した。

教科書 /Textbooks

テキスト 『資料』は作成した「プリント教材」を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(参考書) ウィリアム・M・ギャロット : 『新約聖書』 (角川文庫)
加地伸行 : 『儒教とは何か』 (中公新書)
小杉 泰 : 『イスラームとは何か』 (講談社現代新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日米宗教比較--「日本人は無宗教か? 信仰心が篤いのか!」
- 第2回 中東の宗教思想--ユダヤ教とキリスト教【一神教】
- 第3回 ユダヤ・キリスト教と西洋民主主義思想【民主主義と人権思想】
- 第4回 仏教誕生前夜【キリスト教と古代インド宗教哲学(ウパニシャッド)】
- 第5回 仏教伝来【インドの仏教⇒中国の仏教⇒日本への仏教伝来】
- 第6回 仏教【日本における展開(神道との衝突・習合)】
- 第7回 縄文人の古代信仰【アニミズムとシャーマニズム】
- 第8回 神道の形成【禊ぎと祓え】
- 第9回 アイヌや沖縄などの縄文信仰+弥生信仰⇒神道成立⇒明治期の復古神道
- 第10回 イスラム教【ムハンマド誕生】
- 第11回 イスラム教【ユダヤ教とキリスト教】
- 第12回 儒教【孔子誕生】
- 第13回 儒教【古い価値感からの脱皮】
- 第14回 儒教【現代的意味】
- 第15回 比較宗教・思想 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小レポート(70%)と期末試験(全体のレポート、30%)によって評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較歴史・文化【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀から20世紀にかけて、大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の抗議行動をとりあげ、なぜ人々は「抗議」という行動を選んだのかを、様々な角度から考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
- 2回 【制裁の儀礼】とコミュニティ①：近代イギリスにおける女房売りの事例。
- 3回 【制裁の儀礼】とコミュニティ②：近代イギリスにおけるスキントンの事例。
- 4回 【制裁の儀礼】とコミュニティ③：近代アメリカ合衆国における魔女狩りの事例。
- 5回 【制裁の儀礼】とコミュニティ④：現代アメリカ合衆国における魔女狩りの事例。
- 6回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑥：【モラル・エコノミー】とは何か。
- 7回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑦：近代イギリスにおける【食糧一揆】の事例。
- 8回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑧：近代イギリスにおける【法の代執行】の意味。
- 9回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑨：現代アメリカ合衆国における【食糧暴動】の事例。
- 10回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑩：現代アメリカ合衆国における【法の代執行】の意味。
- 11回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑪：2～11回の授業の小括。
- 12回 【労働争議】とコミュニティ①：アメリカ合衆国における【労働運動】の事例。
- 13回 【労働争議】とコミュニティ②：アメリカ合衆国における【反貧困】の取り組み
- 14回 【労働争議】とコミュニティ③：1960年代アメリカ合衆国における鉱山労働者の事例。
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介した参考文献等を積極的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近代文学を、明治以降の各時代における表現を比較しながら、文学というものについて理解を深める。従来の文学への接し方とは違う方法を提示し、文学というものが様々なアプロ一チ、楽しみ方のあることを伝えていく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配布するプリントにおいて、必要なものは指示し、必要な部分をコピーしてプリントを作成、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本文学に描かれた橋について、その概観を述べる
- 2回 明治時代の橋① 樋口一葉「にごりえ」
- 3回 明治時代の橋② 泉鏡花の文学における橋
- 4回 明治時代の橋③ 夏目漱石の描く橋
- 5回 明治時代の橋④ 森鷗外の描く橋
- 6回 大正時代の橋① 佐藤春夫の見た橋
- 7回 大正時代の橋② 有島武郎の書いた橋
- 8回 大正時代の橋③ 志賀直哉の橋
- 9回 昭和時代の橋① 川端康成の橋
- 10回 昭和時代の橋② 永井荷風「遷東綺譚」の橋
- 11回 昭和時代の橋③ 太宰治の橋
- 12回 昭和時代の橋④ 火野葦平の橋
- 13回 平成時代の橋① 石田衣良の橋
- 14回 平成時代の橋② 鷺沢萌の橋
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト80% 平常点20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる作品をできるだけ事前に読んでおくように

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較民族学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義且つ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、現物を直に見てもらうことで学生諸君に判断を委ねたい。ここで言う「現物」とは世界各地の音楽PVである。これらのPVを「Hip-hopの感染力」・「アイドルの普遍性」・「Rockの浸透力」のコンセプトのもとに特集して鑑賞するが、その目的は「グローバル化」の実態への理解を深めることである。このPVの上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回はジェンダーに関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュディス・バトラー 1999年 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』(竹村和子 訳) 青土社.
Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
Marilyn Strathern 1988 The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press
Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回~3回 象徴論からみた文化の概念の解説とジェンダーの概念の解説【シンボル】【ジェンダー】
 - 4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ・DVD【女子割礼】【伝統】
 - 5回~7回 ジェンダー パート1:ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって【バックラッシュ】【家長制】
 - 8回 グローバル化を考える1:ヒップホップの感染力【政教分離】
 - 9回~11回 ジェンダー パート2:脱エスノセントリズムの試み-ポスト構造主義フェミニズムとポストコロニアル・フェミニズム【生物学的基盤主義】【身体】【社会構築主義】
 - 12回 グローバル化を考える2:世界のアイドル【美の基準】
 - 13回~14回 ジェンダー パート3:民族誌を読む。マダガスカルとタイの民族誌を予定。【パフォーマティブ】【反相対主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数(95%)。出席(5%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較表象文化 【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発話の重層性① 落語 (1) 【ひとり語り】
 - 第3回 発話の重層性② 落語 (2) 【言葉と身体】
 - 第4回 発話の重層性② 文楽【多声性】【語り物】
 - 第5回 発話の重層性③ 漫才【ダイアログ】【宗教性】
 - 第6回 発話の重層性④ 紙芝居【大道】【教育】
 - 第7回 ジャンルの連鎖①浪花節 (1) 【物語の構造】
 - 第8回 ジャンルの連鎖②浪花節 (2) 【盛衰】【メディア】
 - 第9回 声のメディア性②ニュースとは何か【日常会話化】【アナウンス】
 - 第10回 声のメディア性①深夜放送【若者文化】
 - 第11回 声のメディア性③ラジオ深夜便 (1) 【高齢者文化】
 - 第12回 声のメディア性④ラジオ深夜便 (2) 【記憶】【共感】
 - 第13回 交差するジェンダー②【声優】【語り物】【JPOP】
 - 第14回 補論 身体の現前性 見せ物・サーカス【現前性】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (コメントカード、小テスト、課題、授業態度など) ...約 30% 学期末レポート約 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

題材たる映像として、本講義では、誰もが見じみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせで、編集した映画の一場面を鑑賞しつつ行いたい。この形で比較という作業を行なうことによって、今まで見えていなかった、どのような、文化の一面が明らかになるのかを確かめたい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを実感してもらいたい。アメリカと日本、アメリカとイギリスの文化の違いに関する理解も深めたい

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメ等の資料を配布する。参考図書も、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明、参考図書の紹介
- 2回 アメリカ版ゴジラ(1988年)と、日本版ゴジラ(1954年)を比較1
- 3回 アメリカ版ゴジラ(1988年)と、日本版ゴジラ(1954年)を比較2
- 4回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているか1
- 5回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているか2
- 6回 『宇宙戦争』と『インデペンデンス・デイ』を比較1
- 7回 『宇宙戦争』と『インデペンデンス・デイ』を比較2
- 8回 上記二作品の映画製作者の意図を分析1
- 9回 上記二作品の映画製作者の意図を分析2
- 10回 『ロード・オブ・ザ・リング』の映画版と原作との比較
- 11回 上記によって明らかになる、映画製作者の意図について
- 12回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーの活躍の度合いの違い
- 13回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーのキャラクターの違い
- 14回 以上によって明らかになる、英米の文化の違い
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
自筆ノート持込可(ただし、コピーノートは不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の前に指定した映画を可能な限り見ておくようにしてください。
講義中には、重要な場面を断片的にのみ見ることになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会意識 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の思考の多くの部分が言語によって支配されていることから分かるように、個人的なもののように見える、人間の意識も実は集会的なものである。本講義においては、特に現代社会における意識、特に「個人主義」の様々な有り様についての議論を取り扱う。

教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円
J・リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版会（1999年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 【意識】とは何か
 - 2回 【イデオロギー】とは何か
 - 3回 現象学は意識をどう捉えてきたか
 - 4回 構成主義、【構築主義】の社会学は意識をどう捉えてきたのか
 - 5回 【近代化】と意識1（ウェーバーとデュルケム）
 - 6回 近代化と意識2（ウェーバー、）
 - 7回 【個人主義化】と意識1（フロム、リースマン、ベラー論）
 - 8回 【ポストモダン】化と意識（ポストモダニズム論）
 - 9回 日本人と意識の歴史1（戦後～70年代）
 - 10回 日本人と意識の歴史2（70年代以降）
 - 11回 【消費社会化】と意識1
 - 12回 消費社会化と意識2
 - 13回 メディアの変容と意識1
 - 14回 メディアの変容と意識2
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期に文化社会学の授業を受けていると理解がより深まる（必須ではないが）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会文化 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の前半においては現代文化の特徴についての諸理論を解説し、後半はその応用領域として観光文化について講義をする。本講義では文化を、「真/偽」「美/酬」「善/悪」等の基準はカッコに入れ、それらの基準を成り立たせているメカニズムとして分析的に考える。

教科書 /Textbooks

特になし (レジユメ資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版 (2008年5月) 2500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 【文化】とは何か (【イメージ】の生産とイメージの解釈・消費のしくみについて)
 - 2回 【近代化】と文化1 (M・ウェーバーの近代化論を中心に)
 - 3回 儀礼と世俗化 (V・ターナーの通過儀礼論、PLバーガーの世俗化論を中心に)
 - 4回 【マクドナルド化】マクドナルド化と消費社会化 (イメージの生産とイメージの消費について)
 - 5回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化1 建築、絵画
 - 6回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化2 映画
 - 7回 【観光】とは何か (近・現代社会と場所の消費としての観光について)
 - 8回 ホストの文化とゲストの文化 (湯布院の観光文化、門司港の観光文化を中心に)
 - 9回 日常世界の観光化と観光の日常化 (テーマパークとモールについて)
 - 10回 観光とメディア (ハワイの観光化過程を中心に)
 - 11回 観光とアイデンティティの政治学
 - 12回 グローバリゼーションと文化
 - 13回 観光と文化のグローバリゼーション
 - 14回 ティズニー化と観光文化
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 40% 試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

7回以降では、指定されたテキストを読むことを前提に授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学概論 (近現代) 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近現代文学の散文・韻文の特徴について、表現・形式・内容およびメディアとの関係を中心に概説する。作品を自身で読解し、その解釈を他者へ伝えるための、基本的な研究の態度を身につける。具体的な作品にふれつつ、日本近現代文学を学ぶための入門となることを目指す。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○各種日本文学史。他は授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学という制度-芸術・美術・文学-
- 第2回 表現論① 文学の文体
- 第3回 表現論② 文学とメディア
- 第4回 小説論① 主人公と語り手I 三人称小説
- 第5回 小説論② 主人公と語り手II 一人称小説
- 第6回 小説論③ 構成とは何かI ストーリーとプロット
- 第7回 小説論④ 構成とは何かII 時間
- 第8回 小説論⑤ 構成とは何かIII 空間
- 第9回 小説論⑥ 描写とは何かI 自然と風景
- 第10回 小説論⑦ 描写とは何かII 人事
- 第11回 韻文論① 詩のかたち
- 第12回 韻文論② 詩のことはI 感覚
- 第13回 韻文論③ 詩のことはII 思想
- 第14回 読者論と読書論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点・・・20% 期末試験・・・80%
ただし、欠席が全体の三分の一を超えた場合は「不可」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

近代文学史上の主たる作品を読むことをこころがけること(とくに国語科教員を目指す者)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侑『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書) 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (近現代) 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の明治以降の日本近代文学について、従来の近代文学史を基礎としながらも「私」「われわれ」「風俗」の観点から新たな文学史の可能性を探る。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配布するプリントにおいて、必要なものは指示し、必要な部分をコピーしてプリントを作成、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 従来の近代文学史の概観
- 2回 日本の近代文学の発祥 近代文学の理論 坪内逍遙 二葉亭四迷
- 3回 「私」を巡る問題① 森鷗外 樋口一葉
- 4回 「私」を巡る問題② 夏目漱石 志賀直哉 芥川龍之介
- 5回 「私」を巡る問題③ 堀辰雄 中島敦
- 6回 「私」を巡る問題④ 宮本輝 村上春樹
- 7回 「私」を巡る問題⑤ 鷲沢筋
- 8回 「われわれ」という発想① 小林多喜二「蟹工船」
- 9回 「われわれ」という発想② 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」
- 10回 「われわれ」という発想③ 中野重治「鉄の話」
- 11回 風俗を描く① 古き良き東京を舞台として 永井荷風 谷崎潤一郎
- 12回 風俗を描く② 川端康成「浅草紅団」 梶井基次郎「檸檬」
浅草、京都といった都市を描くことの意味
- 13回 風俗を描く③ 松本清張「点と線」「時間の習俗」 戦後という時代風景
- 14回 風俗を描く④ 池袋という「都市」を描く 石田衣良
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト80% 平常点20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『孫子』は、いわゆる「兵法書」の最高傑作とされるが、その内容は、単なる戦略・戦術論にとどまるものではなく、そこには古代中国の深い叡智が含まれている。その影響は、中国や日本はもとより、今や欧米を含む全世界に及んでいると言ってもよい。この講義では、『孫子』というテキストそのものを読み解くと共に、これまでこの書物がどのように読まれ、歴史や文化にどのような影響を与えてきたかについても学ぶことによって、『孫子』の世界の奥深さを窺うよすがとしたい。

教科書 /Textbooks

金谷治『新訂 孫子』（岩波文庫、岩波書店、2000年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに【孫子】
- 2回 二人の「孫子」と時代背景 【孫武】【孫ビン】【銀雀山竹簡】
- 3回 『孫子』の思想①【兵とは国の大事なり】
- 4回 『孫子』の思想②【国を全うするを上と為す】
- 5回 『孫子』の思想③【兵の形は水に象る】
- 6回 『孫子』の思想④【敵の情を知る】
- 7回 『孫子』と諸子百家①【老子】
- 8回 『孫子』と諸子百家②【莊子】
- 9回 『孫子』と他の兵法書①【武経七書】
- 10回 『孫子』と他の兵法書②【武経七書】
- 11回 『孫子』と曹操【魏武注孫子】
- 12回 『孫子』はどう読まれてきたか
- 13回 日本人と『孫子』①【山鹿素行】
- 14回 日本人と『孫子』②【荻生徂徠】
- 15回 現代と『孫子』

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中のレポートなど)... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの解説文や、授業で配布するレジюмеなどに、目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリス文学の流れを追いつつ、具体的な作品の内容にまで踏み込むことで、文学の面白さを皆さんと共有します。イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、更に具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。伝統あるイギリス文学の作品を文化事項と絡めながら見ていき、その面白さを共に味わえればと思います。また同時に本講義においては、人間に関する様々なテーマについて問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 導入(文学の勤め、【文学の面白さ】、イギリスについて、評価方法などの説明)
 - 2回 『ベオウルフ』(古英語) 【想像力】と文学、頭韻など
 - 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
 - 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
 - 5回 『失楽園』by ミルトン 宗教の影響
 - 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
 - 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
 - 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
 - 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
 - 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (【風刺文学】)
 - 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング
 - 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
 - 13回 ロレンス、オブライエン(問題小説)
 - 14回 ドラブル、イングリッド(伝統回帰)
 - 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 【詩】→【劇】→【小説】、宗教との関連)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)...90%、平常点(課題、授業への参加度等)...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通して下さい。本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んで下さい。イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 60% 課題 : 0% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの生活文化【夜】

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀から現代までのアメリカ合衆国での一般大衆の生活を、生産・消費、政治、経済、治安、福祉などの多角的な視点から考察する。また、そうしたアメリカ合衆国の生活文化・様式が広く現代世界に及ぼしている影響についても考察する。

講義ごとに、生活文化と深く関わる文学作品・映像などについても折に触れて考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 19世紀アメリカの農業と農村の暮らし:【市場革命】【西部開拓】【大草原の小さな家】
- 4回 - 6回 大衆消費社会の到来【アメリカ的生活水準】【生活資金】【金ぴか時代】
- 7回 - 9回 20世紀初頭の大都市の暮らし【ボス政治】【革新主義】【ジャングル】
- 10回 - 12回 恐慌の嵐の中で。【住宅ローンと投機】【怒りのブドウ】【ブリキの太鼓】
【ニューディール】
- 13回 1950年代から60年代アメリカの生活【アメリカ的生活】【郊外化】【反共主義】
- 14回 現代アメリカの生活習慣【ビタミン熱】【マクドナルド化】【禁煙運動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テストを含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典といわれる作品が、現在もなお読み継がれ、映画化されて脚光を浴びている。その理由は、時代を超えて高く評価される価値があるのみならず、今を生きる私たちだからこそできる「新しい読み」が開かれているからである。
本講義では、イギリスの18-19世紀文学から、受講生にも比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。作品への理解を深めるために、作家の人となり、作品成立時の時代背景や文化的背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

日本イギリス文学・文化研究所編『イギリス文学ガイド』荒地出版社
* 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講すること。
授業中に随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ダニエル・デフォー (5 2)
- 第3回 ジョナサン・スウィフト (5 8)
- 第4回 ジェイン・オースティン (6 6)
- 第5回 ウィリアム・ワーズワス (7 2)
- 第6回 チャールズ・ディケンズ (8 8)
- 第7回 シャーロット・ブロンテ (9 8)
- 第8回 エミリー・ブロンテ (10 4)
- 第9回 ジョージ・エリオット (11 2)
- 第10回 トマス・ハーディ (11 8)
- 第11回 ルイス・キャロル (13 0)
- 第12回 ジョージ・マクドナルド (14 2)
- 第13回 コナン・ドイル (14 8)
- 第14回 オスカー・ワイルド (15 4)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 20% 小テストと提出物... 20% 定期試験の成績で総合的に評価する... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 毎回、指定されたテキストの箇所を読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化論【夜】

担当者名 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特に中心とするテキストはないが、必要に応じてプリント資料を用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員が、各テーマ毎に参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その1) ジェンダーとセクシュアリティ
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 2回 映画『キンキーブーツ』を題材にジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その2) ファッション
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 3回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その3) 経済
- 4回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その1) カトリックと中世
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 5回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その2) プロテスタントと資本主義
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 6回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その3) エスニックマイノリティとイスラム教
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 7回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その1) 階級
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 8回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その2) 労働者と言語
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 9回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その3) 石炭経済
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 10回 イギリスの王室とメディアについて考える。
【王室】【大衆】【新聞】【テレビ】
- 11回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その1) ロンドンオリンピック、ロンドン万博
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 12回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その2) デパート、ロンドン動物園、キューガーデン、図鑑
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 13回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その1) エスニシティ
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 14回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その2) ホモソーシャルボンド
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業コメント含む)... 25% 課題... 0-25% 期末試験... 50-75%

イギリス文化論 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

K. Takami(1992)等。講義中に別途指示、またはプリントを配布する。
『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語音声学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生(5世紀)から近世(16世紀)に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる(1)語彙の豊富さ(2)語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達史の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観(1)【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観(2)【ケルト人】
- 5回 印欧祖語(1)【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語(2)【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字(1)【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字(2)【古英語】
- 9回 海賊と英語(1)【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語(2)【借用語】
- 11回 海賊と英語(3)【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語(1)【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語(2)【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語(3)【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法I【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to'and'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/
'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because';
Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation,
prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using
if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/
past modals
- 10 回 Getting people's attention and interrupting/Eighth oral presentations/
listening test
- 11 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 12 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/ relative clauses
- 13 回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling
the conversation
- 15 回; Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語IV class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation	format
2回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation	matter
3回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact	
4回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation	
5回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;	
6回 Second speech presentation/ student evaluation and questions	
7回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and	clustering; listening for stress; present perfect verb form;
8回 Third speech presentation/ student evaluation and questions	
9回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions &	connectors;talking about process; strong adjectives
10回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions	
11回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; form; Fifth speech presentation	informing;intonation for listing; past progressive verb
12回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions;	talking about current events; simple connectors
13回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions	
14回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structuresfor cause and effect	
15回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback	

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Comparative culture speech presentations (from summer homework)/Video feedback
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 0 回 Unit 13: "Lies and Statistics..."; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 1 1 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 2 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 1 3 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 4 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 1 5 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 2: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Comparing activities. Regional Foods. Traditional Dishes.
- 3 回 Food Through History. Video Journal: Forbidden Fruit.
- 4 回 Intercultural Communication. Making Small Talk.
- 5 回 Breaking the Ice. Video Journal: Orangutan Language
- 6 回 Describing Cities. Explaining a good neighborhood.
- 7 回 Action Plans. Megacities.
- 8 回 Video Journal: Fes. Health Issues.
- 9 回 Discussing Lifestyles. Natural Remedies.
- 10 回 Germs and the Human Body. Video Journal: The Human Body.
- 11 回 Facing Challenges. Past Accomplishments.
- 12 回 Talk about abilities. Describe a Personal Challenge.
- 13 回 Video Journal: The Megatransect Project. Milestones in Our Life.
- 14 回 Ideal Age. Getting more information.
- 15 回 Describing Important Transitions. Video Journal: Nubian Wedding.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class focuses on the four skills of English speaking, listening, reading and writing. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 2: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Source of Luxury Items. Discussing Needs and Wants.
- 2 回 Improving People's Lives. Creating Desire Through Advertising.
- 3 回 Video Journal: Coober Pedy Opals. Conditionals and Real Situations.
- 4 回 Discussing Possible Future Situations. Describing Animal Actions.
- 5 回 Giving an Opinion. Video Journal: Happy Elephants.
- 6 回 Discussing Life in the Past. Daily Lives of Grandparents.
- 7 回 Comparing Past and Present. Considering Impact of Past Events.
- 8 回 Video Journal: Columbus and the New World. Preparing for a Trip.
- 9 回 Variety of Vacations. English at the Airport
- 10 回 Pros and Cons of Tourism. Video Journal: Adventure Capital of the World.
- 11 回 Career Choices. Job-related Questions.
- 12 回 Career Planning. Identifying Career Qualifications.
- 13 回 Video Journal: Trinidad Bird Man. Describing a Festival.
- 14 回 Holidays in Different Countries. Personal Celebrations.
- 15 回 Sharing Holiday Traditions. Video Journal: Young Riders of Mongolia.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ社会の特質や、アメリカ人の美意識や価値観やアメリカ文化の特質について論じた英文を購読することにより、アメリカ社会・文化の独自性や特質に対する理解を深める。精読や多読を織り交ぜて英文を読むことによって、英語の読解力を向上させる。

教科書 /Textbooks

英文のプリントを適宜、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本語文献のコピーを適宜、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明。
- 2回 アメリカ人の個人主義に関する英文の購読
- 3回 アメリカ人の平等主義に関する英文の購読
- 4回 アメリカ人の時間に対する感覚に関する英文の購読
- 5回 アメリカ人の社交に対する見方に関する英文の購読
- 6回 アメリカ人の未来観に関する英文の購読
- 7回 アメリカ人の善悪の観念に関する英文の購読
- 8回 アメリカ人の自己主張に関する英文の購読
- 9回 アメリカ人の物質主義に関する英文の購読
- 10回 アメリカ人の論考の仕方に関する英文の購読
- 11回 アメリカ人のコミュニケーションに関する英文の購読
- 12回 アメリカのテレビ文化に関する英文の購読I
- 13回 アメリカのテレビ文化に関する英文の購読II
- 14回 アメリカのスポーツ文化に関する英文の購読
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、発表状況...30%、試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって、次回、購読する箇所を指定しておくので、前もって購読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当スケジュールの作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合います。同時に、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。1学期には、扱いたいテーマ、作品を英米文学、英米文化の中から選び、決定し、各自、毎回課題を決め、それをこなしていくことで、約6000字の原稿を作成することを目指します。この学期は、自分の課題を発表し、他者の課題の発表を聞き、意見交換をすることで広い視野をもち、2学期に備える、卒論作成の予備段階です。(授業全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介。各自のテーマや扱う作家、作品を決定します。
- 2回 メンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表し、意見交換をします。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 7回 卒論の題目の決定します。
- 8回 前々回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 9回 各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ、決定します。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論をします。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 14回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 15回 6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分が扱いたい卒論のテーマを温めておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当予定表の作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業への意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合います。同時に、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。2学期は1学期の作業を通じて作成した原稿をお互いに読み合い、詳細に至るまでコメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の原稿をより完成度の高い卒論に上げていきます。(講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認
- 2回 第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 第6発表者のプレゼンと議論。
- 8回 論文の書き方指導。
- 9回 第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 13回 第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 14回 第6発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 4年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 1 (日本) 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と1クラス10名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野(文学、芸術、宗教、歴史等)に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。
 クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を3冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較文化学科への招待 佐藤 真人
- 2回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3回 講義 1
- 4回 講義 2
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 3
- 7回 講義 4
- 8回 講義 5
- 9回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10回 講義 6
- 11回 講義 7
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 2 (欧米) 【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化概論 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

稲作、米と魚の食生活、日本語、神社や神祭りなどを古代に形成された文化はその後の日本文化の基盤をなしている。そもそも文化の特色・独自性というものは、決して本来的に固有なものではなく、外来文化の受容・選択・消化・変容によって形作られてきたものである。しかも外来文化といっても決して「大陸文化」とひとくくりに語れるような一様なものではない。時代としては古代に焦点を当てて講義を進めていくが、日本文化を考えていく上での基本的視点を身につけてもらうことがねらいである。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐原真『魏志倭人伝の考古学』（岩波現代文庫）
 鯖田豊之『肉食の思想』（中公文庫）
 嶋田義仁『稲作文化の世界観』（平凡社）
 吉田孝『日本の誕生』（岩波新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文化と文明 【文化】【文明】
- 3回 文化の受容と変容 【クリスマス】【復活祭】【来訪神】
- 4回 日本文化の重層構造
- 5回 縄文時代 狩猟採集の文化 【狩猟採集文化】
- 6回 弥生時代 稲作文化の普及 【稲作文化】
- 7回 卑弥呼の時代の文化 倭人と国家形成 【卑弥呼】【邪馬台国】
- 8回 騎馬民族征服王朝説をめぐって 【騎馬民族】【古墳】
- 9回 牧畜文化と日本 【牧畜文化】
- 10回 ヨーロッパ文化と日本文化 農業の形態をめぐって 【天水農業】【灌漑農業】
- 11回 渡来人と日本文化 【渡来人】【秦氏】
- 12回 隋唐文化の受容 【遣唐使】【仏教】【道教】
- 13回 国風文化について 【仮名文字】【神国思想】【女流文学】
- 14回 日本の古代文化と中世～近代
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で示した参考図書を、出来る限り自分で読み進めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

欧米文化概論 【夜】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米文化（欧米文化）を理解するのに、避けては通れない「三種の神器」があります。「キリスト教」、「ギリシア神話」、そして「マザーグース（あるいは伝承童謡、わらべ唄）」の3つです。これらは英米（欧米）の様々な文化現象（新聞、雑誌、映画、文学、歌などなど）の中に、誰もが知っていて当然のこととして内在していることがよくあります。幼い頃から日々の生活の中にこれら「三種の神器」がしみ込んでいる英（欧）米の文化を本当の意味で理解するのは、これらになじみのない我々日本人にとっては甚だ厄介なことです。そこで本講義ではこれら3つに焦点を当て、その間隙を少しでも埋めることで、異文化理解の礎を築きます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要な資料は毎回授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ウィリアム・M・ギャロット（西南学院理事長）監修『新約聖書』（角川文庫）、トマス・ブルフィンチ『「完訳 ギリシア・ローマ神話(上・下)』(角川文庫)、○オウイディウス『変身物語』（岩波文庫）、The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ユダヤ・キリスト教（旧約聖書の世界）と欧米文化序論【ユダヤ教】【一神教】
- 2回 ユダヤ・キリスト教（イエス・キリスト誕生）と欧米文化【神人・イエス・キリスト】
- 3回 キリスト教（宗教改革と大航海時代）のグローバル化【キリスト教の世界化】【植民地化】
- 4回 キリスト教（民主主義と人権思想）【ローマ法王・一極支配】⇒【王権支配・多極化】
- 5回 キリスト教と欧米文化の諸問題【グローバル化】と【文化的諸問題】
- 6回 ギリシアの神々の系譜
- 7回 文学、芸術の中のギリシア神話(1)
- 8回 文学、芸術の中のギリシア神話(2)
- 9回 トロイ戦争と「イーリアス」
- 10回 トロイ戦争と「オデュッセイア」
- 11回 Mother Goose の成り立ちと概略
- 12回 Let's play with Mother Goose (1) Humpty Dumpty 他
- 13回 Let's play with Mother Goose (2) Mary Had a Little Lamb 他
- 14回 Mother Goose の影響（『不思議の国のアリス』や萩尾望都などへの影響）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（25%）、レポート（25%）、期末試験（50%）で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布される資料には、よく目を通しておいください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化交流史【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 「文化」と「交流」の意味を考える
2. 「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
3. 歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
4. 「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
5. 味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田憲太郎『香料の歴史』(紀伊国屋新書)○白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』(中公新書)○W・シヴェルブシュ『楽園・味覚・理性』(法政大学出版局)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス 【社会革命】とは
 - 2回 事例としての「ルネサンスの三大発明」
 - 3回 【香料革命】①香料とは
 - 4回 【香料革命】②中国の【香料革命】
 - 5回 【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
 - 6回 17世紀オランダ絵画に見る食文化
 - 7回 大航海時代
 - 8回 【香料革命】と【銀革命】
 - 9回 大航海時代と【鉄砲革命】①南蛮貿易
 - 10回 大航海時代と【鉄砲革命】②鉄砲伝来
 - 11回 大航海時代と【鉄砲革命】③火薬の製法
 - 12回 ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒーとチョコレート
 - 13回 ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレートとキリスト教
 - 14回 ヨーロッパの【嗜好品革命】③チョコレートの大衆化
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法C【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

外国語教育における主要な方法論について概観し、具体的な教室のなかでの作業に置き換えることを念頭に置き、検討する。

教科書 /Textbooks

下記の文献から抜粋したプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』 (金星堂) 望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 (大修館書店) 田崎 (編集) 『現代英語教授法総覧』 (大修館書店) 片山、末畑、他 (編注) Readings on Teaching English as a Foreign Language (大修館書店) 「中学校学習指導要領：外国語(英語)」
「高等学校学習指導要領：外国語(英語)」 『英語教育学概論』 附属ビデオ (金星堂) 『公開授業 教育実習生』 (ジャパンライム)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TESLとTEFLの概念
- 第2回 中学校学習指導要領の解説と解説
- 第3回 高等学校学習指導要領の解説と解説
- 第4回 The Grammar-Translation Method、
- 第5回 Cognitive Code Learning
- 第6回 The Direct Method、
- 第7回 The Oral Method
- 第8回 The Audio-Lingual Methodの理論的側面
- 第9回 The Audio-Lingual Methodのこれまでの方法論との差異
- 第10回 CCL, CA,(Communicative Language Teaching)のA-LMとの差異
- 第11回 The Audio-Lingual Methodの訓練法の実践的側面
- 第12回 CLL, の訓練法の実践的側面
- 第13回 CLTの訓練法の実践的側面
- 第14回 方法論の変遷のまとめ
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

教育現場で多用されているAudio-Lingual Method、CAの諸手法を中心に、授業展開のあり方を学び、その手法を取得する。

教科書 /Textbooks

下記の文献からの抜粋プリント配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』(金星堂)、望月編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店)望月・山田 編著『私の英語授業』(大修館書店)、
E.W.Stevick “Teaching Languages A Way and Ways”(Newbury House)、
「中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領：外国語(英語)」 『英語教育学概論』付属ビデオ(金星堂) 『授業の構成と進め方 中学校の部』-授業編、解説編『(JAPAN LAIM)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 テキスト教材配列について
- 第3回 教材研究(副教材の作成など)
- 第4回 インプット重視の指導、アウトプット重視の指導
- 第5回 タスク活動と文法指導
- 第6回 教案の作成と授業の展開の把握
- 第7回 評価(テスト、絶対評価)
- 第8回 ALTとの活動、および国際理解教育
- 第9回 中学校教育指導作成の指導
- 第10回 提出用の教育指導作成の指導
- 第11回 模擬授業(中学：1、2年)
- 第12回 模擬授業(中学：2年、3年)
- 第13回 模擬授業(高校：1年、2年)
- 第14回 模擬授業(高校：2年、3年)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動(模擬授業を含む)30%、課題(教案を含む)20%、期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法C【夜】

担当者名 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

「国語」として、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Cでは、自己に「きき」、他者に「きき」、児童・生徒に「問う」ことを通し、自己変革を保障する教育力を、獲得する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに高等学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 なぜ【「きく」】なのか。
- 第2回 「きく」は、何を創造するのか。
- 第3回 ことばにとり、「沈黙」とは何か。
- 第4回 「表現」と「理解」は、通底する。
- 第5回 一語の価値を「きき」分ける。
- 第6回 「きい」たものを、つなぐ。
- 第7回 「国語」にとり「学力」とは何か。
- 第8回 【「主題意識」】を確認し合う。
- 第9回 「教材」を、透視し開発する。
- 第10回 分からないからこそ、「問う」。
- 第11回 「問い」に体系をつける。
- 第12回 【「評価」】は、「評定」とは違う。
- 第13回 学習者に「きく」。
- 第14回 「生活語」の沃野に「ききひたる」
- 第15回 まとめ こんな指導者になりたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつづき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修後は「国語科教育法D」を受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法D 【夜】

担当者名 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○			

授業の概要 /Course Description

「国語」にとって、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Dでは、「教材」を自在に開発し、学習指導目標を明確にした上、授業構想を確立する力を、模擬授業により錬磨する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに高等学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 【「学習指導要領」とは、何か。
- 第2回 「教科書」「で」指導する。
- 第3回 教材透視・教材開発・授業構想。
- 第4回 模擬授業(1) 【学習指導目標】
- 第5回 模擬授業(2) 焦点化
- 第6回 模擬授業(3) 独自の価値
- 第7回 模擬授業(4) 「問う」
- 第8回 模擬授業(5) 一歩先へ
- 第9回 模擬授業(6) 【集団思考】
- 第10回 模擬授業(7) 評言
- 第11回 模擬授業(8) 【単元学習】
- 第12回 模擬授業(9) 評価のことば
- 第13回 模擬授業(10) 学習指導目標改革
- 第14回 【授業計画】の再構築
- 第15回 まとめ 指導者への決意

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつついき、総合「評価」をする。
演習内容・・・80% 平常点・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国語科教育法C」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族と教育（1） 【家族の諸形態・機能】
- 3回 家族と教育（2） 【家族の変容】 【子どもの社会化の課題】
- 4回 学校と教育（1） 【学校・教室空間と教育過程】
- 5回 学校と教育（2） 【教師文化と生徒文化の生成・葛藤】
- 6回 学校と教育（3） 【若者と職業をめぐる課題】
- 7回 社会と教育（1） 【地域と学校の歴史】
- 8回 社会と教育（2） 【「地域の教育力」をめぐる課題】
- 9回 社会と教育（3） 【生涯学習社会における学び】
- 10回 現代社会と青少年（1） 【友人関係における葛藤】
- 11回 現代社会と青少年（2） 【高度消費社会に生きる若者】
- 12回 現代社会と青少年（3） 【新たなメディアのなかの関係】
- 13回 教育問題（1） 【少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育問題（2） 【教育における格差】
- 15回 まとめ

(※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書道【夜】

担当者名 /Instructor 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校国語科書写の教育内容を正しく理解し、指導に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

全国大学書写書道教育学会編 『明解 書写指導』 萱原書房 平成21年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」国語科編 文部省、その他(プリント配布)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講基礎調査I・II、筆順について
- 第 2 回 書写・書道教育史、用具用材と基本用筆①
- 第 3 回 学習指導要領(国語科書写)、基本用筆の習得②
- 第 4 回 基本用筆の習得③・④
- 第 5 回 楷書の学習と許容体
- 第 6 回 行書の成立、行書の学習①、
- 第 7 回 授業研究①、行書の学習②
- 第 8 回 授業研究②、行書の学習③、
- 第 9 回 授業研究③、行書の学習④
- 第 10 回 授業研究④、行書の学習⑤
- 第 11 回 授業研究⑤、生活の中の書①(細字)
- 第 12 回 授業研究⑥、生活の中の書②(細字)
- 第 13 回 授業研究⑦、仮名の歴史、基礎的な仮名の書き方
- 第 14 回 授業研究⑧、書体の変遷
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...50%(課題I...25% 課題II...25%) レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限られた時間の中での活動となりますので、特に毛筆の技術面において、授業時に習得できなかった場合は、自宅にて復習することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：ことばの不思議
- 第2回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第3回 連濁
- 第4回 鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 数量詞
- 第11回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第12回 日本語と英語の受動態
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業中の態度...10% 課題...25% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 問題提起、戦争の定義の難しさ
- 5回～6回 平和の定義、積極平和論
- 7回～8回 絶対平和主義(非暴力主義として)
- 9回～10回 絶対平和主義(反戦主義、日本の平和主義)
- 11回～13回 正戦論の登場
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的な視点からとらえながら、日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【共同体感覚】
 - 3回 ストレスマネジメントとは。ストレスの概念を知る。【ストレスコーピング】
 - 4回 自分のストレスに気づく 【セルフカウンセリング】
 - 5回 ストレス対処法を習得する【心理療法】
 - 6回から11回 心の健康法とその主要理論 【積極的傾聴】
 リラクゼーションの視点から ・ 認知療法的視点から
 遊び・アートの視点から ・ 対人関係の視点から
 - 12回から13回 発達障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の運用について。青年期の発達課題の視点から。【同一性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 出席...40% 受講の姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【エリクソンの発達理論】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー】
 - 13回～14回 ライフプランについて(仕事と遊びの心理学)。生活分析カウンセリング
キャリアプラン 【自然】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 授業の出席...40% 授業参加の態度・姿勢...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2)(ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(ルールを変えたスポーツ)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(ストレッチ、頭とからだの体操)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然科学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【夜】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシシン.....史上最強の毒物【ダイオキシシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狹間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
 1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきた。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
 授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
 ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代史の通史的な理解を前提に、私たちの日常生活の歴史を、「都市と農村」という問題系から検討することを目的とする。特に資本主義の仕組みが日常生活を取り込み、消費中心の都市生活が進展する一方で、農村の衰微が問題になった1930年代の日本を舞台に講義する。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 「東京が攻めてくる」 【郊外化】
- 第一部 「モダン都市」という暮らし
- 2回 1、第三の空間・「街頭」という生活空間 【盛り場】
- 3回 2、「モボ」と「モガ」という仮面 【銀座】 【新宿】
- 4回 3、「スピード」という価値 【自動車】 【内燃機関】
- 5回 4、「見る」ことと欲望 【博覧会】 【勤工場】
- 6回 5、新たな欲望の装置：デパート 【陳列販売】 【百貨店】
- 7回 6、モダン都市の光と闇 【新中間層】 【細民】
- 第二部 「都市化」する農村の暮らし
- 8回 7、開発される個の欲望 【色を身に纏うこと】 【温かな食物を食うこと】
- 9回 8、消費と農村生活の矛盾 【現金収入】 【養蚕】
- 10回 9、商人の論理と農民の論理の狭間で 【資本主義】
- 11回 10、「親子心中」という問題 【解体される共同体】
- 12回 11、孤立する貧困 【家】 【新たな貧困】
- 13回 12、「都市」のなかの農村へ
- 14回 13、現代日本と「海」の向こうの農村
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 ... 80% 授業中の小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容・アウトラインに関するレジュメは一切配布しないので、よく聴きノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 経済学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的

歴史の面白さを、特定の人物を中心として学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

第1回 開講に当たって講義の目的と方針ならびに評価の方法について

第2回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか

第3回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史

第4回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領

第5回 「ラスト・サムライ山岡鉄舟と幕末・明治」「上杉鷹山と儒教的経営」

第6回 「保科正之と江戸幕府」「親鸞と平安・鎌倉時代」

第7回 「聖徳太子と飛鳥・奈良時代」

第8回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史

第9回 「ガンディ」の映画鑑賞

第10回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?

第11回 私のイギリス案内-ビュートリックス・ポターと湖水地方のナショナルトラスト運動

第12回 M.ケインズと世界恐慌-ロシア人バレリーナとの恋愛を中心に-

第13回 サッチャーとビッグバン

第14回 ベバリッジと福祉国家

第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を重視する。具体的な方法については初日の開講時間に説明をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。
講義全体のキーワードは、エンドユーザ、情報セキュリティ、データベースです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 情報システムの利用者としての心得1【PDCAサイクル】
- 3回 情報システムの利用者としての心得2【バックアップ】、【リスク分析】
- 4回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 5回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】、【ビット】、【バイト】、【文字コード】
- 6回 ハードウェア【CPU】、【メモリ】、【HD】、【フラグメンテーション】
- 7回 ソフトウェア【OS】、【拡張子】
- 8回 ネットワークの仕組み【LAN】、【サーバ】、【ドメイン名】、【IPアドレス】
- 9回 データベースの基礎1【正規化】、【主キー】
- 10回 データベースの基礎2【SQL】
- 11回 データベースの基礎・まとめ
- 12回 情報セキュリティ対策1【ID】、【パスワード】、【セキュリティ対策】
- 13回 情報セキュリティ対策2【SSL】、【クッキー】、【ファイル交換ソフト】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。情報社会において必要な知識を習得するとともに、コンピュータの基礎操作の訓練を行います。また、表計算ソフトを活用した情報処理技術について学習します。
講義全体のキーワードは、Excel、タイピング、電子メール、ネチケットです。

教科書 /Textbooks

『エンドユーザのための情報基礎』FOM出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市立大学の利用環境【ID】、【パスワード】、【グループウェア】
- 2回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 3回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 4回 情報倫理【セキュリティ対策】、【SSL】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 表・グラフ作成1【セル】、【罫線】、【列幅】、【書式】、【計算式】
- 6回 表・グラフ作成2【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 7回 表・グラフ作成3【グラフウィザード】
- 8回 表・グラフ作成4【グラフ編集】
- 9回 表・グラフ作成・まとめ
- 10回 表計算1【SUM】、【MAX】、【MIN】、【AVERAGE】
- 11回 表計算2【IF】
- 12回 表計算3【COUNTIF】
- 13回 表計算4【VLOOKUP】
- 14回 表計算・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施するExcelの課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作を経験し、タイピング練習をしておく受講しやすくなります。
また、テキストはよく読んでおいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とイギリス文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化と英米文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方・Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本文化とアメリカ文化
ねらい：① 英語教材を通して、日本文化とアメリカ文化の異同を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義・他
クラス /Class: 比人夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with learners: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Saslow, J. and Ascher, A., "Top Notch: English for today's world. Student book 2," Pearson Education, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Greetings and small talk
- 3回 Explain local customs
- 4回 Ask about a person's experiences
- 5回 Movies and entertainment
- 6回 Discuss preferences
- 7回 The effect of violence on viewers
- 8回 Cars and driving
- 9回 Get service at a service station. International driving rules.
- 10回 Psychology and personality
- 11回 Determine your personality type
- 12回 Impact of birth order on personality
- 13回 Enjoying the arts
- 14回 Discuss your favorite artists
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on attendance (25%), homework (25%), tests (25%), and effort speaking English in class (25%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 英比人夜 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか？」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか？」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks
 「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習 (1)
- 2回 一学期に習ったことの復習 (2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
 (出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか?【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか?【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか?【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む)... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
 キーワード・・・ 仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I (CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞ester, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords